

第2期平塚市スポーツ 推進計画

～誰もが いつまでも健康で

スポーツに親しめる ひらつか～



平塚市教育委員会

はじめに

近年、価値観の多様化により、ゆとりや心の豊かさを求める傾向が高まるとともに、競技志向からレクリエーション志向までスポーツの楽しみ方も広がっています。

スポーツには、未来を担う青少年の健全育成や、人間関係が希薄となった地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造など様々な効果が期待されています。

このようなスポーツが持つ効果に着目し、国は平成 23 年（2011 年）にスポーツ基本法を制定するとともに、平成 24 年（2012 年）には、「スポーツ基本計画」を策定し、広く人々がスポーツに参画することができる環境を整備するため、様々な取組みを行っています。

本市におきましても、国等の動きを踏まえ、本市が取り組むスポーツ施策を示す「第 2 期平塚市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

本計画では、「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」を目標に掲げ、市民の誰もが生涯にわたってスポーツを楽しみ、いつまでもいきいきとした生活を送ることができるまちづくりを推進します。そして、新型コロナウイルス感染症の影響下で東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地として培った経験を踏まえ、本市がスポーツを通して元気なまちとなる、ひとつの契機と捉え、市民、スポーツ関係団体、大学、プロスポーツチームやトップアスリート、行政のそれぞれが連携・協働しながらスポーツの推進に積極的に取り組み、一層本市のスポーツ活動を活性化させてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心に御議論いただいた「平塚市スポーツ推進審議会」の皆様をはじめ、アンケート調査やパブリックコメントにて御意見や御協力をいただきました市民の皆様、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

令和 6 年 5 月

平塚市長 落合克宏

目次

第1章	計画の概要	2
1	計画策定の趣旨	2
(1)	計画策定の趣旨	2
(2)	スポーツの意義	3
2	計画策定の背景	4
(1)	国等の動向	4
3	計画の位置づけ	5
4	計画の期間	6
第2章	現状と課題	8
1	本市を取り巻く状況	8
(1)	人口の推移	8
(2)	生活習慣病患者の割合	9
(3)	要介護（要支援）認定者の状況	9
2	本市を取り巻くスポーツ環境	11
(1)	スポーツ関係団体の存在	11
(2)	大学の存在	13
(3)	プロスポーツチームの存在	13
3	本市のスポーツの現状と課題	14
(1)	「する」スポーツの現状と課題	14
(2)	「みる」スポーツの現状と課題	29
(3)	「ささえる」スポーツの現状と課題	32
(4)	スポーツ施設の現状と課題	36
(5)	スポーツに関する情勢の現状と課題	42
第3章	計画の方向性と取組み	46
1	平塚市の目指す姿	46
2	計画の体系	46
3	見直し後の施策の展開	49
基本目標1	生涯スポーツの推進	50
(1)	成人のスポーツ機会の充実	51
(2)	子どものスポーツ機会の充実	54

(3) 高齢者のスポーツ機会の充実.....	56
(4) 障がい者のスポーツへの参加促進.....	58
(5) 新たなスポーツ実施機会の創出.....	60
基本目標 2 地域スポーツの推進.....	61
(6) 地区体育・スポーツの普及・発展.....	62
(7) ニュースポーツ・レクリエーションの普及.....	63
(8) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援.....	64
(9) 大学などとの連携強化.....	65
基本目標 3 トップスポーツの推進.....	66
(10) 地元トップアスリートの輩出.....	67
(11) 湘南ベルマーレとの連携強化.....	69
(12) スポーツ指導者の発掘と活用.....	71
(13) トップスポーツの活用.....	73
基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり.....	75
(14) スポーツ施設等の充実.....	76
(15) スポーツ情報の提供の充実.....	78
第 4 章 スポーツ推進計画の実現に向けて.....	81
1 計画の推進体制.....	81
(1) スポーツ関係団体などとの連携による推進.....	81
(2) 庁内連携による推進.....	82
2 計画の進行管理.....	83
3 計画指標.....	84
第 5 章 資料編.....	89
1 アンケート調査概要.....	89
2 策定経過.....	108
3 平塚市スポーツ推進審議会委員名簿.....	109

第1章

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨

(1) 計画策定の趣旨

本市が取り組むスポーツ施策を示す「平塚市スポーツ推進計画」は平成 26 年 2 月に策定しましたが、計画の進捗状況や社会情勢の変化によって平成 30 年 3 月の中間年に施策の見直しを行い、計画の目標である「スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか」を推進しました。本計画期間は 10 年間のため、令和 4 年度末に改めて市民のスポーツの現状を把握するためアンケートを実施し、新たなスポーツにおける課題を抽出し取り組みを進めるため東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会や新型コロナウイルス感染症等の影響、内外の社会情勢を踏まえ、計画の策定を行いました。

本市の総人口は、2010 年をピークに減少傾向に転じており、2024 年 1 月 1 日現在 258,500 人となっています。平塚市総合計画での「人口の将来展望」では、2040 年の総人口は、約 23 万 3 千人となり、2070 年の総人口は、約 14 万 7 千人になり、人口減少は年々加速していく推計となっています。

このことから、人口減少を緩和するための施策を本格的に進めていく必要があり、前計画で健康長寿（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の指標として用いた「健康寿命」と「平均寿命」の差は縮めていくため、健康づくり等の取り組みがさらに重要となっています。

市民が体力や年齢、目的、身体状況に合わせて、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といった様々な形に加え、国が策定した第 3 期スポーツ基本計画からの新たな視点「つくる はぐくむ」、「あつまり つながる」、「誰もがアクセスできる」を取り入れることでスポーツに参加できる環境を整えることが必要です。

さらに、核家族化や単身世帯の増加により、地域の人間関係が希薄になっていると言われる中、地域でのスポーツ活動を通じて、人と人とが交流を深めることは地域コミュニティを醸成し、地域活動の活性化につながると考えられます。

このような社会・生活環境の変化を踏まえ、市民のスポーツ活動を活性化するためには、行政だけでなく、スポーツ関係団体¹、大学、トップスポーツ²などが連携・協働しながらスポーツ施策を推進することが必要です。

¹ 平塚市スポーツ協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚レクリエーション連盟、平塚市スポーツクラブ連合などの団体のこと。

² プロスポーツを含むトップレベルのスポーツやトップアスリートのこと。

(2) スポーツの意義

スポーツには、勝利を得ることや記録や技能の向上を目的とした競技スポーツだけではなく、年齢や性別、障がいの有無などに関わらずそれぞれの状況に応じてスポーツを楽しむ生涯スポーツがあり、次のように社会生活において大きな意義を持つと考えられます。

ア スポーツを楽しむことは体力の向上だけではなく、満足感や喜び、爽快感をもたらすことから、市民の心身の健康の保持増進、生活の質の向上が図られ、市民がいつまでも元気でいきいきとした生活を送ることに寄与します。

イ スポーツは体力の向上とともに他人を思いやる心、フェアプレー精神や克己心を培うとともに、自ら学び、考える力を育むなど、青少年の健全育成に大きく寄与します。

ウ スポーツを通じた交流は、市民同士の交流を深めるとともに、地域コミュニティの醸成の一助となり、地域社会の活性化に効果を発揮します。

エ トップスポーツは、市民に誇りや喜び、夢や感動を与え、市民の活力を創出します。

このように生涯にわたってスポーツを楽しむことは、極めて大きな意義があります。市民の誰もが生涯にわたってスポーツを楽しみ、いつまでも健康でいきいきとした生活を送ることができる社会の実現に向けて、本計画を策定します。

～本計画におけるスポーツの定義～

本計画では、スポーツを幅広く捉え、競技スポーツ、生涯スポーツ、学校体育³だけでなく、レベルや内容、目的に関わらず行う運動をスポーツとして扱うこととします。

なお、本計画では各課が行う事業の内容などに合わせ、「スポーツ」と「運動」の2つの表現を使用しています。

³ 学校の管理のもとで身体運動を用いて、計画的に行われる教育活動のこと。

2 計画策定の背景

(1) 国等の動向

国では平成 23 年にスポーツ基本法が制定され、翌年にはスポーツ基本法に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、スポーツ基本計画が策定されました。スポーツ基本計画は国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針となるもので、平成 29 年には第 2 期スポーツ基本計画が策定されました。さらに、令和 4 年には第 3 期スポーツ基本計画が策定されました。第 3 期スポーツ基本計画では、地方公共団体には、国民やスポーツ団体等のスポーツ活動を支援するため、第 3 期計画を参酌し、新たな 3 つの視点「つくる はぐくむ」、「あつまり つながる」、「誰もがアクセスできる」を取り入れつつ、地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツの施策を主体的に実施するとともに、健康増進、共生社会の実現、経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに関係部局・団体が一体となって取り組むことを期待するとしています。

神奈川県では、国に先んじて平成 16 年に神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」を策定、また、平成 28 年には県民のスポーツに対する機運を一過性のものとせず、県全体で確実にスポーツの推進を図り、誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことができる地域社会を実現していくため、スポーツ関連施策を集約して、スポーツ行政をより効果的・一体的に推進するために新たにスポーツ局を設置しました。さらに、令和 6 年にはスポーツ局と業務の関連性・親和性が高い国際文化観光局とを統合し、効果的・効率的な執行体制を確保するため、文化スポーツ観光局となり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツ活動を推進するため、スポーツ課内に健康・パラスポーツ推進室を設置しました。

なお、平成 29 年には「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、県民をはじめ、市町村やスポーツ関係団体などと連携・協働し、スポーツを推進するよう、県が総合的かつ計画的に取り組む施策を示した「神奈川県スポーツ推進計画」を策定し、令和 5 年に第 3 期スポーツ基本計画を踏まえ見直しをしました。

本市では、平成 26 年にスポーツ推進計画を策定し、約 10 年が経過しました。直近の大きな出来事として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、平成 28 年にリトアニア共和国オリンピック委員会と、平成 30 年に同国パラリンピック委員会と事前キャンプに関する協定を締結しました。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして国から登録を受け、様々な交流を実施してきました。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後も同大会のホストタウンとして培ったつながりを大切に「リトアニアウィーク 2023」を開催するなど交流を続けています。こうした社会情勢の変化に対応するため、国等の動向も踏まえ、「平塚市スポーツ推進計画」の施策の策定を実施いたしました。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形で市民がスポーツに携わることで、本市のスポーツ参画人口を拡大し、「平塚市スポーツ推進計画」の目標である「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」を目指し、スポーツを通じた活力ある社会づくりを実現します。

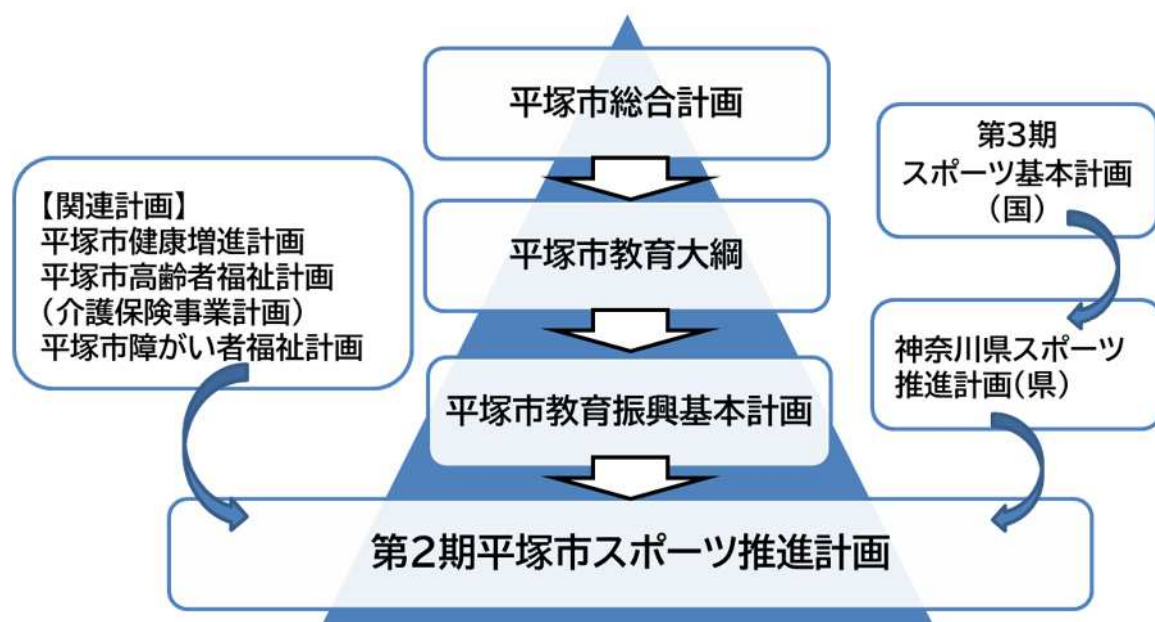
3 計画の位置づけ

本計画は、国のスポーツ基本法の目的・基本理念を踏まえ、同法第10条に規定する地方スポーツ推進計画として、「スポーツ基本計画」を参酌しながら、本市が取り組むスポーツ施策を示すものです。

さらに、「平塚市総合計画⁴」及び「平塚市教育大綱⁵」「平塚市教育振興基本計画⁶」を補完し、「生涯にわたる学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ環境を充実する」ために、市民、スポーツ関係団体、行政などが取り組む行動計画としての位置付けも有します。

そのほか、「神奈川県スポーツ推進計画」を勘案して定め、市民のスポーツを主体とした健康増進や疾病予防、共生社会の実現などの観点から、「平塚市健康増進計画⁷」、「平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画）⁸」、「平塚市障がい者福祉計画⁹」との整合性も図るものです。

図 1-1 平塚市スポーツ推進計画の位置づけ



⁴ 本市の行財政運営を総合的、計画的に進めるための基本となる指針を示した本市の最上位計画のこと。

⁵ 地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めたもの。

⁶ 市民の学びをいかした生涯学習社会の実現を基本理念とした市の教育全体を包括する計画のこと。

⁷ 生活習慣病予防に重点を置き、介護を必要とせず、健康で自立した生活を送ることができる期間の延伸や、生活の質の向上の実現を目指す計画のこと。

⁸ 長寿社会を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまちを目指す計画のこと。

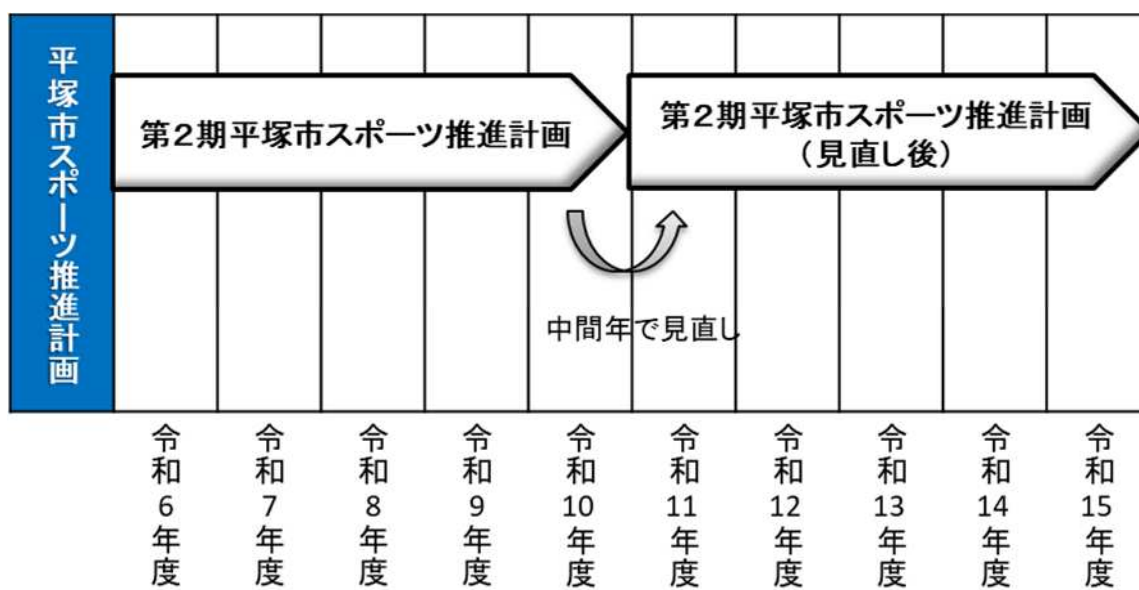
⁹ 障がいのある人もない人も、ともにいきいきと生活するまちを目指す計画のこと。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和15年度までの10年間とし、中間年には計画の進捗状況を踏まえ、見直しを行います。

また、本計画の進捗状況や社会情勢などの変化によっては、必要に応じて見直しを行います。

図 1-2 計画の期間



第2章

第2章 現状と課題

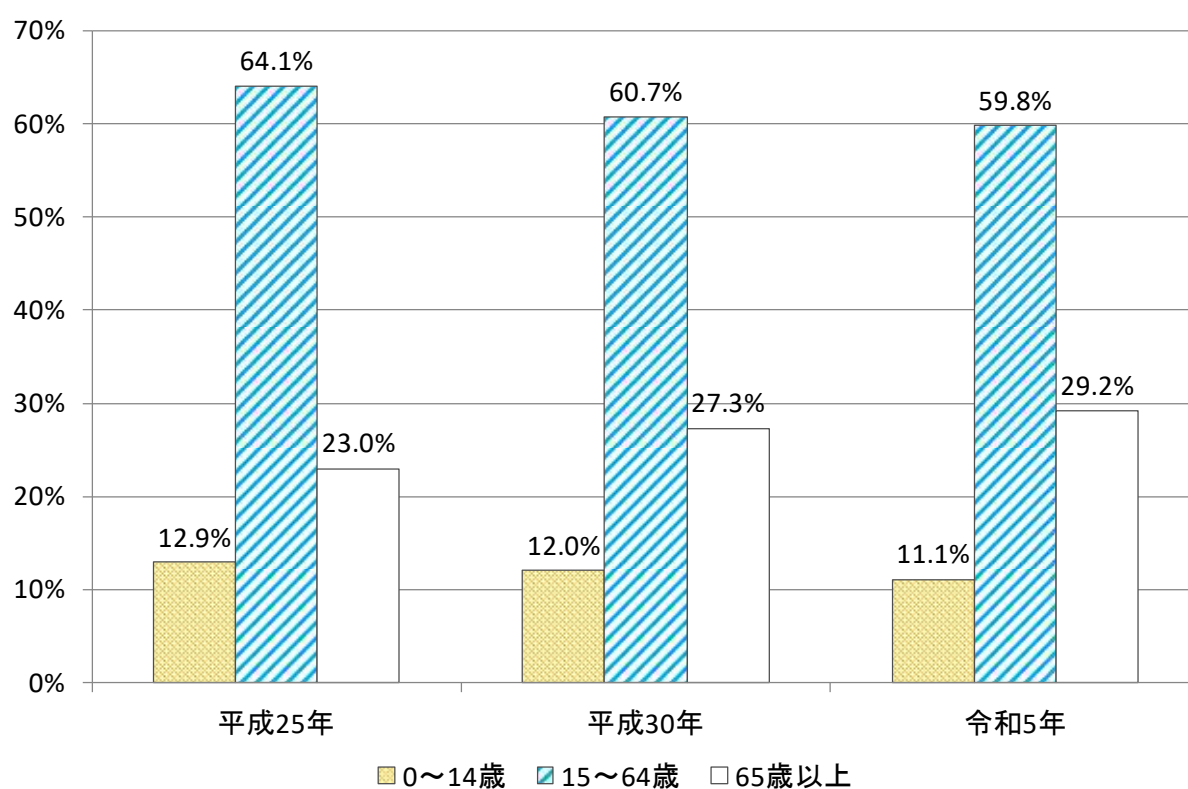
1 本市を取り巻く状況

(1) 人口の推移

本市の人口は、令和5年（2023年）1月1日時点で257,649人¹⁰、人口構成は年少人口（0～14歳）が11.1%の27,898人、生産年齢人口（15歳～64歳）が59.8%の150,732人、老年人口（65歳以上）が29.2%の73,533人となっています（図2-1）。今後、将来的に本市の人口は減少すると見込まれ、3区分別では、年少人口及び生産年齢人口は減少を続け、老年人口は増加し、少子高齢化が進むものと推測されます。

このことから、増加する高齢者、次代を担う子ども¹¹たち、社会・経済の中心を担う勤労者世代が、それぞれの状況に応じてスポーツに取り組むことが大切です。

図2-1 年齢3区分別人口の推移



出典：平塚市資料

¹⁰ 令和5年（2023年）1月1日時点における住民基本台帳に登録された人口（年齢不詳5,486人を含む）

¹¹ このスポーツ推進計画では、「スポーツ基本計画」を参考とし、高校生までを子どもと定義する。

(2) 生活習慣病患者の割合

国民健康保険に加入している市民で病院を受診した人（40 歳以上 75 歳未満）に占める生活習慣病患者の割合は、51.6%となっています（図 2-2）。生活習慣病の多くは不健全な生活の積み重ねが原因となって引き起こされるもので、健康や長寿の最大の阻害要因になると考えられており、前計画時の 48.7%よりも増加しています。

図 2-2 医療機関受診者のうち生活習慣病のある人の割合

（国民健康保険加入者 令和 4 年度）



出典：保険年金課調べ

(3) 要介護（要支援）認定者の状況

令和 2 年 9 月末日現在の要介護者数は 11,798 人です。そのうち、第 1 号被保険者認定者数は 11,507 人で認定率は 15.93%で、前年の同時期よりも 0.17 ポイント上昇しています。また、高齢化の進行により要介護（要支援）認定者が高齢化人口に占める割合も増加が見込まれます（表 2-1）。

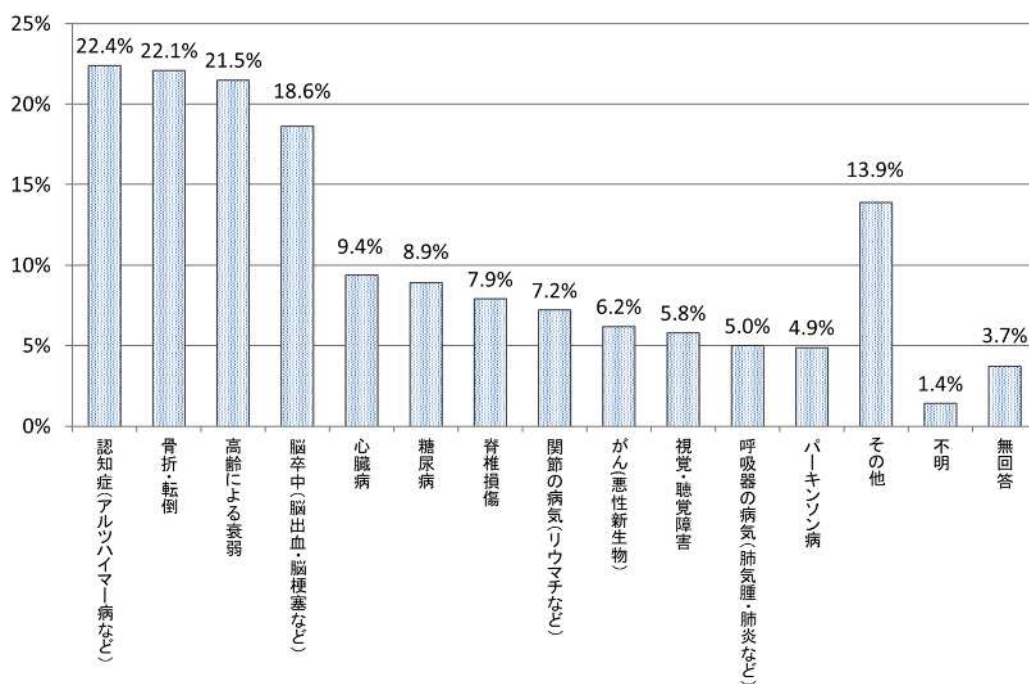
また、介護が必要となった主な原因は、1 位が「認知症」、2 位が「骨折・転倒」、3 位が「高齢による衰弱」となっています（図 2-3）。

表 2-1 要介護者等の状況（各年度 9 月末日現在）

	平成29年 9月	平成30年 9月	対前年比	令和元年 9月	対前年比	令和2年 9月	対前年比
要介護者数(総数)	10,932	11,248	102.9%	11,513	102.4%	11,798	102.5%
要支援1	1,233	1,349	109.4%	1,334	98.9%	1,341	100.5%
要支援2	1,100	1,169	106.3%	1,223	104.6%	1,299	106.2%
要介護1	2,351	2,436	103.6%	2,423	99.5%	2,518	103.9%
要介護2	2,142	2,163	101.0%	2,300	106.3%	2,375	103.3%
要介護3	1,543	1,646	106.7%	1,756	106.7%	1,841	104.8%
要介護4	1,399	1,404	100.4%	1,405	100.1%	1,449	103.1%
要介護5	1,164	1,081	92.9%	1,072	99.2%	975	91.0%
第1号被保険者認定者数	10,677	10,995	103.0%	11,251	102.3%	11,507	102.3%
要支援1	1,217	1,336	109.8%	1,313	98.3%	1,321	100.6%
要支援2	1,071	1,133	105.8%	1,183	104.4%	1,257	106.3%
要介護1	2,298	2,384	103.7%	2,379	99.8%	2,474	104.0%
要介護2	2,088	2,101	100.6%	2,232	106.2%	2,295	102.8%
要介護3	1,506	1,614	107.2%	1,718	106.4%	1,802	104.9%
要介護4	1,372	1,380	100.6%	1,380	100.0%	1,411	102.2%
要介護5	1,125	1,047	93.1%	1,046	99.9%	947	90.5%
第1号被保険者認定率	15.37%	15.83%		16.20%		16.57%	
要支援1	1.75%	1.92%		1.89%		1.90%	
要支援2	1.54%	1.63%		1.70%		1.81%	
要介護1	3.31%	3.43%		3.43%		3.56%	
要介護2	3.01%	3.03%		3.21%		3.30%	
要介護3	2.17%	2.32%		2.47%		2.59%	
要介護4	1.98%	1.99%		1.99%		2.03%	
要介護5	1.62%	1.51%		1.51%		1.36%	
第1号被保険者数	69,445	70,485		71,375		72,225	

出典：平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画第8期）

図 2-3 介護が必要になった主な原因



出典：平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画第8期）

2 本市を取り巻くスポーツ環境

(1) スポーツ関係団体の存在

本市には、平塚市スポーツ協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚レクリエーション連盟、平塚市スポーツクラブ連合などのスポーツ団体が様々な活動を行い、本市のスポーツ活動の活性化を図っています。

ア 平塚市スポーツ協会(令和4年度に平塚市体育協会から平塚市スポーツ協会に改称)

平塚市スポーツ協会は、市民及び各団体のスポーツの普及・発展に寄与することを目的に、昭和25年(1950年)に発足しました。現在、26の団体が加盟しており、市民総合体育大会¹²を始めとした各種スポーツ大会の競技運営や本市スポーツ選手の競技力強化、スポーツ指導者に対する講習会を行うなど、本市スポーツの振興に努めています(表2-2)。

表2-2 平塚市スポーツ協会加盟団体(26団体)

卓球協会	野球協会	ソフトテニス協会
陸上競技協会	柔道協会	バレーボール協会
山岳協会	剣道連盟	射撃協会
水泳協会	空手道連盟	バスケットボール協会
ソフトボール協会	スキー協会	体操協会
テニス協会	バドミントン協会	サッカー協会
弓道協会	ボウリング協会	なぎなた協会
ヨット協会	ゲートボール協会	ゴルフ協会
太極拳協会	ラグビーフットボール協会	

令和3年度末に「自転車協会」が脱退し、現在26団体となる。

イ 平塚市体育振興連絡協議会

平塚市体育振興連絡協議会は、地区体育振興にかかわる連絡調整ならびに研修活動を図り、もって地区体育の普及・発展を図ることを目的に昭和37年(1962年)に発足しました。大原地区を除く市内公民館区24地区に体育振興会が設けられており、それぞれの地区でスポーツ・レクリエーションイベントなどを実施することで、スポーツの普及に努めています(表2-3)。

表2-3 平塚市体育振興連絡協議会地区体育振興会一覧(24地区)

崇善地区	港地区	花水地区	松原地区	富士見地区	神田地区
岡崎地区	金目地区	中原地区	豊田地区	金田地区	城島地区
土屋地区	吉沢地区	南原地区	横内地区	なでしこ地区	真土地区
四之宮地区	八幡地区	松が丘地区	旭南地区	旭北地区	大神地区

¹² スポーツを愛好する多くの市民にスポーツ活動の機会を提供し、スポーツを通じて健康明朗な心身の育成を図るとともに、地域住民相互の親睦を図ることを目的に開催される市民のスポーツの祭典。市内24地区対抗で各種目の総得点を競う正式種目が15種目、18競技、得点対象外の公開種目が6種目で行われている。

ウ 平塚市スポーツ推進委員協議会

平塚市スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき教育委員会から委嘱される非常勤公務員で、教育委員会から推薦を受けた委員や小学校区（分校を除く）を単位とした全 28 地区から推薦を受けた委員によって構成されています。それぞれのスポーツ推進委員が各地区におけるスポーツ振興のための助言や協力などを行っています。また、スポーツの推進に関する関係機関との連絡調整やスポーツ推進委員の資質向上を図ることなどを目的とし、平塚市スポーツ推進委員協議会を設けています（表 2-4）。

表 2-4 平塚市スポーツ推進委員地区割一覧（28 地区）

崇善地区	港地区	松原地区	富士見地区	花水地区
旭地区	松延地区	勝原地区	山下地区	四之宮地区
真土地区	八幡地区	中原地区	南原地区	豊田地区
神田地区	大神地区	横内地区	城島地区	岡崎地区
金田地区	土屋地区	吉沢地区	金目地区	みずほ地区
なでしこ地区	松が丘地区	大原地区		

エ 平塚レクリエーション連盟

平塚レクリエーション連盟は、市内のレクリエーション団体相互の連絡を図るとともに、健康で明るい郷土の建設と豊かな市民生活の向上に寄与することを目的に、昭和 51 年（1976 年）に発足しました。現在、3 つの団体が加盟しており、それぞれの団体がレクリエーションの普及に努めています（表 2-5）。

表 2-5 平塚レクリエーション連盟加盟団体一覧（3 団体）

平塚ママさんバレーボール協会	平塚市女性卓球連盟
平塚フォークダンス協会	

オ 平塚市スポーツクラブ連合

平塚市スポーツクラブ連合は、スポーツクラブの育成及び相互の連絡調整、情報交換を通して生涯スポーツの一層の普及振興を目的に、昭和 62 年（1987 年）に発足しました。現在、4 種目が加盟しており、子どものスポーツを中心とした地域スポーツの推進を図っています（表 2-6）。

表 2-6 平塚市スポーツクラブ連合加盟種目一覧（4 種目）

野球	サッカー	バレーボール	剣道
----	------	--------	----

(2) 大学の存在

本市には、理工系から情報系、社会・人文科学、そしてスポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な 11 学部、大学院が併設された湘南キャンパスを置く東海大学があります。大学が有する専門的知識や優れた人材を活用できる環境が充実しています。

令和 4 年度末に神奈川大学湘南ひらつかキャンパスの学科が横浜市へ完全移転しましたが、学生等の人材活用は、一部継続しています。



東海大学

東海大学

(3) プロスポーツチームの存在

本市では、本市にホームスタジアムを置く湘南ベルマーレ¹³を始め、横浜 DeNA ベイスターズ¹⁴、横浜ビー・コルセアーズ¹⁵がホームゲームを開催しており、トップスポーツに触れる機会が充実しています。



湘南ベルマーレ



横浜 DeNA ベイスターズ



横浜ビー・コルセアーズ

¹³ 日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟する J クラブの 1 つ。平塚市を含む 9 市 11 町をホームタウンとする。

¹⁴ 日本プロ野球球団の 1 つ。バッティングパレス相石スタジアムひらつかで 2 軍戦を年間約 20 試合行う。

¹⁵ 日本プロバスケットボールリーグ（Bリーグ）に所属するチームの 1 つ。トッケイセキュリティ平塚総合体育館で年間約 4 試合を行う。

3 本市のスポーツの現状と課題

本市では、広く市民の意見・要望を把握し、前計画からの継続性の把握とともに今後のスポーツ政策の参考にすることを目的に、令和5年（2023年）3月に20歳から79歳までの市民の中から無作為で抽出した3,000人を対象に「平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査」（有効回答数975人、回答率32.5%）を実施しました。ここでは、本調査の結果を中心に各種調査や統計を参考にしながら、本市のスポーツの現状を、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツの係わり方について3つの視点で分析するとともに、「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」という新たな3つの視点を取り入れてスポーツの実践に欠かせない「施設」や「情報」について分析しました。

（1） 「する」スポーツの現状と課題

「する」スポーツの現状と課題については、前計画と同様に「成人、子ども、高齢者、障がい者」の3世代及び心身の状況に分類し、各データを基に考察しました。

ア 成人のスポーツ

本市における成人の週1回以上のスポーツ実施率は69.5%となっており、国の52.4%と県の48.8%と比較すると高くなっています。平成30年度に実施したアンケート調査時の55.4%から大幅に上昇しています。年代別割合では、20歳代から40歳代の週1回以上のスポーツ実施率が全体平均に比べて低くなっています（図2-4）。また、本市におけるスポーツ未実施率は、21.5%で、平成30年度に実施したアンケート調査時の21.2%より0.3ポイント高くなっており（図2-5）、スポーツ実施者と未実施者の二極化が進んでいる傾向がみられます。

「スポーツをしていない理由」では、「仕事（家事・育児を含む）が忙しいから」が25.2%と最も高く、年代別では30歳代で一番高く60%となっており、仕事や育児が忙しい世代がスポーツに取り組む時間がとれていないことがうかがえます（表2-7）。

また、運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものとして挙げられた回答をみると、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」、2位が「仲間、家族などからの誘い」、3位が「健康意識（ダイエット含む）への啓発」でした（図2-6）。同じ目的を持つ仲間がいることは、自宅から近距離にある公民館や学校体育施設の利用等により一緒にスポーツに取り組む仲間づくりが必要です。

1年間に行った運動・スポーツとして挙げられた回答をみると、1位が「ウォーキング」、2位が「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む）」、3位が「室内運動器具（ダンベル等）を使用した運動」、4位が「サイクリング」でした（図2-7）。また、今後行いたい運動・スポーツとして挙げられた回答をみると、1位が「ウォーキング」、2位が「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む）」、3位が「卓球・バドミントン」、4位が「水泳」でした（図2-8）。いずれの回答にも「ウォーキング」「体操（ストレッチ・ラジオ体操・縄跳び含む）」が上位に挙がっており、これらの気軽にできるスポーツに関心が高いことがうかがえます。また、これらは個人でもできる取り組みやすい運動です。年代別でも割合が高く、特に高齢世代で最も高い割合になっています（表2-8）。「ウォーキング」等の取り組みやすい運動の割合が高いことは、スポーツ未実施

者にとっても、日常的運動習慣への関心が高い結果と考えられます。日常的運動習慣への関心が高いにも関わらず、スポーツ未実施率が増加傾向にあるため、各世代が置かれている状況に合ったスポーツをする機会を提供することが重要になります。

一方、総合型地域スポーツクラブ¹⁶については、「知らない」と答えた人が80.5%で、平成30年度アンケート調査時よりも増加しています（図2-9）。しかしながら、総合型地域スポーツクラブに望むことでは、「安価な料金設定・明瞭な料金体系である」が36.7%、「安心・安全に配慮し親しみやすい組織運営がされている」が32.1%で高くなっています（図2-10）。

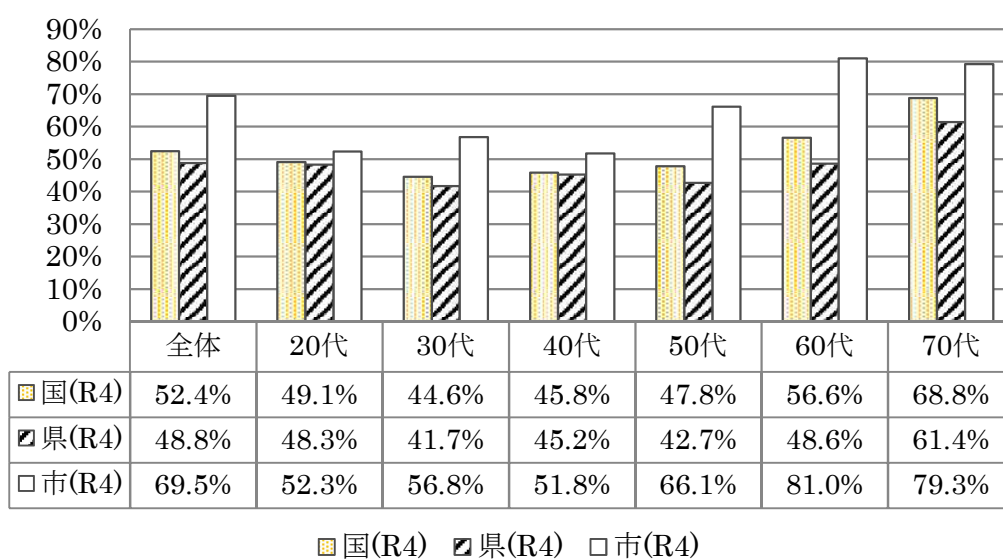
本市には港スポーツクラブ、NPO法人湘南ベルマーレスポーツクラブ、湘南ハイビースの3つの総合型地域スポーツクラブがあり、総合型地域スポーツクラブは、地域において、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たすものとして、国が推奨しているところです。また、少子化により、地域のスポーツチーム活動の継続が困難なことや中学校の運動部活動の存続に支障をきたすなどの課題解決の役割を果たすこと、さらに多年齢の多様な趣向に対応できることなどから、その存在をもっとPRする必要があります。

（公財）平塚市まちづくり財団が行っているスポーツ教室の参加者数をみると、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ教室が開催できない時期がありましたが、令和4年度にはおよそ6,000人が参加しています。その数は回復傾向にあることから（図2-12）、継続してスポーツ教室を充実させる必要があります。

市民が継続的にスポーツに取り組むことで健康保持増進を図ることができるよう、また、楽しみながらスポーツに取り組めるよう工夫しながら、それぞれの興味・関心に応じて積極的にスポーツに取り組む機会を充実することが求められます。

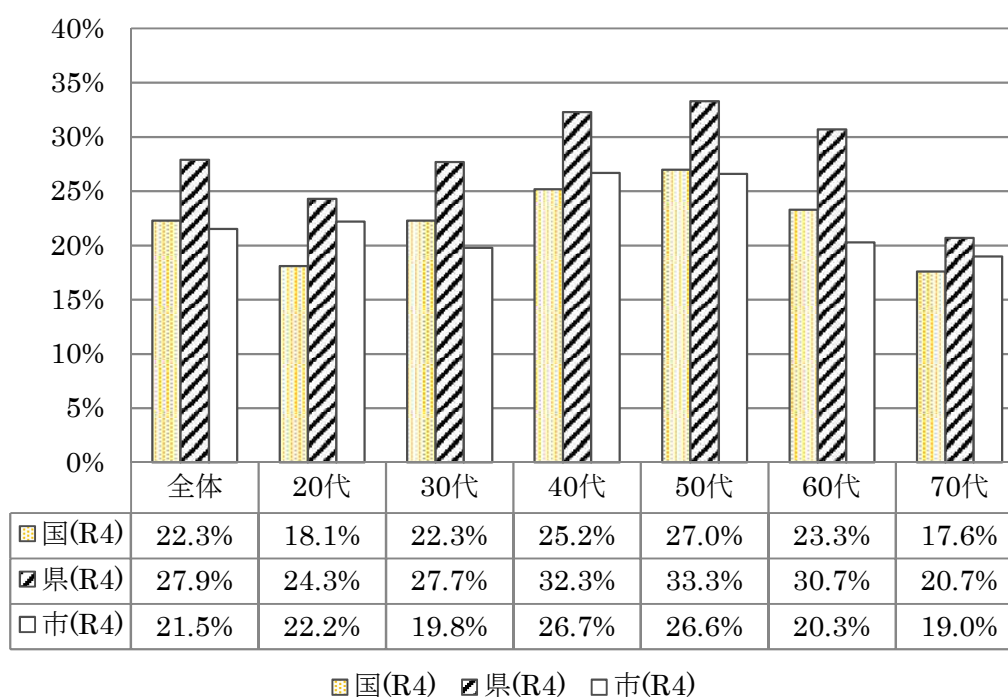
¹⁶ 人々が、身近な地域でスポーツを楽しむことができるスポーツクラブで、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々がそれぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されている。

図 2-4 週 1 回以上のスポーツ実施率



出典：令和 4 年度スポーツに関する世論調査、令和 4 年度県民の体力・スポーツに関する調査、
令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査 スポーツ課にて加工

図 2-5 スポーツ未実施率



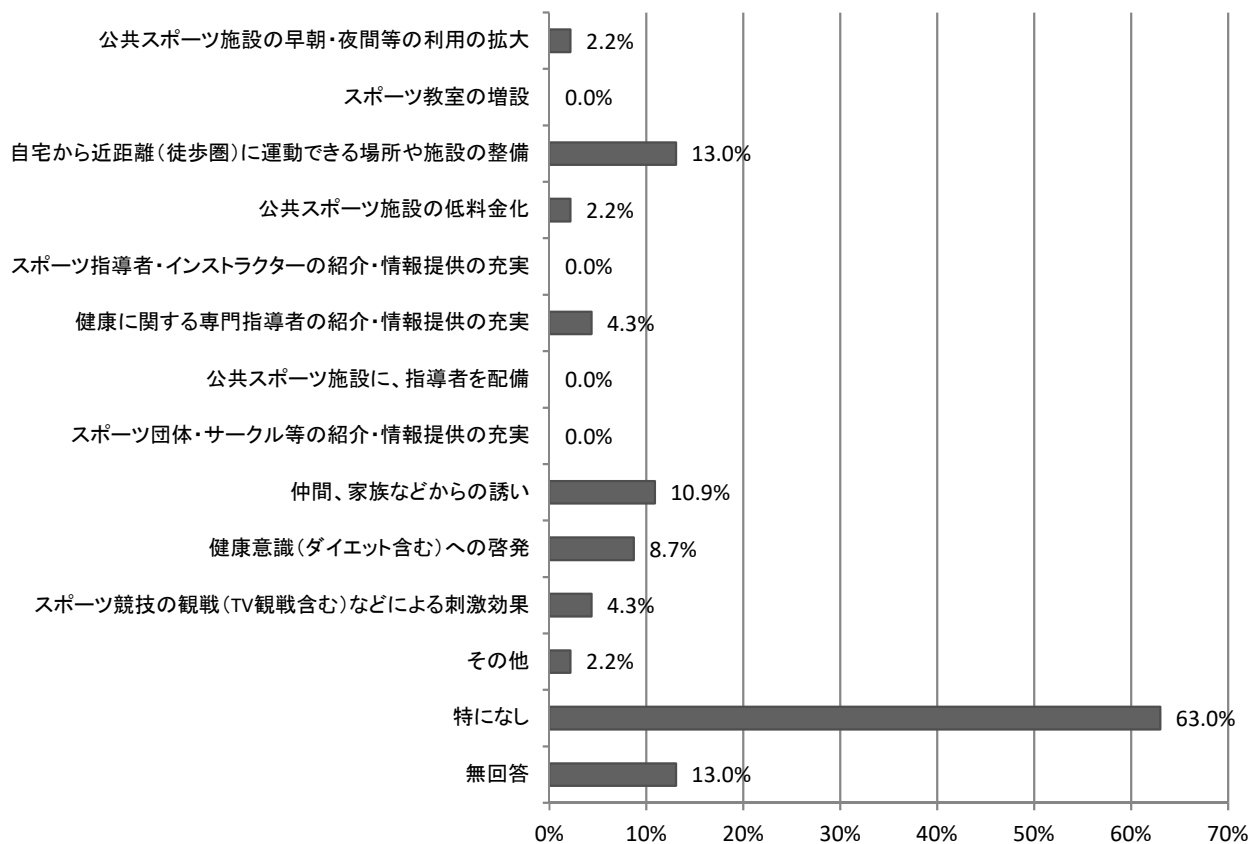
出典：令和 4 年度スポーツに関する世論調査、令和 4 年度県民の体力・スポーツに関する調査、
令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査 スポーツ課にて加工

表 2-7 スポーツをしていない理由

属性		項目	仕事が忙しい	体力がない	歳を取った	場所や施設がない	施設が利用しづらい	仲間がいない	指導者がいない	補助者・介護者がいない	お金がかかる	運動・スポーツが嫌い	スポーツをする機会がない	その他	特になし	無回答
全体			25.2%	16.7%	15.7%	5.2%	3.8%	7.6%	1.0%	0.0%	6.2%	5.2%	13.3%	6.7%	5.7%	42.4%
性別 年代別	男性		21.4%	13.1%	14.3%	3.6%	2.4%	7.1%	1.2%	0.0%	4.8%	3.6%	11.9%	4.8%	9.5%	46.4%
	女性		28.0%	19.2%	16.8%	6.4%	4.8%	8.0%	0.8%	0.0%	7.2%	6.4%	14.4%	8.0%	3.2%	39.2%
	20代		41.7%	8.3%	8.3%	16.7%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	41.7%
	30代		60.0%	15.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	35.0%	5.0%	5.0%	25.0%
	40代		45.2%	16.1%	0.0%	9.7%	3.2%	12.9%	3.2%	0.0%	16.1%	6.5%	19.4%	9.7%	6.5%	32.3%
	50代		26.7%	6.7%	11.1%	2.2%	4.4%	6.7%	2.2%	0.0%	6.7%	0.0%	13.3%	4.4%	2.2%	57.8%
	60代		17.9%	20.5%	15.4%	5.1%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	5.1%	10.3%	2.6%	5.1%	46.2%
	70代		4.9%	24.6%	32.8%	3.3%	1.6%	9.8%	0.0%	0.0%	3.3%	6.6%	6.6%	9.8%	9.8%	37.7%

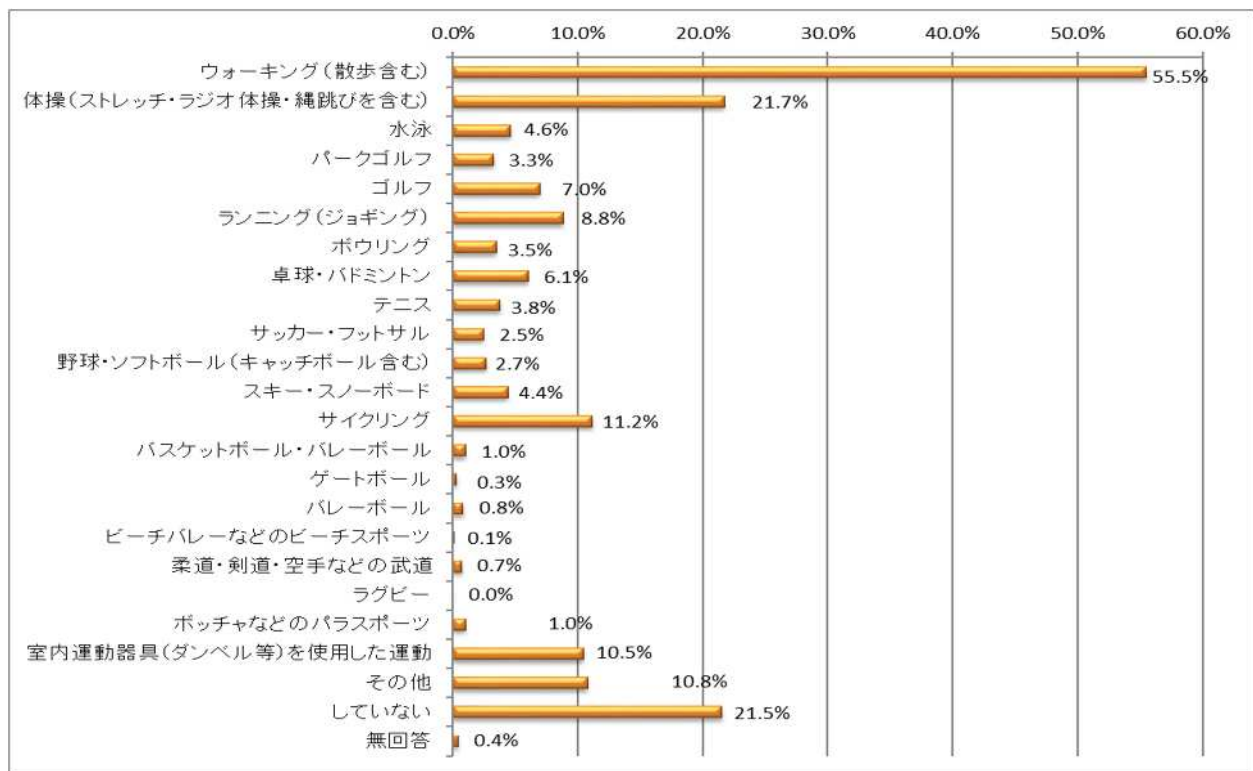
出典：令和4年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-6 運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなもの



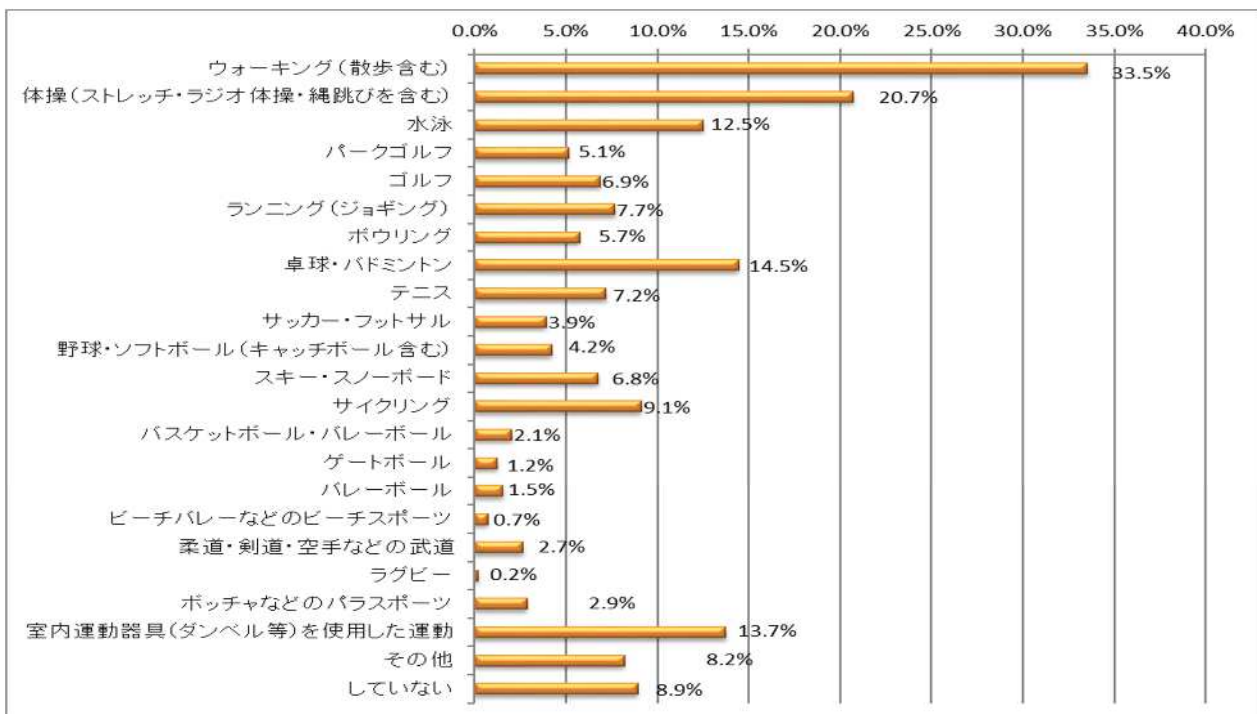
出典：令和4年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-7 1 年間で 30 分以上行った運動・スポーツ



出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-8 今後行いたい運動・スポーツ



出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

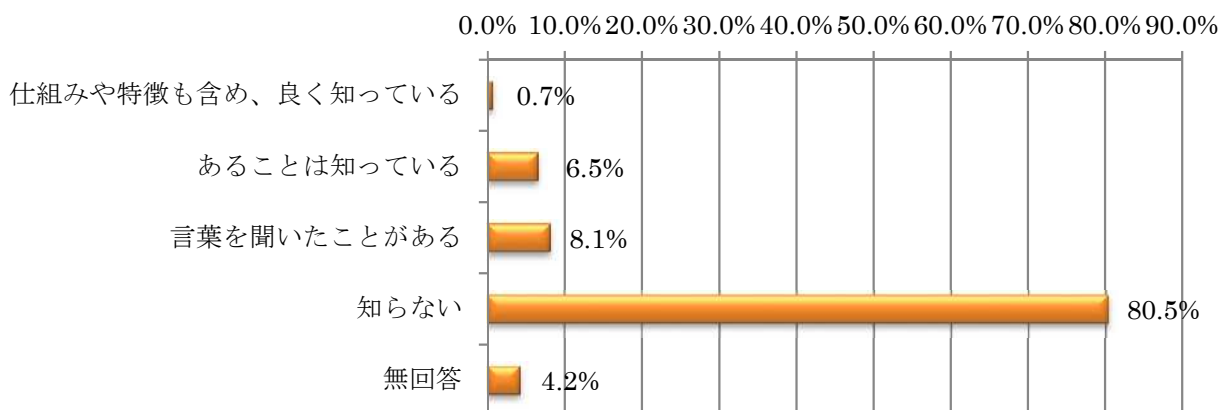
表 2-8 今後行いたい運動・スポーツ（年代別）

属性		項目	ウォーキング	体操	水泳	パークゴルフ	ゴルフ	ランニング	ボウリング	卓球・バドミントン	テニス	サッカー・フットサル	野球・ソフトボール	スキー・スノーボード
全体			33.5%	20.7%	12.5%	5.1%	6.9%	7.7%	5.7%	14.5%	7.2%	3.9%	4.2%	6.8%
性別 年代別	男性		31.2%	10.2%	10.4%	5.9%	10.2%	11.3%	6.6%	11.1%	7.5%	7.0%	8.1%	7.5%
	女性		35.3%	29.2%	14.6%	4.4%	4.0%	4.8%	5.2%	17.5%	7.1%	1.3%	1.0%	6.3%
	20代		9.3%	9.3%	11.1%	1.9%	7.4%	11.1%	3.7%	22.2%	11.1%	16.7%	9.3%	14.8%
	30代		17.8%	10.9%	16.8%	0.0%	3.0%	17.8%	6.9%	20.8%	12.9%	6.9%	12.9%	13.9%
	40代		29.3%	15.5%	16.4%	0.9%	10.3%	7.8%	5.2%	6.0%	8.6%	7.8%	2.6%	6.9%
	50代		28.4%	18.3%	14.2%	3.0%	8.3%	5.9%	5.9%	13.0%	8.9%	3.6%	6.5%	8.9%
	60代		37.5%	31.3%	14.1%	7.8%	9.4%	4.7%	5.2%	18.2%	7.3%	1.6%	0.5%	5.2%
	70代		45.5%	23.7%	9.0%	8.7%	4.7%	5.9%	6.5%	11.5%	2.8%	0.3%	1.9%	1.6%

属性		項目	サイクリング	バスケットボール	ゲートボール	バレーボール	ビーチスポーツ	柔道・剣道・空手などの武道	ラグビー	ボッチャなどのパラスポーツ	室内運動器具を使用した運動	その他	行いたくない	無回答
全体			9.1%	2.1%	1.2%	1.5%	0.7%	2.7%	0.2%	2.9%	13.7%	8.2%	8.9%	11.8%
性別 年代別	男性		12.0%	1.8%	1.1%	1.6%	0.9%	3.2%	0.2%	1.6%	14.5%	8.1%	10.2%	10.6%
	女性		6.7%	2.1%	1.3%	1.5%	0.6%	2.3%	0.2%	3.8%	13.1%	8.4%	8.1%	11.9%
	20代		11.1%	3.7%	0.0%	5.6%	0.0%	1.9%	1.9%	1.9%	11.1%	11.1%	9.3%	9.3%
	30代		7.9%	5.9%	0.0%	4.0%	3.0%	4.0%	1.0%	2.0%	13.9%	7.9%	13.9%	5.9%
	40代		11.2%	1.7%	0.0%	1.7%	1.7%	3.4%	0.0%	3.4%	12.1%	13.8%	13.8%	7.8%
	50代		7.7%	1.2%	0.0%	0.6%	0.6%	4.7%	0.0%	2.4%	15.4%	10.1%	8.3%	15.4%
	60代		14.1%	1.6%	0.5%	1.0%	0.5%	2.6%	0.0%	2.6%	18.2%	4.7%	4.2%	9.9%
	70代		6.5%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	3.4%	10.3%	7.2%	9.3%	14.3%

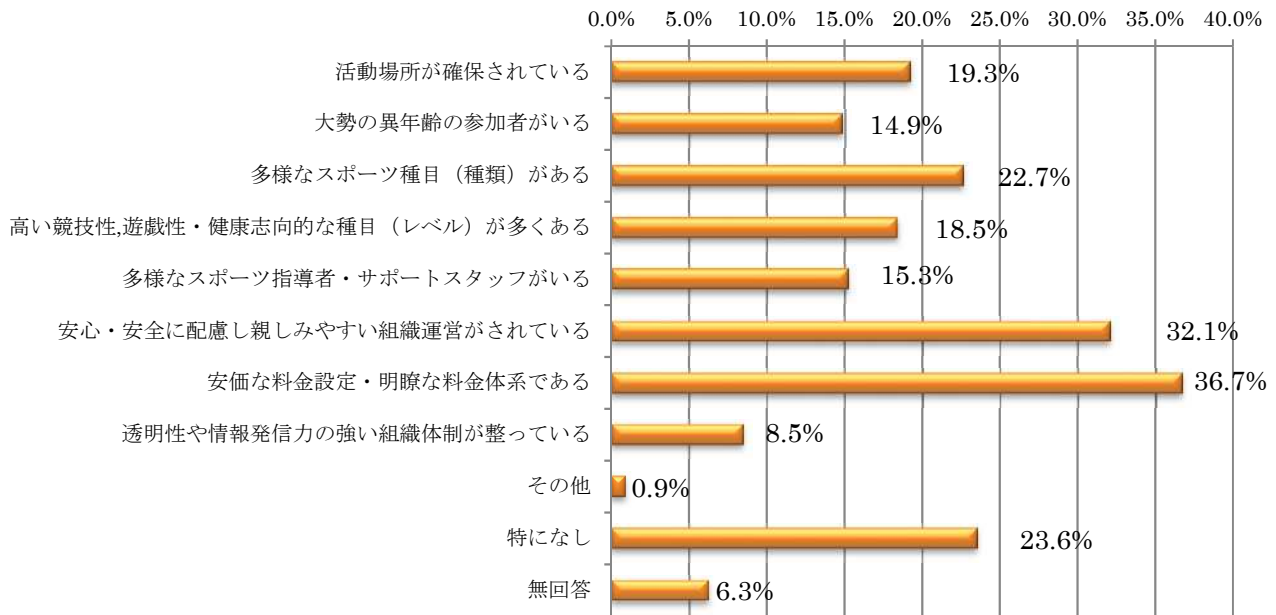
出典：令和4年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-9 総合型地域スポーツクラブへの参加意向



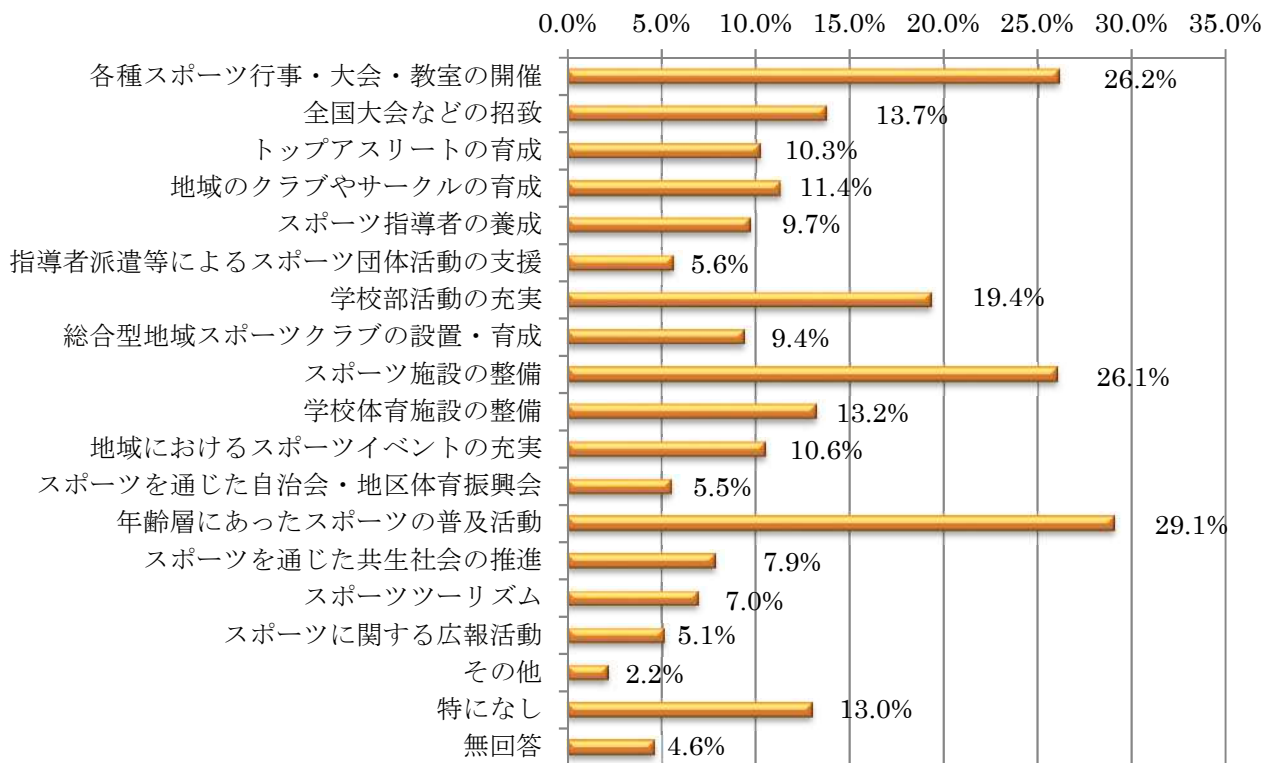
出典：令和4年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-10 総合型地域スポーツクラブに望むこと



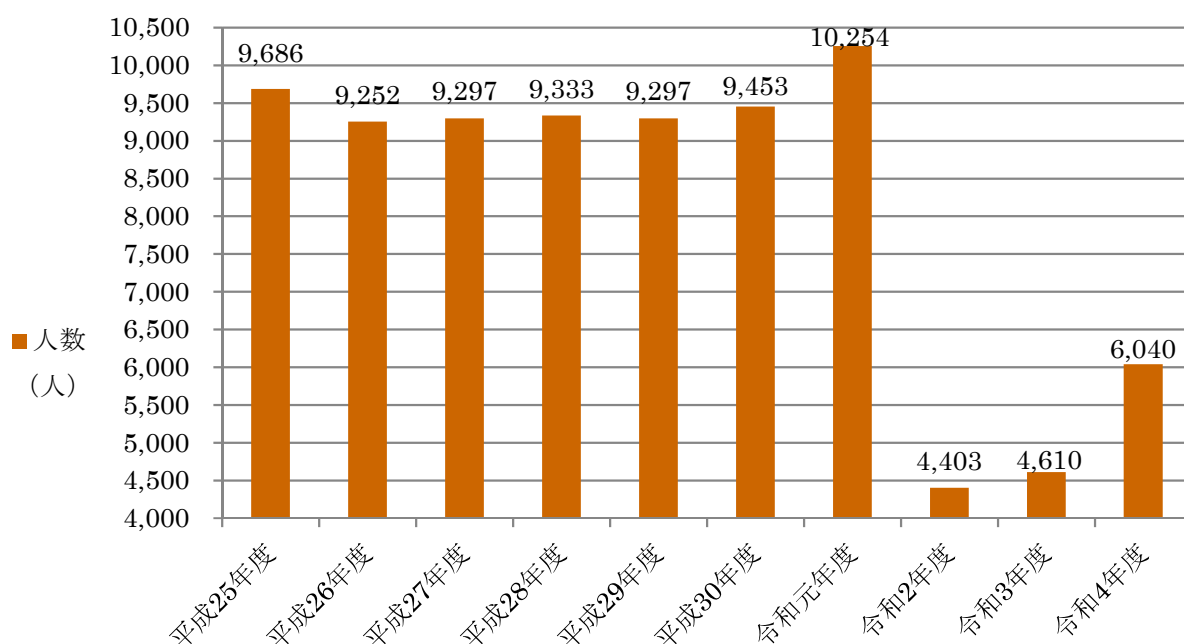
出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-11 本市のスポーツ振興に期待すること



出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-12 (公財) 平塚市まちづくり財団のスポーツ教室の参加者数



出典：(公財) 平塚市まちづくり財団から提供資料

イ 子どものスポーツ

「令和4年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」によると、神奈川県の子どもの体力・運動能力は、新体力テスト¹⁷の各テスト項目の合計点の平均値を全国平均値と比較すると、すべての年齢において下回っています(図2-13)。週3日以上の実施状況では、全ての年齢において女子と比較して男子の方が高く、男女とも中学生(12歳～14歳)が他の年齢と比較して高い傾向にあり、全く運動をしていない割合は、男女とも7歳以降から減少していますが、11歳以降で増加傾向にあります(図2-14)(図2-15)。

小学5年生及び中学2年生を対象とした「全国体力・運動能力調査」によると、令和4年度は、運動する運動しないに関わらず、点数は男子と比較して女子の方が高いです。さらに、週の運動日数が多いほど点数は高い傾向にあります(図2-16)(図2-17)。

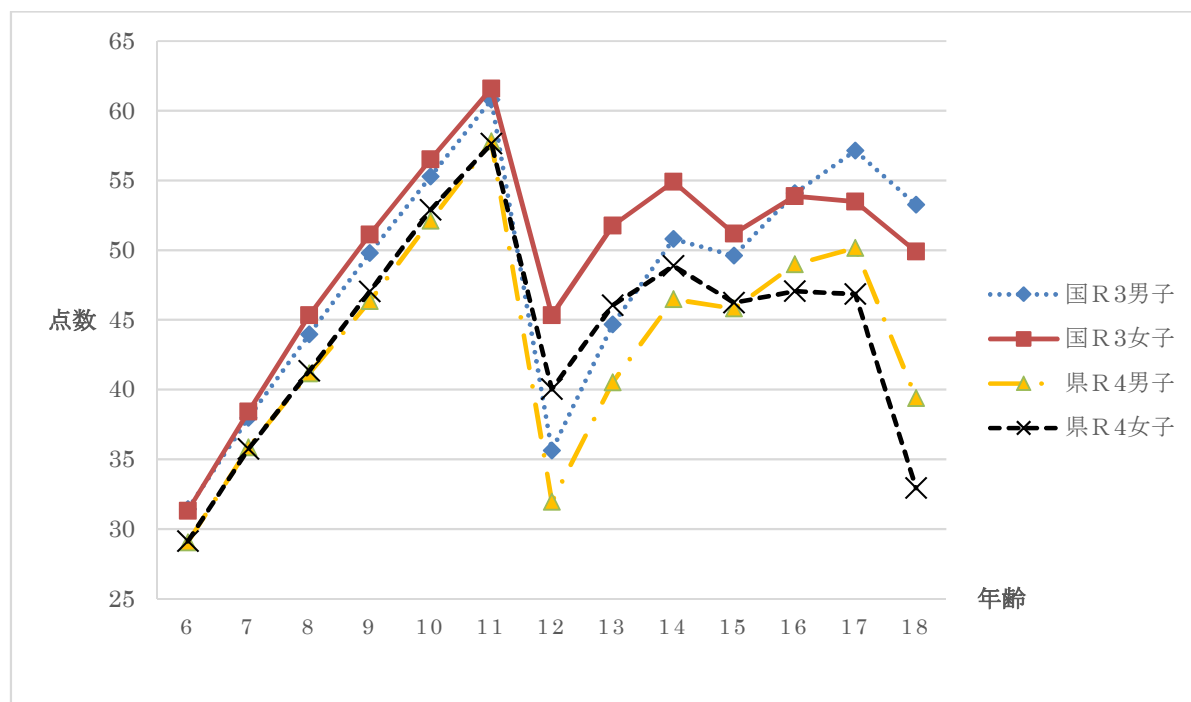
また、本市の児童生徒数に占める少年少女スポーツ大会・スポーツ教室参加者数の割合は、令和元年度の終わりから新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数の割合が激減しましたが、

¹⁷ スポーツ庁が6～79歳までの男女を対象に体力・運動能力を調査するため行う体力テスト。6～11歳(小学生)、12～19歳(青少年)のテスト項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(12～19歳は20mシャトルランと持久走を選択実施)、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ(12～19歳はハンドボール投げ)で、項目別の記録を得点化して、その合計を総合評価基準表によりA～Eの5段階で総合評価をする。

徐々に回復の傾向にあります（図 2-18）。令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症の影響により、各大会が概ね中止となっているため、その割合が低くなっています。

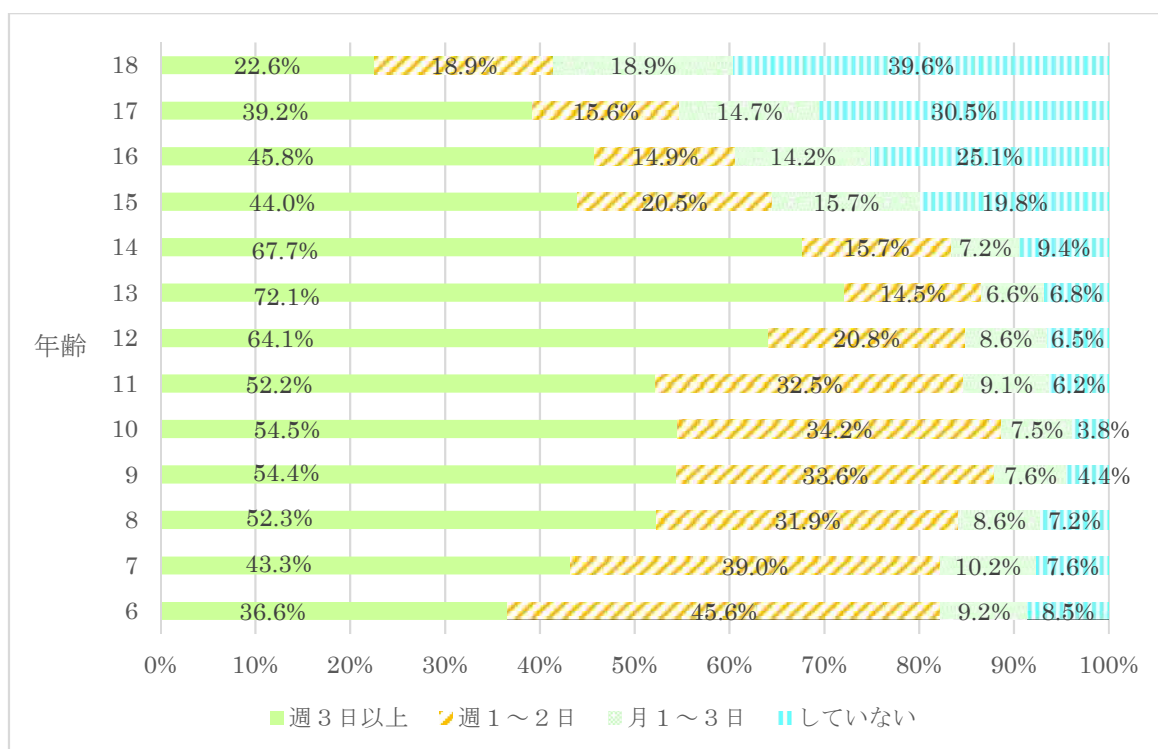
運動頻度の増加は子どもの体力向上に繋がることから、子どものスポーツを楽しむ習慣やスポーツへの意欲を高める必要があります。子どもの体力向上のため、スポーツに取り組む機会や学校体育を充実させたり、運動部活動の在り方について検討したりしていくことが求められます。

図 2-13 児童生徒の体力・運動能力の平均値（合計得点）



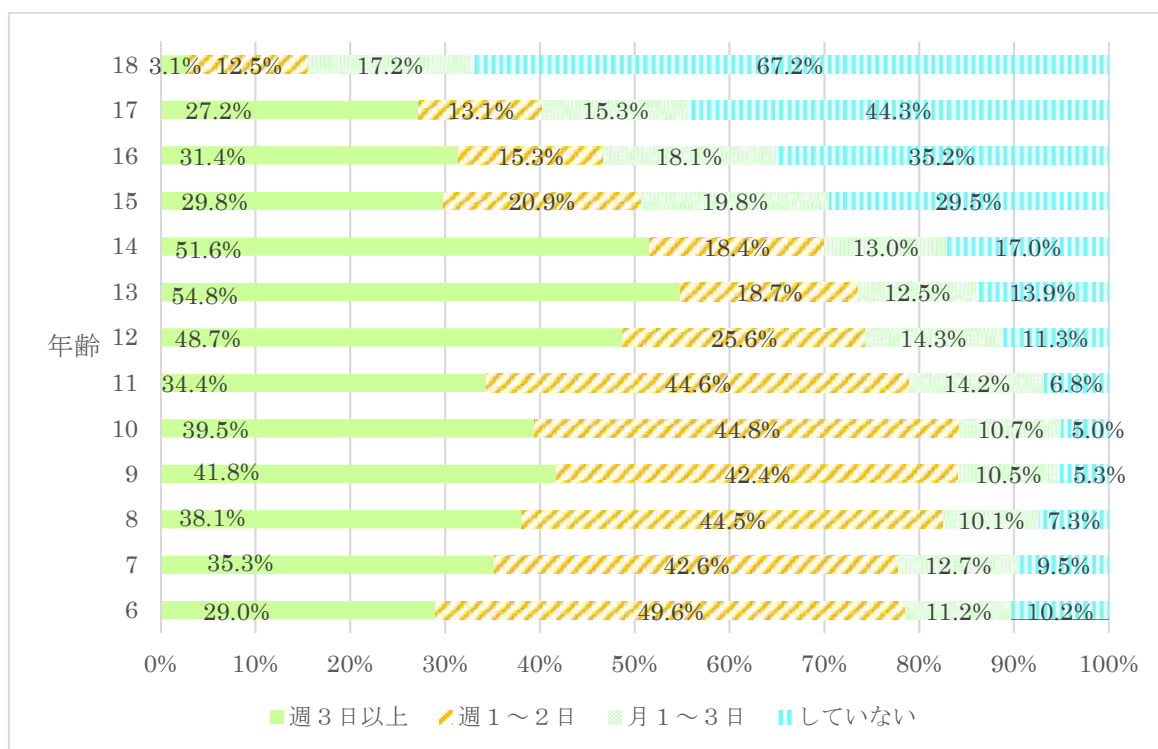
出典：令和 4 年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

図 2-14 運動・スポーツの実施状況（男子）



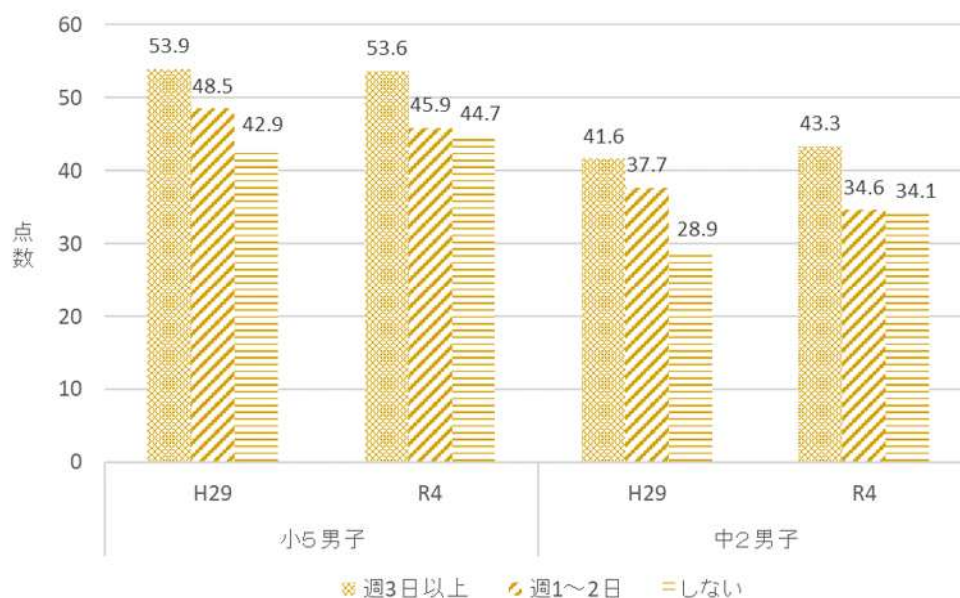
出典：令和4年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

図 2-15 運動・スポーツの実施状況（女子）



出典：令和4年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査

図 2- 16 平塚市体力・運動能力調査における平成 29 年度との比較（男子）



（各年度の数値は体力合計の平均点）

出典：全国体力・運動能力調査、運動習慣調査（平塚市教育委員会） スポーツ課にて加工

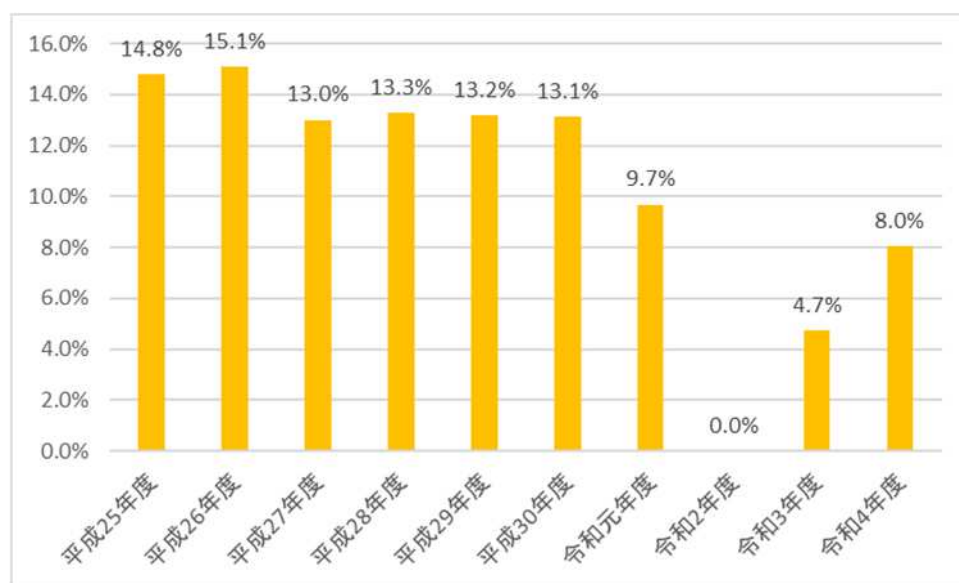
図 2- 17 平塚市体力・運動能力調査における平成 29 年度との比較（女子）



（各年度の数値は体力合計の平均点）

出典：全国体力・運動能力調査、運動習慣調査（平塚市教育委員会） スポーツ課にて加工

図 2- 18 本市の児童生徒に占める少年少女スポーツ大会・スポーツ教室の参加者数の割合



出典：社会体育要覧及び統計書（平塚市教育委員会・平塚市） スポーツ課にて加工

ウ 高齢者のスポーツ

今後、高齢化の進行により要介護（要支援）認定者数が増加することが見込まれています（P.10 表 2- 1）。介護が必要となった主な原因は、「認知症」が最も高く、次いで「骨折・転倒」、他には「高齢による衰弱」などがあります。（P.10 図 2- 3）。「高齢による衰弱」や「骨折・転倒」などの加齢に伴う身体機能、生活機能の低下によるものが高傾向にあることから、健康なうちから介護予防の運動に取り組み、身体機能を維持することが必要です。

本市の週 1 回以上のスポーツ実施率を年代別でみると、60 歳代が最も高く 81.0%となっており、次いで 70 歳代の 79.3%と続きます（P.16 図 2- 4）。「スポーツをしていない理由」で、「仕事（家事・育児を含む）が忙しいから」と回答した割合は 20 歳代から 40 歳代で 40%以上になっているのに対して、60 歳代では 17.9%、70 歳代では 4.9%に下がっています（P.17 表 2- 7）。これは定年退職などによる余暇時間の増大が影響しているものとうかがえます。

「今後、行いたい運動」で、「ウォーキング（散歩含む）」と回答した 60 歳代の割合は 37.5%、70 歳代の割合は 45.5%と高く（P.19 表 2- 8）、高齢世代で取り組みやすい運動への高い関心がうかがえます。高齢者の増加に伴い、高齢者を対象とした健康事業への需要はさらに増加することが見込まれます。

スポーツは健康の保持増進だけではなく、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらし、生活の豊かさを向上させます。高齢者がいつまでも元気でいきいきとした生活を送ることができるよう、高齢者がスポーツに取り組む機会を充実することが求められます。

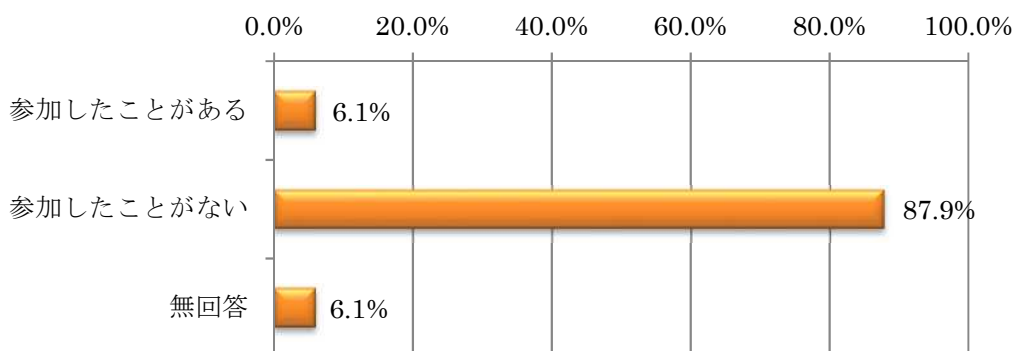
エ 障がい者のスポーツ

「障がい者スポーツの大会や普及啓発事業へ参加（観戦含む）したことがありますか」との回答では、「参加したことがない」と回答した割合が約 9 割となっており（図 2- 19）、また、「障がい者にとってスポーツを身近なものにするために必要なもの」の回答では、「障がい者が利用できるスポーツ施設」が 50.8%、「スポーツ施設のバリアフリー化」が 42.3%と施設整備の要望が高く更に、その他の回答項目についても比較的割合が高くなっています（図 2- 20）。これは障がい者スポーツの推進体制が十分でないことによる要望が高いことを示していると考えられます。

令和 4 年度スポーツ庁委託調査「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）報告書」によると、障がい者の週 1 日以上の実施率は 30.9%（週 3 日以上 16.9%+週 1～2 日 14.0%）（図 2- 21）で、国の一般（全体）の 52.4%（P.16 図 2- 4）と比較すると約 6 割になっています。また、過去 1 年間でスポーツを「行っていない」障がい者は 20 歳以上では 45.9%と高く、7 歳～19 歳では 36.0%と平成 30 年度の調査からは減っているものの、未だ子どもの頃からスポーツに親しめていない環境にあることがうかがえます。

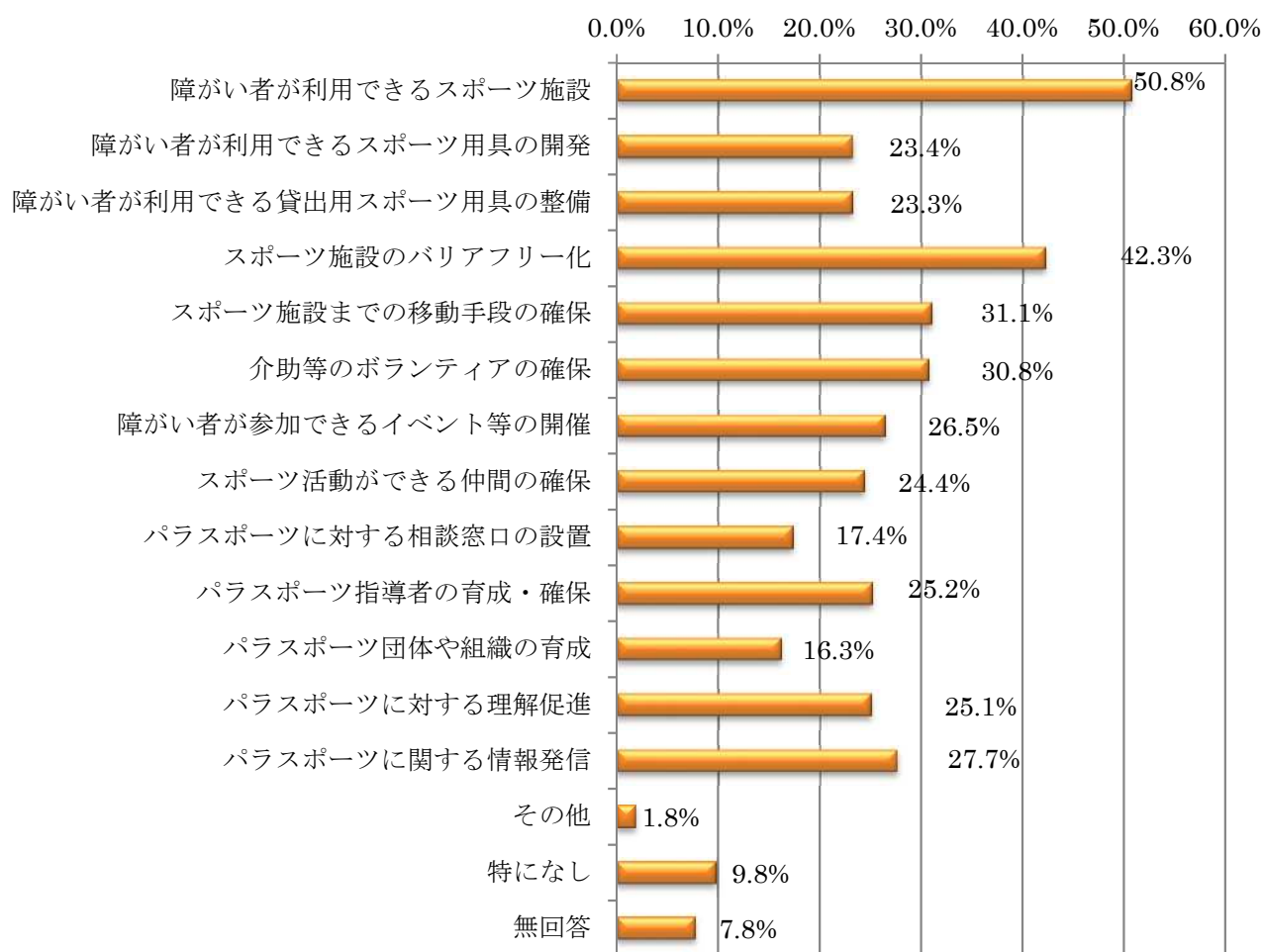
障がい者がスポーツに取り組むことは、心身の健康の保持増進や社会への参加機会の増加をもたらすことから、障がい者の生活の質の向上が期待されます。障がいの有無にかかわらず、それぞれの心身の状況に応じてスポーツを楽しむことができるよう、スポーツに取り組む機会を充実させるとともに、スポーツに取り組みやすい環境づくりが求められます。

図 2- 19 障がい者スポーツの大会や普及啓発事業への参加



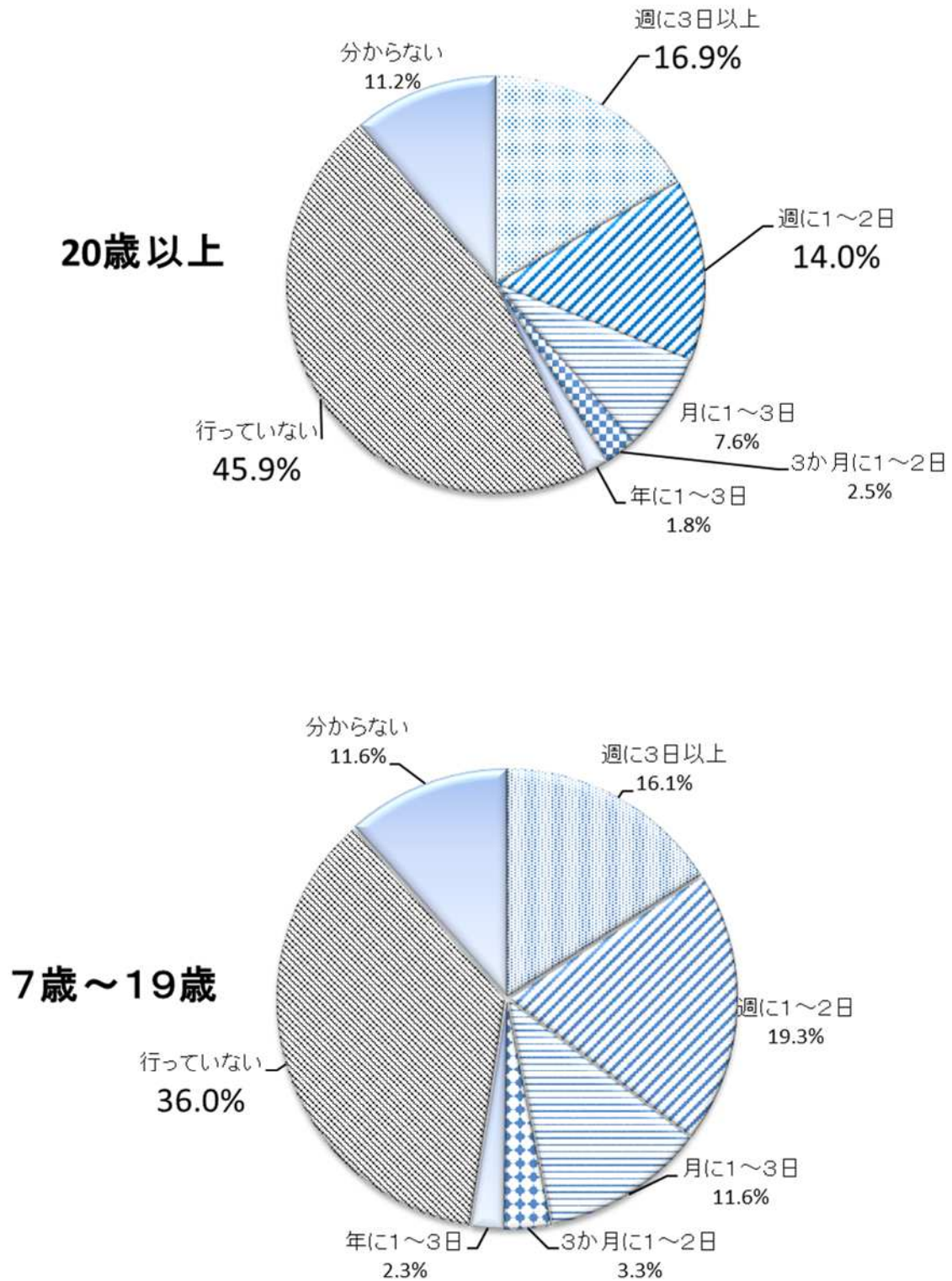
出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-20 障がい者にとってスポーツを身近なものにするために必要なもの



出典：令和4年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2- 21 障がい者のスポーツ実施率



出典：令和4年度スポーツ庁委託調査「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）報告書」 スポーツ課にて加工

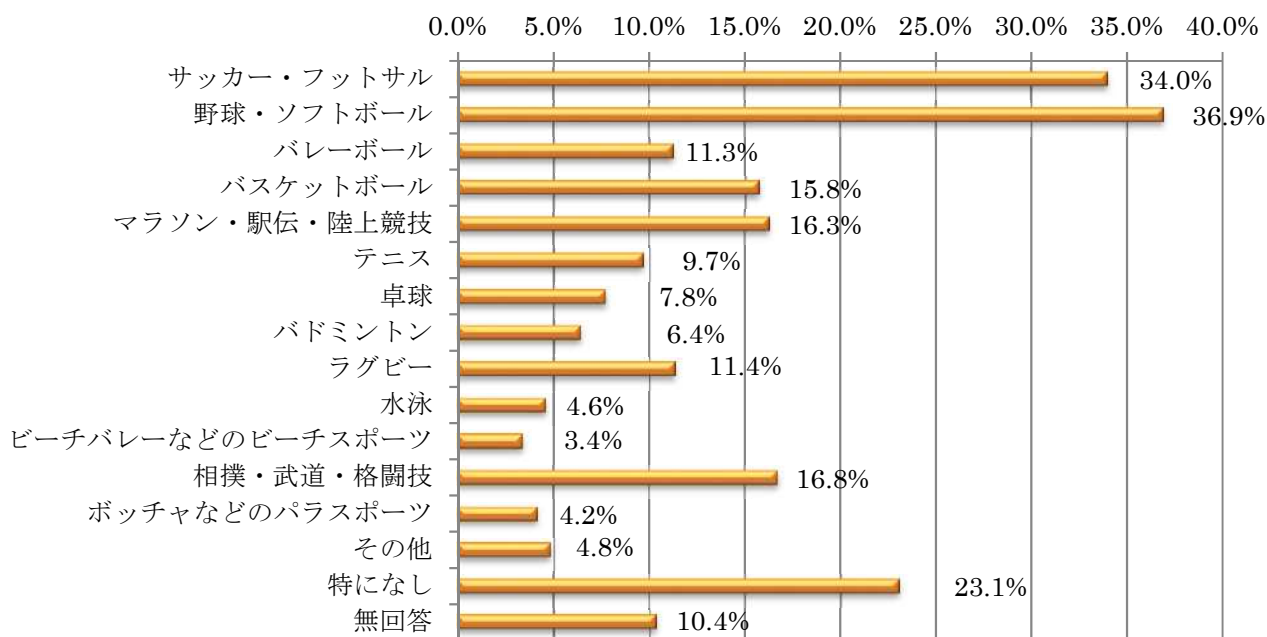
(2) 「みる」スポーツの現状と課題

観戦したいスポーツの1位が「野球・ソフトボール」、2位が「サッカー・フットサル」、3位が「相撲・武道・格闘技」、4位が「マラソン・駅伝・陸上競技」となっています（図 2-22）。本市は、湘南ベルマーレがホームスタジアムとするレモンガススタジアム平塚やバッティングパレス相石スタジアムひらつか、トッケイセセキュリティ平塚総合体育館などの大型スポーツ施設が総合公園に集約されています。これらの施設では、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズなどのトップスポーツの試合が行われています。また、本市を通る国道 134 号は東京箱根間往復大学駅伝競走や湘南国際マラソンのコースとなっており、様々なスポーツを観戦できる環境が整っています（表 2-9）。

トップスポーツの試合を生で観戦することは、普段の生活では体験できない臨場感や高揚感を味わうことができます。湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズの試合の令和 4 年度の総入場者数は約 19 万人となっています（表 2-10）。また、トップスポーツチームに望むことでは、試合における高いパフォーマンス、好成績が 40.9%、選手等との交流・ふれあいができるイベント事業の実施が 20.7%、積極的なファンサービスが 17.7%と高い割合になっています（図 2-23）。また、湘南ベルマーレの 1 試合平均入場者数は J リーグ（J1）の 1 試合平均入場者数と比べると下回っていることがわかります（図 2-24）。

「みる」スポーツは、年齢や体力などを問わず、比較的気軽にできるスポーツ参加です。市民のスポーツへの意欲や興味・関心を高めるため、トップスポーツの試合開催を誘致するとともに、トップアスリートと触れ合う機会を推進することが求められます。

図 2-22 観戦したいスポーツ



出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

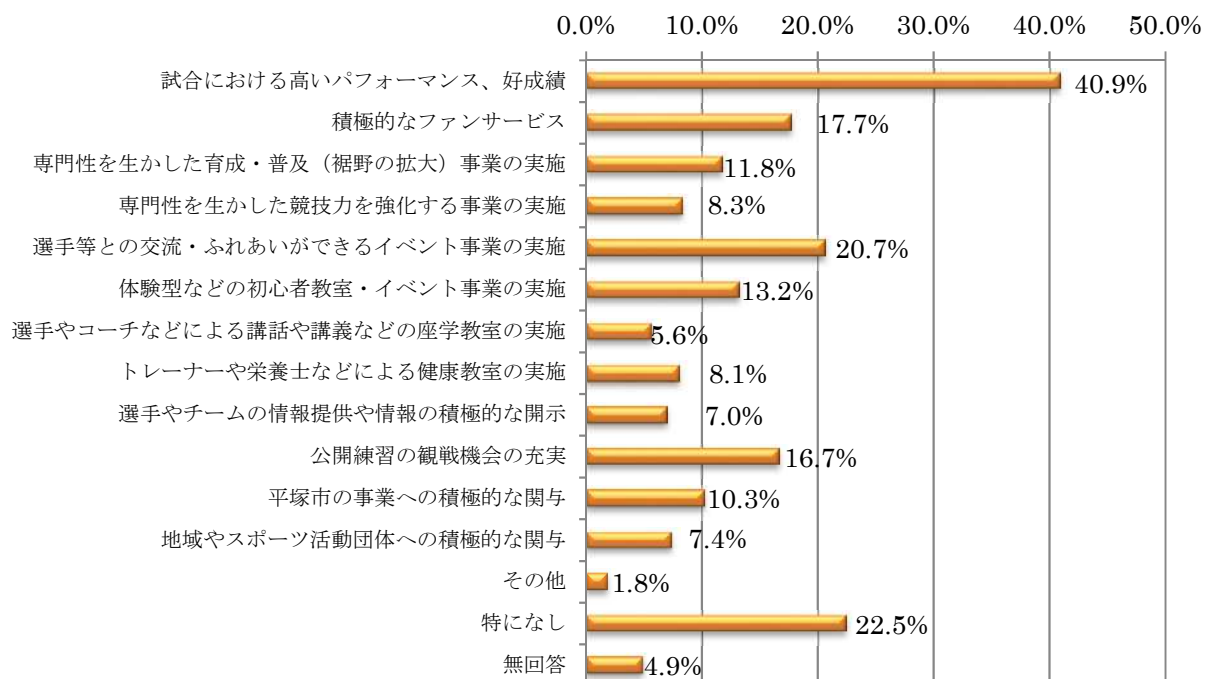
表 2- 9 市内の主なスポーツイベント

種目	チーム・選手など
Jリーグ（サッカー）	湘南ベルマーレ
プロ野球	横浜DeNAベイスターズ
Bリーグ（バスケットボール）	横浜ビー・コルセアーズ
東京箱根間往復大学駅伝競走	大学陸上競技部
湘南国際マラソン	一般参加者
その他	全日本大学サッカー選手権
	関東大学サッカーリーグ
	首都大学野球

表 2- 10 本市で開催されたプロスポーツチームの試合数及び総入場者数（令和4年度）

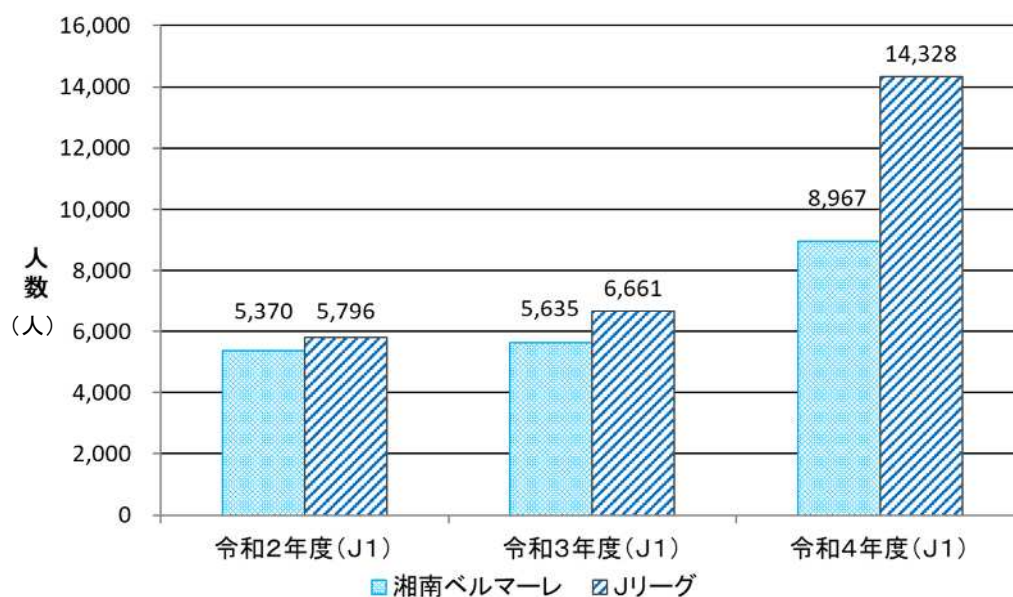
チーム名	試合数	総入場者数	会場
湘南ベルマーレ	21	183,725人	レモンガススタジアム平塚 (収容人数:15,380人)
横浜DeNAベイスターズ	11	7,487人	バッティングパレス相石スタジアムひらつか (収容人数:16,000人)
横浜ビー・コルセアーズ	2	2,018人	トッケイセキュリティ平塚総合体育館 (収容人数:2,500人)
合計	34	193,230人	

図 2-23 湘南ベルマーレ・横浜 DeNA ベイスターズ・横浜ビー・コルセアーズなどトップスポーツチームに望むこと



出典：令和4年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2-24 湘南ベルマーレ1試合平均入場者数とJリーグ1試合平均入場者数の比較



出典：Jリーグ公式ホームページ「J.LEAGUE Data Site」 スポーツ課にて加工

(3) 「ささえる」スポーツの現状と課題

本市では、地区体育振興会やスポーツ推進委員などが中心となり、地域で様々なイベントが行われています。地区体育振興会が設置されているのは、県内の政令指定都市を除いた 16 市のうち 11 市です（表 2- 11）。また、本市のスポーツ推進委員は 94 人で、これは県内の政令指定都市を除いた 16 市の中で 3 番目に多い人数となっており（図 2- 25）、人口規模による割合を考慮しても地域スポーツを支える人材は充実しているように見えます。

しかしながら、地域でスポーツを普及する担い手が不足しているとの切実な意見もあります。一方、各地区で行われている地区体育振興事業¹⁸の参加者数をみると、令和 2 年度から令和 3 年度にかけて新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数が減っていますが、令和 4 年度は、平成 30 年度と比較し約 75%まで戻っています（図 2- 26）。新型コロナウイルス感染症の影響により参加できなかったスポーツ事業へのニーズが参加者数の回復にあらわれていると考えられます。市民に積極的にスポーツに取り組んでもらうためには、行政だけでなく、スポーツ関係団体、大学など様々な主体が連携・協働することが必要です。

そのほか本市では、中学生の部活動、小学生のクラブを対象に平塚市民・大学スポーツ交流フェスタなどの大学交流事業を開催しており、令和元年度から令和 3 年度まで新型コロナウイルス感染症の影響により事業を一部中止（令和 2 年度はすべて中止）しましたが、令和 4 年度に感染対策を行いながら約 400 人の子どもたちが参加しています（図 2- 27）。大学に蓄積された専門的な知識や優秀な人材を地域に還元することは、スポーツをする子どもたちの知的探究心の充足や技術の向上に繋がります。地域のスポーツ活動を活性化するため、大学と地域との交流を深めるようなスポーツイベントを開催することが必要です。

多くのスポーツイベントを企画し運営するためには、ボランティアの存在が欠かせません。スポーツに関するボランティア活動について聞いたところ、参加したいものは「特になし」と答えた人が平成 30 年度調査では、約 80%、今回の調査では約 40%で、スポーツに関するボランティアに参加しているまたは参加したいと考えている方々は相当数増加していると言えます（図 2- 28）。スポーツボランティアの活動を通じて地域スポーツを支援することは、自己実現や仲間づくりだけでなく、地域スポーツの活性化にも繋がることから、市民のスポーツボランティアへの意識の一層の向上が必要です。生涯にわたって「ささえる」スポーツに取り組む市民を増やすため、スポーツボランティアの意義を啓発するとともに、スポーツボランティアに気軽に参加できる機会を提供することが必要です。

さらに、過去 5 年間の本市の国民体育大会・全国大会等の出場者数の推移をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により大会等の中止が多かった令和 2 年度及び令和 3 年度は令和元年度と比較して低くなっていますが、令和 4 年度は約 60 人となっています（図 2- 29）。平塚市スポーツ協会には約 13,000 人の会員が登録しています。本市から輩出されたトップアスリートが活躍するこ

¹⁸ スポーツ大会、レクリエーション活動を通じて地区住民相互の親睦と健康な心身の育成を図るとともに地区体育の普及、振興を目的に、市内 24 地域で地区体育振興会、スポーツ推進委員が中心となってスポーツ大会及びレクリエーション事業などが開催されている。

とは、市民に誇りや喜びを与えるとともに、本市に活力を生み出します。本市からより多くのトップアスリートを輩出するため、各競技団体が行っている競技力強化に向けた取組みを支援するとともに、本市スポーツ選手の競技への意欲を高めることが必要となります。

表 2- 11 県内各市（政令指定都市を除く）地区体育振興会の有無

市名	有無	地区数
横須賀市	有	46
平塚市	有	24
鎌倉市	有	16
藤沢市	有	35
小田原市	有	26
茅ヶ崎市	有	13
逗子市	有	9
三浦市	無	—
秦野市	有	6
厚木市	有	15
大和市	有	11
伊勢原市	有	8
海老名市	無	—
座間市	無	—
南足柄市	無	—
綾瀬市	無	—

図 2- 25 県内各市（政令指定都市を除く）のスポーツ推進委員数

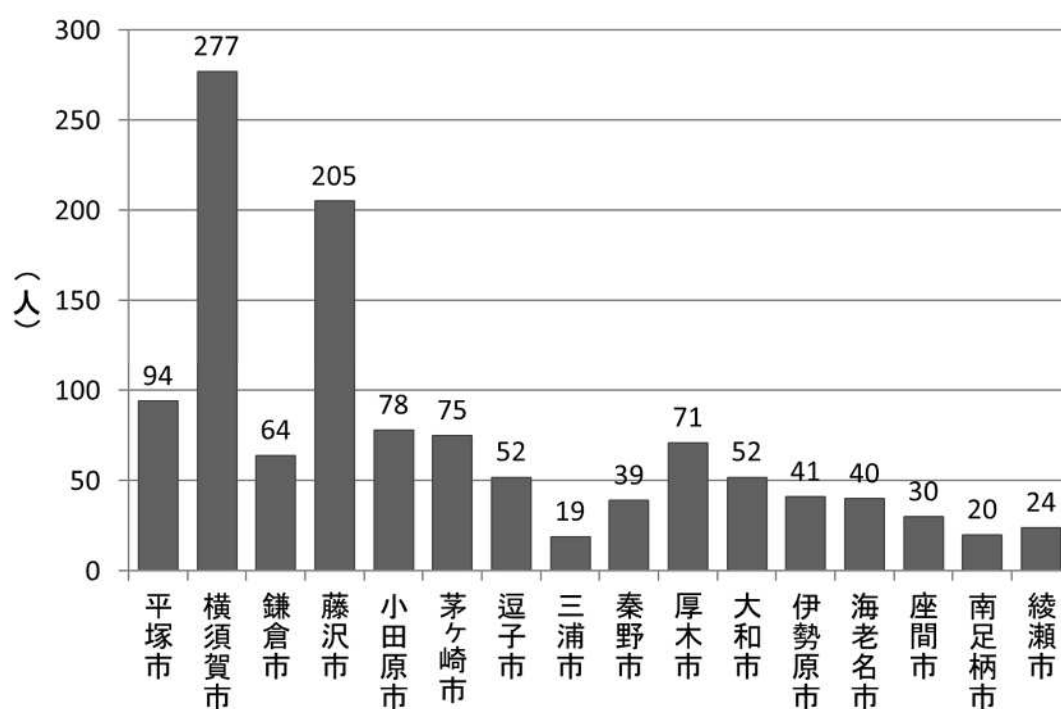


図 2- 26 地区体育振興事業の参加者数の推移

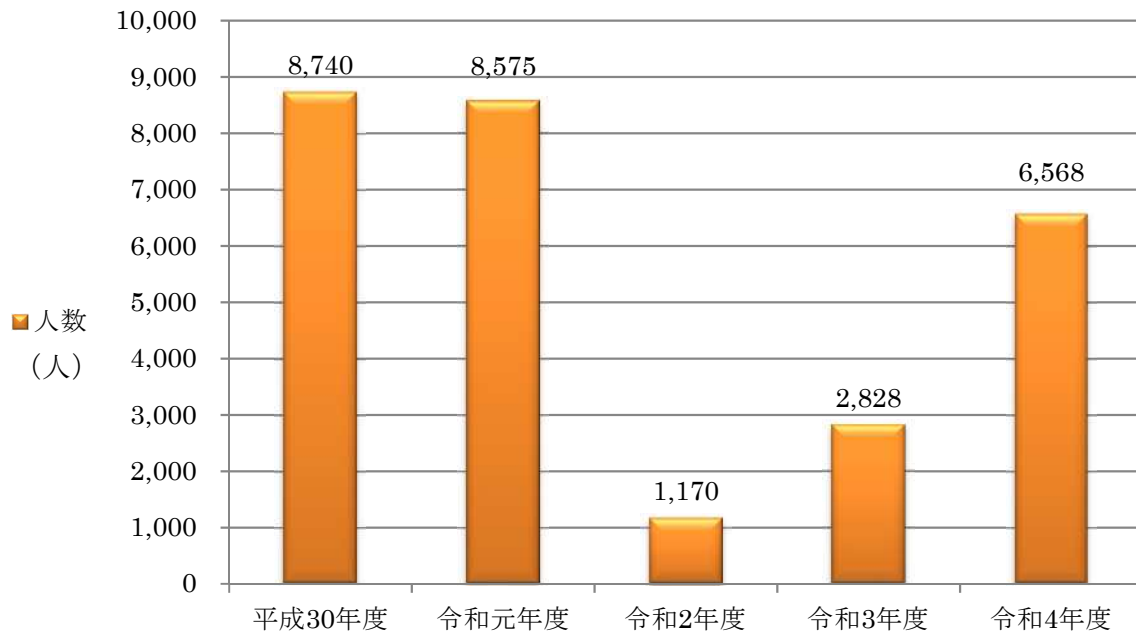
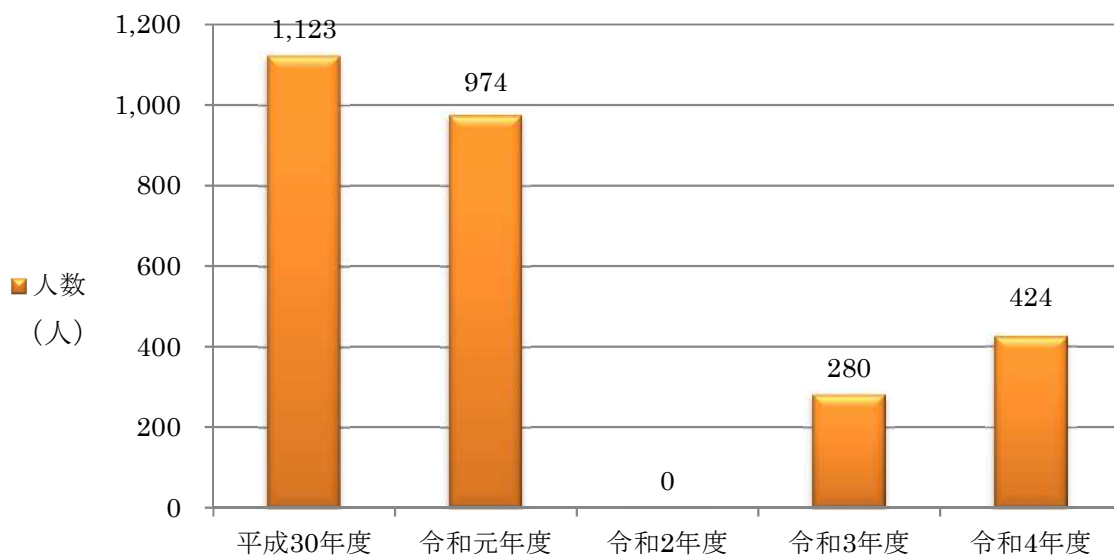


図 2- 27 大学交流事業の参加者数の推移



※実施事業

平成 30 年度：中学生陸上競技教室、中学生卓球教室、中学生バスケットボール教室、小学生サッカー教室、ロードレース大会

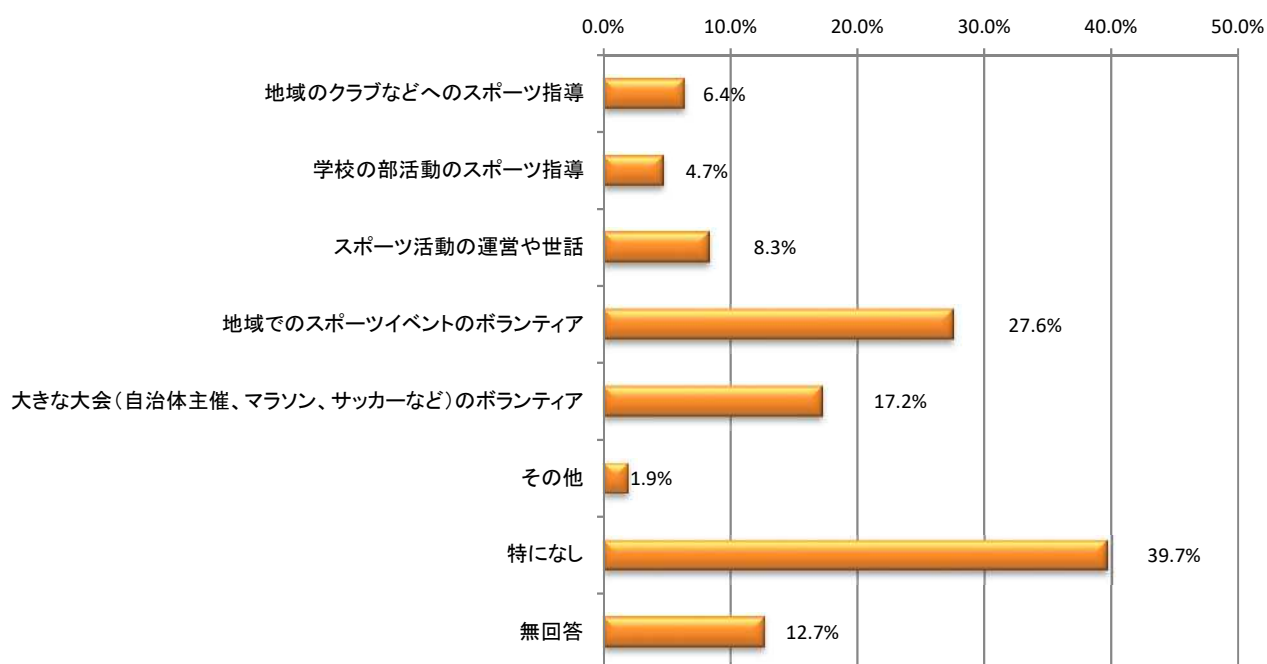
令和元年度：中学生陸上競技教室、中学生卓球教室、中学生バスケットボール教室、ロードレース大会

令和 2 年度：新型コロナウイルス感染症のため中止

令和 3 年度：中学生陸上競技教室、中学生バスケットボール教室、中学生水泳教室

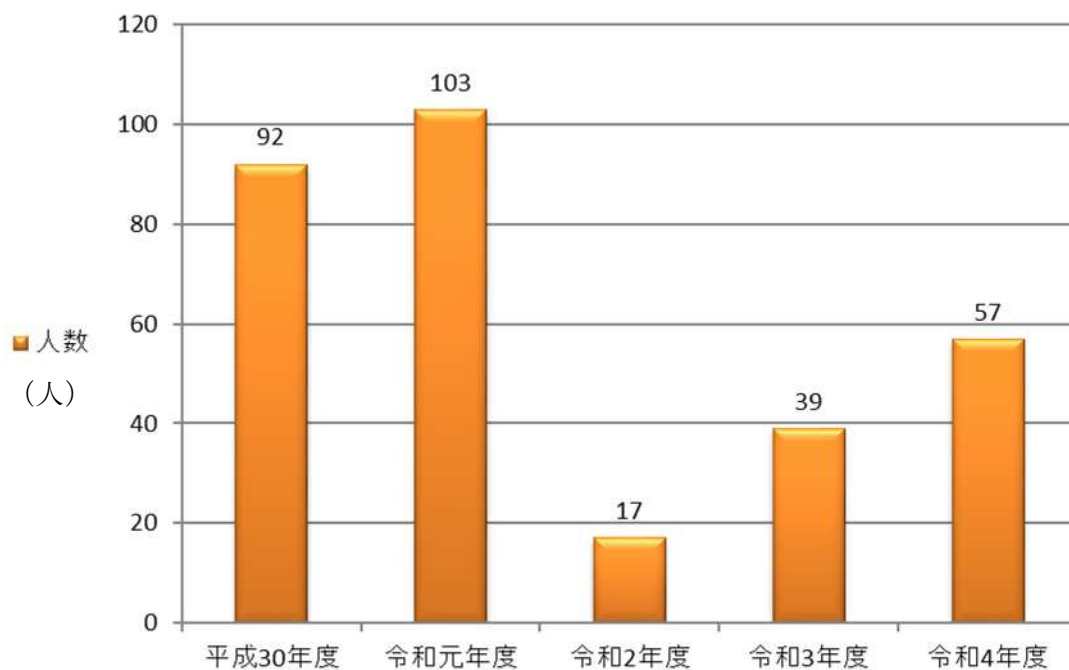
令和 4 年度：中学生陸上競技教室、中学生バスケットボール教室、中学生バレーボール教室、小学生サッカー教室

図 2- 28 市民のスポーツに関するボランティア活動実績及び希望



出典：令和 4 年度平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査

図 2- 29 国民体育大会・全国大会出場者数の推移



(4) スポーツ施設の現状と課題

本市には、バッティングパレス相石スタジアムひらつかやレモンガススタジアム平塚のある平塚市総合公園、ひらつかサン・ライフアリーナや馬入ふれあい公園サッカー場のある馬入ふれあい公園などの公園施設や大神スポーツ広場、軟式庭球場、桃浜町庭球場などのスポーツ施設があり（表 2-12）、（公財）日本スポーツ施設協会の「会員名簿／施設一覧」によると、近隣市と比較しても施設数が多いといえます（図 2-30）。その他にもプール施設や湘南海岸公園などのスポーツができる施設があります。しかしながら、新規のスポーツ施設の整備は難しいため、施設の有効利用や施設の健全な経営によるサービスの充実が望まれます。

本市のスポーツ施設では、平成 18 年度から馬入ふれあい公園サッカー場、平成 20 年度からひらつかサン・ライフアリーナ、平成 21 年度から桃浜町庭球場と軟式庭球場、平成 26 年度から大神スポーツ広場、木村植物園湘南ひらつかパークゴルフ場、土沢野球場、土沢多目的広場の 8 施設で指定管理者制度¹⁹を導入しています。指定管理者による利用者アンケートによると、満足度は高くなっています（図 2-32）（図 2-33）（図 2-34）。市民ニーズの変化をとらえながら、サービス向上による利用者満足度を更に高めていく必要があります。

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、1 位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」でした（P.17 図 2-6）。市民が身近な地域でスポーツを楽しむことができるよう、市立小中学校の学校体育施設を市民に開放しています（表 2-13）。学校体育施設はピーク時には年間約 39 万人に利用されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に利用者数は減少しましたが、令和 4 年度には年間約 30 万人と回復傾向にあります。利用については、原則団体利用となりますが、みずほ小学校では、現在東海大学学生によるスポーツ指導が個人利用で行われています（表 2-14）。

学校体育施設については、市民が身近な地域で個人でも気軽にスポーツを楽しむ場所として利用できることもあり、今後個人利用できる施設を拡大していくことが求められます。

¹⁹ 市の指定する団体が、公の施設の管理を行うこと。指定管理者制度の目的は、民間事業者のノウハウを活用することにより、市民の様々なニーズに効果的・効率的に対応し、市民サービスの質を向上させることにある。

表 2-12 公園・スポーツ施設一覧

施設名 (設立年月)	所在地	施設内容
桃浜町庭球場 (S40.9)	桃浜町34-18	テニスコート1 (8面)
大神スポーツ広場 (S43.4)	大神4-20-16 ほか	軟式野球場9 サッカー場3 管理棟1
軟式庭球場 (S45.8)	田村9-25-1	テニスコート1 (10面)
王御住運動広場 (S48.3)	岡崎3269-63	軟式野球場1
バッティングパレス相石スタジアムひらつか (S60.3)	大原1-1	野球場1
レモンガススタジアム平塚 (S62.3)	大原1-1	陸上競技場1
トッケイセキュリティ平塚総合体育館 (H3.3)	大原1-1	体育館1(体育室3 武道場2 弓道場1 トレーニング室1 屋内プール(50m×9コース 20m×5コース))
総合公園テニスコート (H3.3)	大原1-1	テニスコート1(4面)
馬入ふれあい公園サッカー場 (H14.4)	中堂246-1	管理棟1 多目的棟1 シャワー棟1 サッカー場3(人工芝1、天然芝2)
ひらつかサン・ライフアリーナ (H16.8)	中堂246-1	体育館1(体育室1 多目的ルーム1 会議室1)
土沢野球場 (H22.10)	上吉沢1689-1	軟式野球場1 (軟式野球、ソフトボール)
土沢多目的広場 (H22.10)	上吉沢1689-1	多目的広場1 (サッカー、グラウンドゴルフ、ラグビー(練習) 他)
木村植物園湘南ひらつかパークゴルフ場 (H22.10)	上吉沢1579-1	管理棟1 パークゴルフ場 (18ホール)

出典：(公財) 日本スポーツ施設協会「会員名簿／施設一覧」

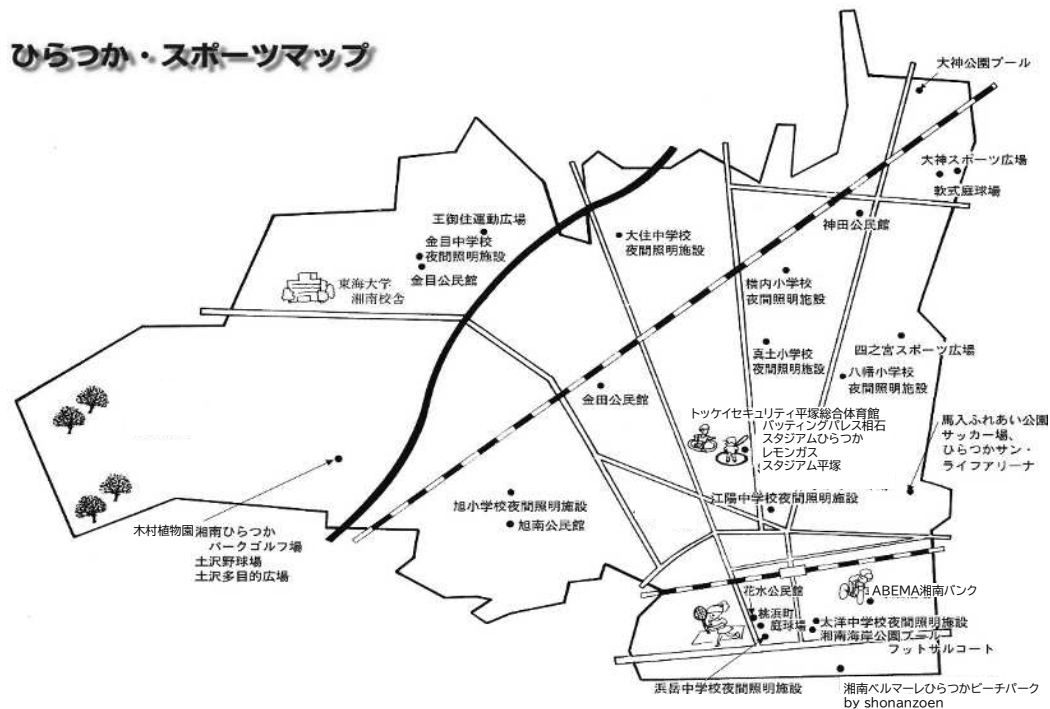
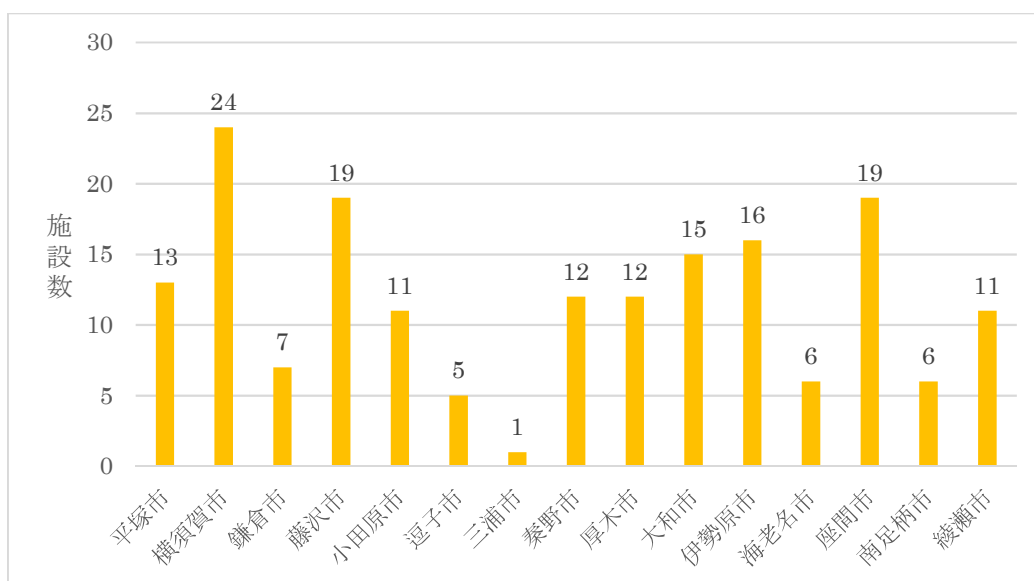


図 2- 30 神奈川県スポーツ施設協会加入施設の設置者別施設数（政令指定都市除く）



出典：（公財）日本スポーツ施設協会 令和 5 年 会員名簿／施設一覧

図 2- 31 公園・スポーツ施設利用者数

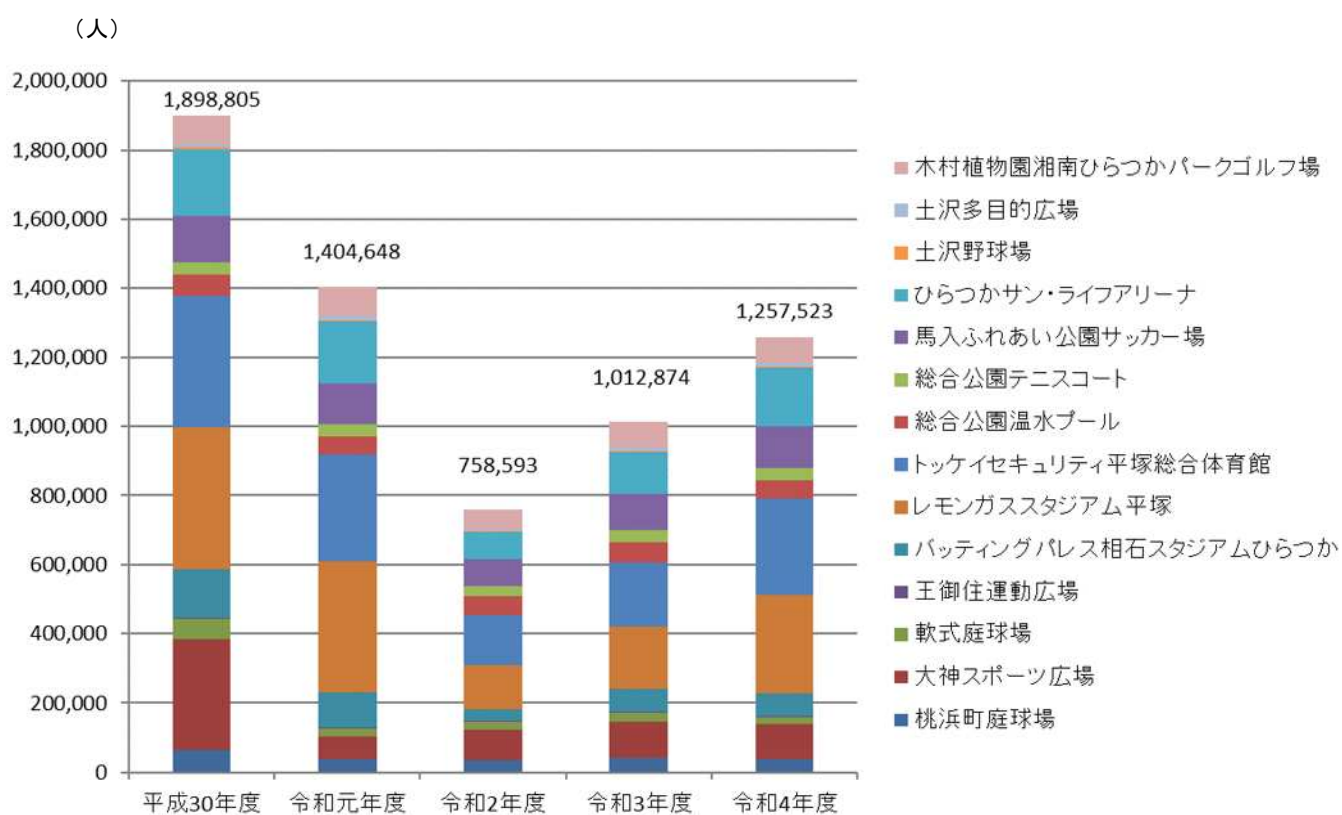
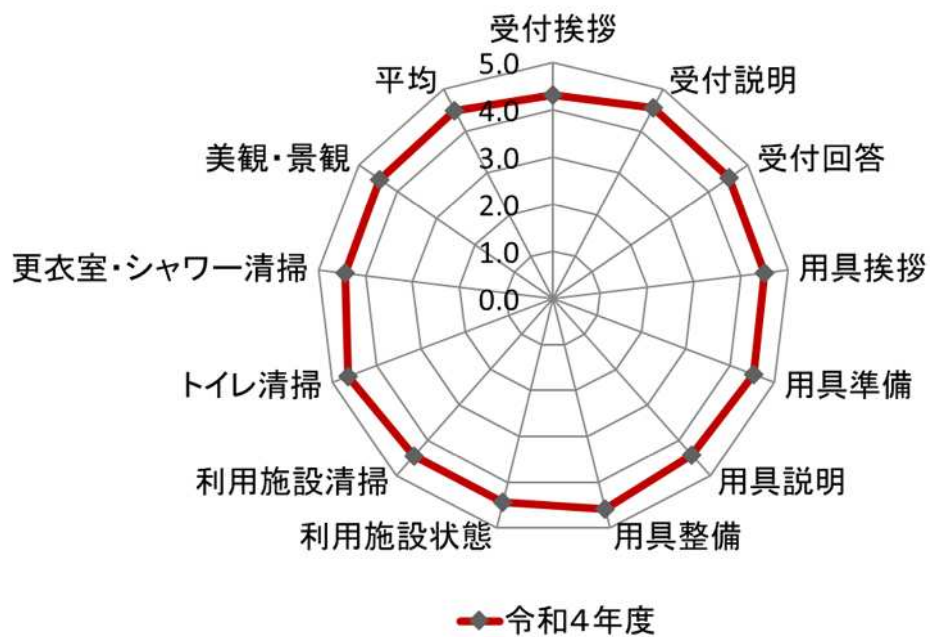
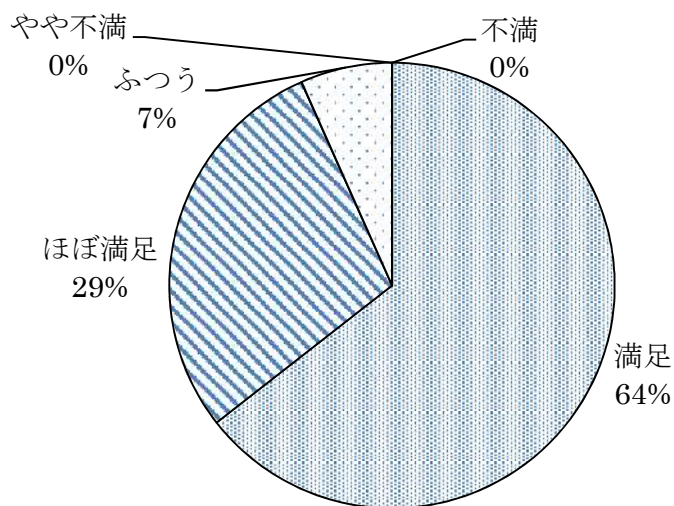


図 2- 32 馬入ふれあい公園（ひらつかアリーナ）利用者アンケート項目別評価



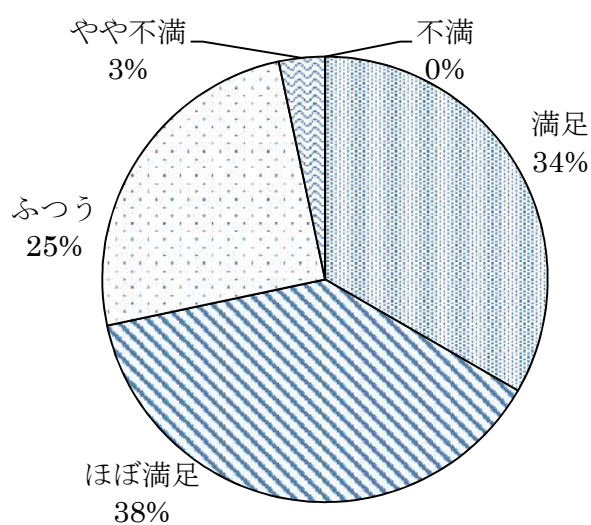
出典：令和3年度、令和4年度馬入ふれあい公園（ひらつかアリーナ）利用者アンケート実施結果

図 2- 33 施設全体の利用における総合的な満足度（軟式庭球場）



出典：令和4年度軟式庭球場利用者アンケート調査結果

図 2- 34 施設全体の利用における総合的な満足度（桃浜町庭球場）



出典：令和 4 年度桃浜町庭球場利用者アンケート調査結果

表 2- 13 学校体育施設開放校

学校名	開放体育施設	学校名	開放体育施設
崇善小学校	体育館	岡崎小学校	運動場・体育館
港小学校	体育館	金田小学校	運動場・体育館
松原小学校	運動場・体育館	土屋小学校	運動場・体育館
富士見小学校	体育館	吉沢小学校	運動場・体育館・クラブハウス
花水小学校	運動場・体育館・体育室	金目小学校	運動場・体育館
なでしこ小学校	運動場・体育館	みずほ小学校	運動場・体育館
旭小学校	運動場・体育館	江陽中学校	運動場・体育館
勝原小学校	運動場・体育館	太洋中学校	運動場・体育館
松延小学校	体育館	春日野中学校	運動場・体育館・柔剣道場
山下小学校	運動場・体育館	浜岳中学校	運動場・体育館・柔剣道場
大野小学校	体育館	大野中学校	体育館・柔剣道場
八幡小学校	運動場・体育館	中原中学校	運動場・体育館
真土小学校	運動場・体育館	神明中学校	体育館
中原小学校	体育館	神田中学校	運動場・体育館
松が丘小学校	運動場・体育館	横内中学校	運動場・体育館
南原小学校	体育館	土沢中学校	体育館
大原小学校	運動場・体育館	金旭中学校	運動場・体育館
豊田小学校	運動場・体育館	山城中学校	体育館
神田小学校	運動場・体育館	旭陵中学校	運動場・体育館・クラブハウス
相模小学校	運動場・体育館	金目中学校 (五領ヶ台分校除く)	運動場・体育館
横内小学校	運動場・体育館		
城島小学校	運動場・体育館	大住中学校	運動場・体育館

出典：令和 5 年度社会体育要覧

図 2- 35 学校体育施設開放利用者数の推移

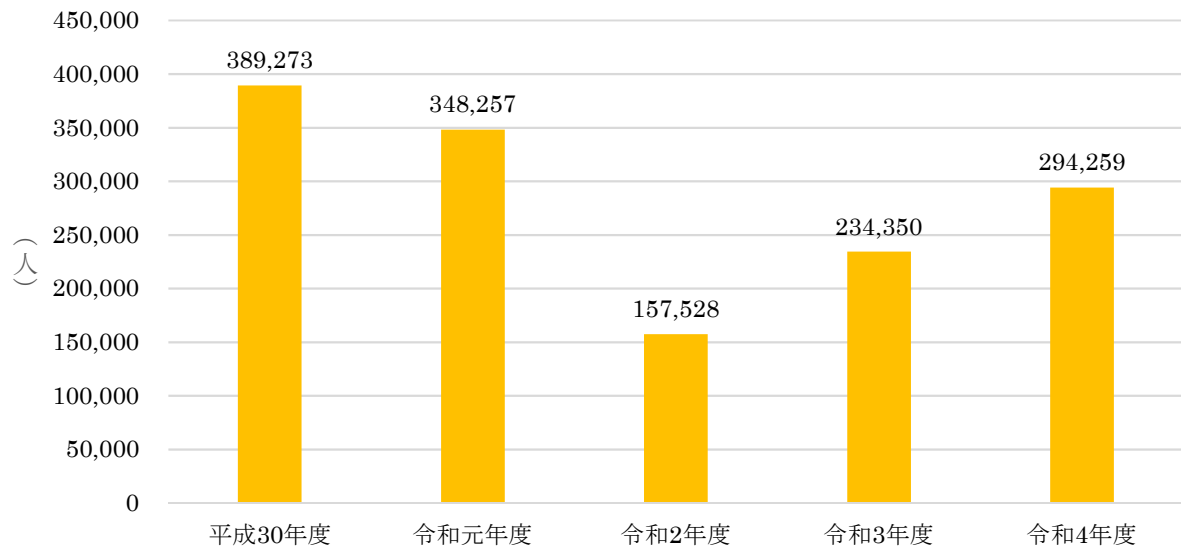


表 2- 14 学校体育施設開放の状況（令和 4 年度）

	学校数	利用登録数		利用件数	延べ利用者数
		(団体)	(個人)		
小学校	28校	342団体	0人	10,121件	222,722人
中学校	15校			4,858件	71,537人
合計	43校	342団体	0人	14,979件	294,259人

出典：スポーツ課調べ



(5) スポーツに関する情勢の現状と課題

ア 社会情勢の変化

「平塚市スポーツ推進計画」が策定された平成 26 年度以降、スポーツ庁の新設やそれに伴う障がい者スポーツの厚生労働省からの移管、国の第 2 期スポーツ基本計画の策定など、新たなスポーツ政策が次々と展開されてきました。第 2 期計画が策定された平成 29 年度以降も、ラグビーワールドカップ 2019™ や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際的なスポーツ大会の開催、日本体育協会 から日本スポーツ協会への名称変更など、国内でのスポーツにおける機運の醸成や人々の関わり方に変化が生じています。また、新型コロナウイルス感染症の影響は、心身の健康づくりや人と人とのつながりの重要性を改めて認識するきっかけとなりました。

このような社会情勢の変化を受けて、スポーツを推進する意義や目的は、従来から認識されてきた心身の健康づくりや人格形成、競技力向上という枠を超え、人々の暮らしをより豊かにするもの、地域コミュニティの形成や共生社会の実現、地域・経済の活性化に寄与するものとしても考えられるようになってきています。そのため、スポーツは個人と地域社会のどちらの視点においても、ますます欠かせない存在となっています。

なお、世界共通の目標である SDGs については、日本においても達成に向けた取組を積極的に実施しています。スポーツは健康や教育、コミュニティ強化など（3・4・17 の目標など）、SDGs の達成に寄与する活動として貢献することから、スポーツ庁では、スポーツの力による SDGs の達成に向けた取組を推進しています。



国際的なスポーツ大会が多数国内で開催され、共生社会の実現や多様性と調和への関心がより一層高まる中、令和4年に策定された第3期スポーツ基本計画では、第2期計画における中長期的な基本方針は踏襲し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会をめざすため、次の3つの視点が新たに必要になるとされています。

①「つくる／はぐくむ」という視点

既存の枠組みや考え方のみにとらわれず、社会情勢等に応じて、柔軟に見直し・改善し、最も適切・有効な個々の状況に応じた方法やルールを考え出したり、創り出すような取組を促進・推進する。

（例）多様な主体が参加できるスポーツ機会の創出、自主性を促せるような質の高いスポーツ指導者の育成、VR・ARや先進的なデジタル技術等を活用した新たなスポーツ実施機会の創出など

②「あつまり、ともに、つながる」という視点

様々な立場にある人々が、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、機運を醸成する。また、スポーツの機会の提供や社会経済の活性化にあたり、様々な人々・組織が「あつまり」「ともに」課題の解決等に取り組む。

（例）スポーツ団体のガバナンス・経営力の強化を図るための人材育成やネットワークの構築など

③「誰もがアクセスできる」という視点

誰もがスポーツに参画し、スポーツの価値を体感できるような社会を実現するために、年齢や性別、障がいの有無、経済的事情、地域事情の差等によって、スポーツに取り組むことを諦めたり、理不尽・不合理な理由により離れることがないような社会の実現や機運の醸成を図る。

（例）総合型地域スポーツクラブの体制強化を通じた地域スポーツ環境の構築、けがや障がいや不適切な指導などによりスポーツをする機会を失わないようスポーツ実践者の安全・安心の確保など

このように市民のスポーツへの意識の変化を踏まえつつ、持続可能な社会の実現をめざすため、社会情勢の変化を的確にとらえ、スポーツを推進していくことが求められています。

イ スポーツの価値の再確認

「スポーツの価値」の重要性は、いかなるときにも変わることなく、計画期間中の以下の大きな出来事により改めてその重要性を確認したところです。

（ア）新型コロナウイルス感染症拡大の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツ施設の利用制限、学校運動部活動やアマチュアのスポーツ大会・イベントの延期・中止などのため、運動不足による健康二次被害や体力の低下、日頃の成果発表の機会の喪失など、心身の健康保持の面での悪影響が生じました。その一方

で、成人における週1回以上のスポーツ実施率は感染拡大前よりも向上しており（P.16 図2-4）、新型コロナウイルスの影響によるものと特定はできませんが、感染拡大後にスポーツ実施意欲が高まっていることがアンケート実施結果からもうかがえます。

このことから、スポーツが我々の生活や社会に活力を与えるなど、一定の効用をもたらす価値があり、何らかのスポーツをすることを求めていることが改めて認識されることとなったのではないのでしょうか。こうした非常事態でも市民がスポーツの価値を享受できるよう、さらにスポーツをする機会の提供をしていく必要があります。

（イ）東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でのレガシー

東京大会は、国籍、性別、年齢、障がいの有無等にかかわらず多様な人が同じ場に集い、それぞれの能力を発揮して競い合い、こうした姿は、「する」「みる」「ささえる」を通じて東京大会に関わった世界中の人々に大きな感動を与え、相互理解を深めるとともに共生社会の価値を実感させました。大会を通じた共生社会に対する理解・関心の高まりと、大会によるスポーツの機運向上を契機とし、誰もがスポーツに参画できるような機会の創出・意識の醸成に取り組む必要があります。

また、東京大会によるスポーツの機運向上も踏まえ、子供たちが運動やスポーツの大切さを体感できる取組を継続し、その心身の健やかな成長につなげることが重要で、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を受けて減少してしまったスポーツ機会を取り戻し、近年の子供たちの体力低下傾向の食い止めに向けて、学校における体力向上に向けた継続的な取組の充実や、地域におけるスポーツ機会の確保方策等の総合的な対策に取り組むことが重要となります。

さらに地域住民等のスポーツへの関心の高まりを、「スポーツ・レガシー」として各地域におけるスポーツによる地方創生、まちづくりの取組に転化させ、それらを将来にわたって継続させ、各地に定着させていくことも必要不可欠となります。

そのためには、スポーツを「する」人々だけでなく、スポーツを「みる」人々や「ささえる」人々の安全・安心にも配慮した形で、スポーツ施設の整備・運営を行うとともに、スポーツボランティア等の参画を促進するための仕組づくりが必要です。

第3章

第3章 計画の方向性と取組み

1 平塚市の目指す姿

近年、生活の利便性の向上などにより、市民の身体活動量が減少するとともに、生活習慣病の罹患リスクが増加しています。スポーツを行うことは、健康・体力の増進につながり、医療費の抑制等の様々な効果が期待されています。また、市民のライフスタイルの変化や少子高齢化の進行、平均寿命の延伸、価値観の多様化などにより、スポーツが生活に果たす役割はますます重要となっています。

本市の現状や課題、特徴を踏まえて、継続的にスポーツに取り組む市民の拡大を図るため、「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」を目指す姿として設定し、市民の誰もが生涯にわたってスポーツを楽しみ、いつまでもいきいきとした生活を送ることができるよう、市民、スポーツ関係団体、大学、トップスポーツ、行政などが連携・協働して、スポーツを通じた活力ある社会づくりを実現します。

【平塚市の目指す姿】

「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」

スポーツへの関わり方は、スポーツを「する」ことだけでなく「みる」「ささえる」ことも含まれ、様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を豊かなものにします。国のスポーツ基本法や第3期スポーツ基本計画、県の神奈川県スポーツ推進計画、平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査、スポーツ関係団体などの意見から、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」、「スポーツ施設」、「スポーツに関する情報」の5つの現状と課題を踏まえ、スポーツの主体である市民、地域、トップスポーツに着目し、さらに、その活動をサポートするために、「生涯スポーツの推進」、「地域スポーツの推進」、「トップスポーツの推進」、「スポーツを楽しむ環境づくり」の4つを引き続き、基本目標と定め、本市の更なるスポーツ推進を図ります。

2 計画の体系

計画の体系は、4つの基本目標を推進していくために必要な取組みを施策構成として整理したものです。基本目標を実現するために必要な施策を「基本的施策」として位置づけます。

さらに「基本的施策」を推進するために必要な施策を「具体的施策」として位置づけ、施策の展開を図ります。施策の展開にあたっては「する」、「みる」、「ささえる」の取組視点に加えて、

新たな3つの視点「つくる はぐくむ」、「あつまり つながる」、「誰もがアクセスできる」を踏まえ新たな基本的施策及びその具体的施策を追加し展開していきます。

「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」

基本目標	基本的施策	取組視点			新たな視点			具体的施策
		する	みる	ささえる	つくるはぐむ	あつまりつながる	誰もがアクセス	
1 生涯スポーツの推進	(1) 成人のスポーツ機会の充実	○		○	○			①スポーツの普及啓発
								②生活習慣病予防のための運動教室
								③健康づくりの推進
								④地域における身近な運動機会の充実
								⑤スポーツ・レクリエーション活動の充実
								⑥ボランティアする機会の提供
	(2) 子どものスポーツ機会の充実	○			○			①親子で楽しむスポーツ活動の充実
								②小中学校体育の授業内容の充実
								③中学校部活動の在り方に関する研究
								④子どもを対象としたスポーツ活動の充実
	(3) 高齢者のスポーツ機会の充実	○			○	○		①介護予防の運動の充実
								②高齢者を対象とした地域における身近な運動機会の充実
	(4) 障がい者のスポーツへの参加促進	○			○	○		①障がい者スポーツ活動の支援
								②障がい者スポーツ・レクリエーション活動の充実
								③スポーツを通じた共生社会の実現
	(5) 新たなスポーツ実施機会の創出	○			○			①デジタルを活用したスポーツの推進
								②多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
2 地域スポーツの推進	(6) 地区体育・スポーツの普及・発展	○	○	○		○		①地区体育・スポーツの振興
								②市民活動団体などとの協働
	(7) ニュースポーツレクリエーションの普及			○		○		①スポーツ推進委員の資質向上
	(8) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援	○		○				①総合型地域スポーツクラブの育成・支援
	(9) 大学などとの連携強化			○			○	①大学と地域との連携強化
3 トップスポーツの推進	(10) 地元トップアスリートの輩出			○				①選手の競技力強化
								②選手の派遣
								③表彰制度の充実
								④優秀選手などに対する支援
								⑤平塚市スポーツ協会の組織支援
	(11) 湘南ベルマーレとの継続的な連携		○	○				①サッカー文化の振興
								②サッカーを中心としたスポーツ振興
	(12) スポーツ指導者の発掘と活用			○	○			①スポーツ指導者の確保と派遣
								②質の高いスポーツ指導者の育成
	(13) トップスポーツの活用	○	○					①トップスポーツに触れる機会の充実
								②全国規模の大会などの支援
								③トップアスリートの活用
4 スポーツを楽しむ環境づくり	(14) スポーツ施設等の充実	○		○			○	①効率的な施設の運営・管理
								②その他の施設の情報把握
								③スポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
								④スポーツ用具の有効活用
	(15) スポーツ情報の提供の充実			○			○	①スポーツ情報の提供
								②継続的なアクセスの確保

3 見直し後の施策の展開

「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」を実現するために、市民、スポーツ関係団体、大学、トップスポーツ、行政などが連携・協働して施策を展開しますが、前計画策定から約 10 年が経過し、具体的施策として実施している各個別事業については、事業の廃止、統合等が行われているため、次のとおり見直しを実施します。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

スポーツには、心身の健康の保持増進や生活習慣病予防などの効果があることから、市民の一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、主体的・継続的にスポーツを楽しむことが求められます。市民がいつまでもいきいきとした生活を送ることができるよう、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現のため、「成人」、「子ども」、「高齢者」、「障がい者」のライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

基本的施策**(1) 成人のスポーツ機会の充実**

国、県及び市の調査結果を比較すると、本市の週 1 回以上のスポーツ実施率は高くなっています（P.16 図 2-4）。また、スポーツ未実施率においても、国、県よりも低くなっています（P.16 図 2-5）。しかしながら、本市のスポーツ実施率は平成 30 年度に実施したアンケート調査時から大幅に上昇し、前計画指標の令和 5 年度の目標値を達成しました。スポーツ未実施率も前回調査と比較し、わずかに高くなり依然として、スポーツの実施者と未実施者の二極化している傾向です。運動不足は生活習慣病の大きな要因と言われています。スポーツには生活習慣病を予防し、身体機能を強化する効果があることから、継続的なスポーツ実践者を増やす必要があります。成人の健康保持増進のため、成人が積極的にスポーツに取り組む機会を充実します。

具体的施策**①スポーツの普及啓発（スポーツ団体、みどり公園・水辺課、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【する】**

本市におけるスポーツ未実施率は 21.5%となっています（P.16 図 2-5）。意識的にスポーツすることを心がけている人を増やすため、運動習慣のない市民がスポーツを始めるきっかけとなるよう、市民にスポーツの楽しさや効果を知る機会を提供します。

②生活習慣病予防のための運動教室（健康課）【する】

運動には、健康の維持・増進や生活習慣病を予防する効果があります。しかし、週 1 回以上スポーツを行っている市民はおよそ 7 割ということから（P.16 図 2-4）、今後もその効果について関心を高める必要があります。そのきっかけづくりの 1 つとして生活習慣病予防のための運動教室を開催します。

③健康づくりの推進（健康課、スポーツ課）【する】

アンケート結果から、市民が行っている、または行いたい運動は、ウォーキングや体操など身近な場所で手軽に取り組めるものでした（P.18 図 2-7）。市では、市民を対象に一般公募を行い、運動や健康づくりの重要性を学び普及啓発活動を担う健康推進員を養成・育成しています。さらに、平塚市健康推進員連絡協議会に事業を委託し、ウォーキングやくすの木体操など市民が気軽に参加できる運動の機会を提供します。また、日常的運動習慣への啓発のため、ウォーキングによるイベントを検討します。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

④地域における身近な運動機会の充実（健康課、中央公民館）【する・つくる はぐくむ】

アンケート結果から、仲間、家族など身近な人から誘われることも運動を始めるきっかけづくりになります（P.17 図 2-6）。地域で声を掛け合うことは、運動をするきっかけだけではなく、仲間づくりができ、運動を楽しく長続きする効果も期待できます。そのため、地域主体の健康づくりを目的とした自主的な運動グループの活動を支援します。また、市民団体などからの依頼に応じて、健康づくりのための手軽な運動に関する教育を実施します。地区公民館においては、地域における自主運動グループの拠点づくりに取り組むほか、日常生活における運動のきっかけづくりとして公民館事業を行います。

⑤スポーツ・レクリエーション活動の充実（中央公民館、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【する】

国や県と比較して、本市は市民のスポーツ実施率が高くなっています。スポーツは継続することにより効果が期待できます。目的をもってスポーツに取り組むことは継続に繋がることから、継続的なスポーツ実践者の増加のため、スポーツ大会、スポーツ教室、市民体育レクリエーション地区大会²⁰などスポーツ・レクリエーション活動を充実します。

⑥ボランティアする機会の提供（スポーツ課）【する・ささえる】

アンケートで、スポーツに関するボランティア活動について聞いたところ、参加している人、または参加したいものは「特になし」と答えた人が 39.7%います（P.35 図 2-28）。しかしながら、スポーツボランティアの存在はこれからのスポーツの振興には欠かせないものであり、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を通じて、地域社会に参加し積極的な役割を得ることは、自己実現、仲間づくりなどに繋がります。また、「ささえる」から「する」スポーツに興味を持ち、スポーツ参画人口の拡大にもつながるように、スポーツボランティアに気軽に取り組む機会を提供します。

²⁰ 体育レクリエーション活動を通じて、地域住民相互の親善と交流を深め、明るい地域づくりの推進や、スポーツ・レクリエーション活動の向上と健康の増進を図ることを目的に、地域ごとに特色ある内容で小学校区ごとに開催されている。

主な事業

事業名	事業概要
ひらつか市民スポーツフェスティバル開催事業 (スポーツ団体、スポーツ課、(公財)平塚市まちづくり財団)	新たにスポーツに取り組む人を増やすため、スポーツに取り組むきっかけづくりとなるイベントを開催します。
肥満予防・改善教室の開催 (健康課)	生活習慣病予防のために、食事や運動の実践を通して生活習慣の改善を図るため、肥満予防・改善教室を開催します。
ビーチスポーツ普及事業 (みどり公園・水辺課)	新たにスポーツに取り組む人を増やすため、海辺を生かし、ビーチスポーツを普及します。
市民総合体育大会・各種スポーツ大会 (スポーツ課)	市民にスポーツに取り組む機会を提供するため、市民総合体育大会や各種スポーツ大会を開催します。
日常的運動習慣への啓発事業 (スポーツ課、健康課)	日常的な運動習慣への啓発のため、楽しみながら行うことのできるウォーキングイベントの開催を検討します。
健康ウォーキング、くすの木体操講習会等の開催 (健康課)	平塚市健康推進員連絡協議会に事業を委託し、市民が気軽に参加できる運動機会を提供します。
スポーツボランティアの活用 (スポーツ課)	ボランティア活動の機会を提供するため、市が開催するスポーツ大会などにスポーツボランティアを活用します。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

基本的施策

(2) 子どものスポーツ機会の充実

「令和4年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」によると、県内の子どもの体力・運動能力は、各テスト項目の合計点の平均値を全国平均値と比較すると、11歳女子以外は、すべての年齢において下回っています（P.22 図2-13）。また、男女ともに15歳以上になると運動しない子どもが急増しています（P.23 図2-14）（P.23 図2-15）。運動頻度の増加が体力の向上に繋がることから、体育授業の質の向上、スポーツ大会などの体育行事・イベントの実施が求められます。子どもの体力向上のため、スポーツに取り組む機会を充実するとともに、学校での体育・保健体育の授業を充実するとともに運動部活動の地域移行を検討します。

具体的施策

①親子で楽しむスポーツ活動の充実（保育課）【する・つくる はぐくむ】

「令和4年度神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」によると、県内の子どもの体力・運動能力は、小学校入学時から既に全国・他県よりも体力が低い傾向にあります（P.22 図2-13）。これは、子どもを取り巻く環境の変化により、幼児期または家庭での運動の取組みが少ないのではないかと考えられます。子どものスポーツを楽しむ習慣や意欲、さらに運動能力を育成するため、未就学児とその保護者を対象に体を動かして楽しめるゲーム、ふれあい遊びなどを実施します。

②小中学校体育の授業内容の充実（教育指導課）【する】

運動している児童生徒ほど体力が高いことが分かりました（P.24 図2-16）。運動頻度を多くすることが体力の向上に繋がることから、子どもの体力づくりや運動能力向上のため、体育・保健体育の授業内容を充実します。

③中学校部活動の在り方に関する研究（教育指導課）【する】

運動部・スポーツクラブに加入している生徒ほど体力が高い傾向にあります（P.24 図2-16）。運動頻度を多くすることが体力の向上に繋がることから、子どもの体力づくりや運動能力向上のため、国が策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、中学校における運動部活動のあり方を検討し、指導者の派遣や部活動がスムーズに地域へ移行できるよう検討していきます。

④子どもを対象としたスポーツ活動の充実（平塚市スポーツ協会、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【する・つくる はぐくむ】

基本目標1 生涯スポーツの推進

子どものころから運動習慣を身につけて、思春期以降も継続することが必要です。目的をもってスポーツに取り組むことは継続につながることから、子どものスポーツを楽しむ習慣や意欲、さらに運動能力を育成するため、子どもがスポーツに取り組む機会を充実します。また、新たに小中学生を対象に含め、児童・生徒が継続的にスポーツを実施するよう、市民総合体育大会への参加を促進します。

主な事業

事業名	事業概要
少年少女スポーツ大会（スポーツ課）	自らスポーツを楽しむ態度を身に付け、併せて体力の向上並びに健全な心身の育成を図るため、子どもを対象としたスポーツ大会を開催します。
小学校プール開放事業（スポーツ課）	児童の心身の健全な育成と体力の向上を図るため、夏季休業中の小学校のプールを開放します。
市民総合体育大会・各種スポーツ大会（スポーツ課）（再掲）	児童・生徒のスポーツに取り組む機会を提供するため、市民総合体育大会への参加を促進します。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

基本的施策

(3) 高齢者のスポーツ機会の充実

運動・スポーツの実施頻度は、60 歳代と 70 歳代は、運動を継続的に行っている市民が男女ともに約 8 割となっています（P.16 図 2-5）。高齢者がいきいきと暮らし、仲間づくりにも寄与するスポーツは、新型コロナウイルス感染症の影響によりますます大切になっています。また、高齢化の進行により、要介護（要支援）認定者数は年々増加しています（P.10 表 2-1）。高齢者の生活の質の向上のため、高齢者がスポーツに取り組むことの大切さを理解し、スポーツを継続的にできるよう、高齢者がスポーツに取り組む機会を充実します。

具体的施策

①介護予防の運動の充実（保険年金課）【する・あつまり つながる】

介護が必要となった主な原因は、「認知症」が最も高く、次いで「骨折・転倒」、他には「高齢による衰弱」などで加齢に伴う身体機能、生活機能の低下によるものが高い傾向にあります（P.10 図 2-3）。「フレイル²¹」を予防し、健康長寿を実現するためには「栄養」「運動」「社会参加」が重要です。現在の自身の状態を把握できる「フレイルチェック」を実施し、健康なうちから運動に取り組むきっかけをつくることで、介護予防を推進します。

②高齢者を対象とした地域における身近な運動機会の充実（高齢福祉課）【する・つくる はぐくむ・あつまり つながる】

アンケート結果から、仲間、家族など身近な人から誘われることもスポーツを始めるきっかけづくりになることが分かりました（P.17 図 2-6）。地域で声を掛け合うことは、運動をするきっかけだけではなく、仲間づくりができ、運動を楽しく長続きさせる効果も期待できます。スポーツは継続することでより効果が期待できます。引き続き、ゆめクラブ（老人クラブ）のスポーツ活動への支援を行います。

²¹ 年をとって心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態を「フレイル」と言います。フレイルは「虚弱」を意味する英語「frailty」を語源として作られた言葉です。

主な事業

事業名	事業概要
介護予防のための運動へのきっかけづくり（保険年金課）	高齢者の身体状態を把握し、介護予防のための運動へのきっかけづくりとなる「フレイルチェック」を実施します。
ゆめクラブ湘南平塚スポーツ大会（高齢福祉課）	スポーツを楽しむことを通じて高齢者の生きがいの高揚を図るとともに社会との連帯感を養成し、もって老人福祉の向上を図るため、高齢者を対象としたスポーツ大会を開催します。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

基本的施策

(4) 障がい者のスポーツへの参加促進

令和4年度スポーツ庁委託調査「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）報告書」によると、成人一般の障がい者の週1日以上の実施率は約3割（P.28 図2-21）で、国の成人一般の約5割（P.16 図2-4）と比較すると低い割合になっています。また、過去1年間でスポーツを「行っていない」障がい者は成人一般で45.9%と高く、7歳～19歳では36.0%と子どもの頃からスポーツを親しめていない方が一定の割合でいることもわかります。多くの障がい者がスポーツに親しみ、イベントなどを通じて、障がいのある人となない人が共にスポーツを楽しむ場を作るなど、共生社会の実現を目指し、障がい者のスポーツ活動を支援するとともに、障がい者がスポーツに取り組む機会を充実します。

具体的施策

①障がい者スポーツ活動の支援（障がい福祉課）【する】

より多くの障がい者が各種障がい者スポーツ大会への参加などを通じて、生活の質を向上するため、各種障がい者スポーツ大会への参加を始めとした障がい者のスポーツ活動を支援します。

②障がい者のスポーツ・レクリエーション活動の充実（スポーツ課）【する・つくる はぐくむ】

より多くの障がい者にスポーツ・レクリエーションに取り組んでもらうためには、スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。スポーツ・レクリエーションイベント等を通じて、生活の質を向上するため、障がい者がスポーツ・レクリエーション活動に取り組む機会を提供します。

③スポーツを通じた共生社会の実現（スポーツ課）【する・あつまり つながる】

障がいのある・なしに関わらずスポーツ・レクリエーション活動に参加してもらうためには、スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。スポーツ・レクリエーションイベント等を通じて、共生社会を実現するため、多様な主体がスポーツ・レクリエーション活動に取り組む機会を提供します。

主な事業

事業名	事業概要
障がい者スポーツ大会などへの参加支援（障がい福祉課）	各種障がい者スポーツ大会への参加や、障がい者施設や障がい者団体などが積極的、主体的に行う各種スポーツ教室を支援します。
ひらつかパラスポーツフェスタの開催（スポーツ課）	障がい者スポーツ関係団体や企業等と連携して、ひらつかパラスポーツフェスタを開催し、障がい者スポーツの理解促進を図ります。

基本目標 1 生涯スポーツの推進

基本的施策

(5) 新たなスポーツ実施機会の創出

デジタル技術により誰もが手軽に情報にアクセスできるようにし、新たにスポーツを実施するきっかけづくりを支援するとともに、各種イベント情報を充実します。

具体的施策

①デジタルを活用したスポーツの推進（スポーツ課）【つくる はぐくむ】

スポーツを始めたい人が手軽に情報を得られるよう、「広報ひらつか」、「ひらつかスポーツナビ」などを用いて、スポーツに関連する団体やサークルの情報やスポーツ大会・教室の情報などを一元化して提供していきます。また、ICTなどのデジタル技術の進展により、オンライン環境やデジタル技術を活用したスポーツの取り組みが充実しつつあります。デジタル技術を活用したスポーツの新しい楽しみ方や健康増進の取り組みについてイベント等を通じて紹介します。

②多様な主体が参加できるスポーツの機会創出（スポーツ課）【する・つくる はぐくむ】

誰もがスポーツ・レクリエーションに取り組んでもらうためには、スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。スポーツ・レクリエーションイベント等を通じて、生活の質を向上するため、多様な主体がスポーツ・レクリエーション活動に取り組む機会を提供します。

主な事業

事業名	事業概要
デジタル技術を活用したスポーツの啓発（スポーツ課）	各種スポーツイベントやスポーツ情報を周知します。また、スポーツの新しい楽しみ方や健康増進の取り組みについてイベント等を通じて紹介します。
ひらつかパラスポーツフェスタの開催（スポーツ課）（再掲）	障がい者スポーツ関係団体や企業等と連携して、ひらつかパラスポーツフェスタを開催し、障がい者スポーツの理解促進を図ります。
パラスポーツ・ニュースポーツの啓発（スポーツ課）	パラスポーツやニュースポーツなどの用具を多様な主体へ貸出するとともに、必要に応じて貸出用具の競技ルールの説明の支援を行います。
ボッチャ競技大会等のパラスポーツ大会の充実（スポーツ課）	パラリンピック独自の競技でもあり、パラスポーツの中でも人気の高いボッチャ競技の大会の充実とともに、誰もが楽しめるニュースポーツを楽しむ取り組みを推進します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

生涯スポーツを推進するためには、地域のサポートが欠かせません。本市では、平塚市スポーツ協会、平塚市体育振興連絡協議会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、平塚レクリエーション連盟などによって、地域のスポーツ活動が行われています。しかしながら、地域のスポーツ活動に関わる人々が固定化しており、活動が広がっていない現状があります。今後、市民に積極的にスポーツに取り組んでもらうためには、行政だけでなく、スポーツ関係団体、大学など様々な主体が連携・協働し、身近な地域でスポーツを楽しむことができる環境を整える必要があります。

地域スポーツを担う役割を持つ総合型地域スポーツクラブがあります。子どもから高齢者まで、様々なスポーツを楽しむことができ、レベルに合わせて参加できる特徴を持っており、総合型地域スポーツクラブは、その地域の住民が自主的に運営します。スポーツを通じた地域活性化を担い、地域の核としての存在が期待されています。

スポーツ関係団体による地域のスポーツ活動の活性化、総合型地域スポーツクラブの育成・支援、中学校部活動や大学など、様々な団体、様々な分野との連携をして、また、スポーツだけではなく、文化的活動なども含めて、地域住民の交流を深め、地域の一体感や活力を醸成し、地域住民が主体的に参画するよう、地域のスポーツ活動を推進します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

基本的施策

(6) 地区体育・スポーツの普及・発展

県内 16 市（政令指定都市を除く）のうち 11 市に体育振興連絡協議会があるものの、地区体育振興会の構成単位は、中学校区単位が多く、本市は、およそ小学校区に 1 つ設置している公民館区というように、きめ細かい形で地区体育振興事業を始めとした地域のスポーツ活動が行われている自治体は多くありません。地域の一体感や活力を醸成するため、地域住民がスポーツを通じて交流を深められるよう、地域のスポーツ活動に参画する機会を充実します。

具体的施策

①地区体育・スポーツの振興（平塚市体育振興連絡協議会、スポーツ課）【する・ささえる・あつまり つながる】

市民相互の親睦と心身の健康の保持増進を図るとともに地区体育の普及、振興のため、体育振興連絡協議会と連携し、地域でスポーツ大会やレクリエーション事業などを開催します。

②市民活動団体などとの協働（スポーツ課）【する・みる】

市民の体育・スポーツ活動の普及・振興を図るため、市民団体などと協働し、「ひらつかスポーツナビ」運用を継続して実施し、適正に管理します。

主な事業

事業名	事業概要
地区体育振興事業（平塚市体育振興連絡協議会、スポーツ課）	地区体育の普及、振興のため地区体育振興会が主体となって、地域でスポーツ大会やレクリエーション事業などを開催します。
市民活動団体などとの協働（スポーツ課）	市民団体などと協働し、「ひらつかスポーツナビ」運用を継続して実施し、適正に管理します。

基本的施策**(7) ニュースポーツ・レクリエーションの普及**

本市におけるスポーツ未実施率は 21.5%となっています。スポーツをしていない人の年代別では、40 歳代の割合が高く、次いで 50 歳代、20 歳代となっています（P.16 図 2-5）。運動が苦手だと思っている人は、スポーツ関係の地域行事への参加を敬遠しがちです。本市には政令指定都市を除き、県内でも 3 番目に多い 94 人のスポーツ推進委員が委嘱されています（P.33 図 2-25）。運動が苦手な人、子ども、高齢者でも始めやすいニュースポーツやレクリエーション活動の活性化のため、スポーツ推進委員が中心となって、関係団体と連携しながら、ニュースポーツやレクリエーションの普及を図ります。

具体的施策

①スポーツ推進委員の資質向上（平塚市スポーツ推進委員協議会、スポーツ課）【ささえる・あつまり つながる】

スポーツ振興に期待することを聞いたところ、1 位が「年齢層にあったスポーツの普及活動」でした（P.20 図 2-11）。ニュースポーツは競技性を重視せず、誰もが参加できることを目的としたスポーツであることから、気軽にスポーツを楽しむ人を増やすため、地域住民に対するニュースポーツの指導、助言を行うスポーツ推進委員の資質の向上を図ります。

主な事業

事業名	事業概要
スポーツ推進委員研修会（平塚市スポーツ推進委員協議会、スポーツ課）	スポーツ推進委員の資質向上のため、スポーツ推進委員協議会が主体となって研修会を行います。
県スポーツ推進委員研修会などへの派遣（平塚市スポーツ推進委員協議会、スポーツ課）	スポーツ推進委員の資質向上のため、県などが行う研修会などへスポーツ推進委員を派遣します。

基本目標 2 地域スポーツの推進

基本的施策

(8) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、「特になし、無回答」を除き 1 位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」、2 位が「仲間、家族などからの誘い」でした（P.17 図 2-6）。老若男女を問わず、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも、スポーツを楽しむことができるような環境を整えるためには、地域に根づいた総合型地域スポーツクラブの存在は欠かせません。しかしながら、総合型地域スポーツクラブを知らない人は約 80.5%います（P.19 図 2-9）。地域住民が自発的にクラブをつくり、運営していくことにより、地域に根ざした個性豊かな総合型地域スポーツクラブの誕生は、少子化や多様な趣向における課題解決などの役割を果たすものとして期待されています。市民の自発的・自主的な地域におけるスポーツ活動を活性化するため、総合型地域スポーツクラブの育成・支援を図ります。

具体的施策

①総合型地域スポーツクラブの育成・支援（スポーツ課）【する・ささえる】

総合型地域スポーツクラブは地域住民の自主的な運営を求められることから、市民の自発的・自主的な地域におけるスポーツ活動を活性化するため、総合型地域スポーツクラブの育成・支援をします。

主な事業

事業名	事業概要
総合型地域スポーツクラブの相談窓口の設置（スポーツ課）	総合型地域スポーツクラブの育成・支援及び創設を目指す団体の相談に応じます。

基本的施策**(9) 大学などとの連携強化**

本市には、東海大学がキャンパスを構えています。大学に蓄積された専門的な知識や優秀な人材を地域に還元することは、スポーツ実践者の知的探究心の充足や技術の向上に繋がります。大学と地域との交流が深まることによって、地域のスポーツ活動の活性化が期待されることから、地域のスポーツ活動を活性化するため、地域と大学などとの連携を深めます。

具体的施策**①大学と地域との連携強化（東海大学、スポーツ課）【ささえる・誰もがアクセス】**

大学の持つ専門的な知識や優秀な人材を地域に還元することは、スポーツ実践者の知的探究心の充足や技術の向上に繋がるため、東海大学と地域との連携が深まるようなスポーツイベントなどを開催します。

主な事業

事業名	事業概要
平塚市民・大学交流スポーツフェスタ（東海大学、スポーツ課）	大学が有する人材や施設、ノウハウなどを活かし、中学生を対象とした陸上競技・バスケットボール・バレーボール教室を開催します。
少年少女マラソン大会（東海大学、スポーツ課、平塚市スポーツ協会）	東海大学陸上競技部の協力により小中学生が走る技術を学ぶ大会を開催します。
東海大学への委託による小中学校体育施設個人開放事業（東海大学、スポーツ課）	東海大学地域スポーツクラブに委託して、みずほ小学校の体育館で個人でも利用が可能な機会を設定し、大学生が地域住民のスポーツ活動を支えます。

基本目標 3 トップスポーツの推進

市民や子どもたちの「夢」を育み、生涯にわたる豊かなスポーツライフを推進するためには、トップスポーツのもたらす多くの効用がとても大切なものとなります。本市は、湘南ベルマーレのホームタウン（本拠地）の一つに定められ、さらにホームスタジアムが置かれています。全国 1,718 市町村（令和 5 年 4 月 1 日現在）のうち、60 クラブ（2023 J リーグクラブ編成）ある J クラブのホームタウンに定められている市町村は限られており、本市はトップスポーツに触れ合う機会が充実していると言えます。

湘南ベルマーレは、その知識やノウハウを活かして、子どもたちに対して、幼稚園・保育園巡回教室や小学校巡回授業、親子サッカー教室、トレーニングセンターへの指導者派遣などを行い、次代を担う子どもにスポーツの楽しさを伝えるとともに、技術の向上を図っています。スポーツの楽しさを知ること、サッカーのみならずスポーツに取り組む子どもたちが増えることが期待されます。本市の出身者が J リーガーを始めとしたトップアスリートとして活躍することは、市民に誇りや喜びを与え、市民のスポーツへの意欲や興味・関心を高めるとともに、スポーツに取り組むきっかけづくりとなります。

さらに、東海大学には、世界大会、全国大会で活躍するトップアスリートが在籍しています。大学交流事業を通じて中学生のスポーツ活動の向上に大きく寄与しています。

また、スポーツに取り組む市民の様々な欲求に対し、適切にサポートするために、スポーツ指導者の存在は欠かせません。市民一人ひとりが多様な目的や能力に応じて主体的に実践能力を高め、継続的なスポーツ実践者の増大を図るため、スポーツ文化を豊かに享受する能力を育成することができる、資質や能力の高いスポーツ指導者が必要とされます。

そのため、地元トップアスリートの輩出、湘南ベルマーレとの連携、スポーツ指導者の発掘と活用、トップスポーツの活用などを通じて、市民に誇りや喜び、夢や感動を与え、市民の活気があふれるよう、トップスポーツによるスポーツ活動を推進します。

基本的施策

(10) 地元トップアスリートの輩出

国際大会や全国規模の大会における地元トップアスリートの活躍は、市民に誇りや喜びを与えます。そのため、スポーツ選手や競技団体の強化活動の支援を通じて、本市の競技スポーツ水準を向上させ、地元トップアスリートの輩出を推進します。

具体的施策

①選手の競技力強化（平塚市スポーツ協会、スポーツ課）【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、市内スポーツ選手が国内外の大会で活躍できるよう、選手の競技力強化を図ります。

②選手の派遣（平塚市スポーツ協会、スポーツ課）【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会²²などに選手を派遣します。

③表彰制度の充実（平塚市スポーツ協会、スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）

【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、全国大会などで優秀な成績を収めた選手や本市スポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者及び社会スポーツ団体を表彰します。

④優秀選手などに対する支援（平塚市スポーツ協会、（公財）平塚市まちづくり財団）

【ささえる】

本市の競技スポーツ水準の向上のため、関東・全国または国際大会に出場し、優秀な成績を収めた選手を支援します。また、市内の団体が主催する全市的に開催する一般市民を対象とする大会の会場使用料を支援します。

⑤平塚市スポーツ協会の組織支援（平塚市スポーツ協会、スポーツ課）【ささえる】

本市では、主に平塚市スポーツ協会が競技スポーツを牽引しています。さらに本市の競技力を強化するには、平塚市スポーツ協会の組織力を強める必要があります。本市の競技スポーツ水準を向上するため、平塚市スポーツ協会の組織支援をします。

²² 各市町村から選抜された選手が、丹沢湖の周囲を走り7区間（42.236km）をたすきリレーするもの。

基本目標 3 トップスポーツの推進

主な事業

事業名	事業概要
競技力強化事業 (平塚市スポーツ協会、スポーツ課)	平塚市スポーツ協会に委託して本市スポーツ選手の強化育成を行います。
市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会などへの選手派遣 (平塚市スポーツ協会、スポーツ課)	市民スポーツ振興のため、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会などに選手を派遣します。
スポーツ優秀選手表彰 (平塚市スポーツ協会、スポーツ課、(公財)平塚市まちづくり財団)	全国大会などで優秀な成績を収めた選手の表彰を行います。
スポーツ功労者表彰 (スポーツ課)	スポーツの健全な普及・発展に貢献し、本市スポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者及び社会スポーツ団体を表彰します。
平塚市スポーツ協会の組織支援 (平塚市スポーツ協会、スポーツ課)	平塚市スポーツ協会の自主的な活動を推進するため、組織の支援を行います。

基本的施策

(11) 湘南ベルマーレとの連携強化

『Jリーグ規約』には、Jクラブはホームタウン（本拠地）と定めた地域で、その地域社会と一体となったクラブづくりを行いながらサッカーをはじめとするスポーツの普及、振興に努めなければならないことが記されています。つまり、「Jクラブと地域社会が一体となって実現する、スポーツが生活に溶け込み、人々が心身の健康と生活の楽しみを享受することができる町」を意味しています。本市は、湘南ベルマーレがホームタウンと定めた地域のひとつで、かつホームスタジアムがあります。

トップスポーツにより培われたアスリートの技術や経験、人間的な魅力は社会的な財産であり、それらを地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大に繋がります。また、新たな次世代アスリートの発掘・育成はトップスポーツの伸長にも寄与するものと考えられます。スポーツ界の好循環の創出のため、本市をホームタウンとする湘南ベルマーレとの連携を深めることで、サッカーを中心としたスポーツの振興を図ります。

具体的施策

①サッカー文化の振興（湘南ベルマーレ、スポーツ課）【みる・ささえる】

トップスポーツにより培われるアスリートの技術や経験、人間的な魅力を地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大に繋がるとともに、新たな次世代アスリートの発掘・育成によるトップスポーツの伸長にも寄与します。スポーツ界の好循環の創出のため、湘南ベルマーレの指導者を小学校体育巡回授業、幼稚園・保育園巡回教室²³、平塚市トレーニングセンター²⁴に指導者を派遣し、サッカーを楽しむ機会を充実します。

②サッカーを中心としたスポーツ振興（湘南ベルマーレ、総合公園課）【みる・ささえる】

トップスポーツにより培われるアスリートの技術や経験、人間的な魅力を地域におけるスポーツに還元することは、スポーツの活性化と裾野の拡大に繋がるとともに、新たな次世代アスリートの発掘・育成によるトップスポーツの伸長にも寄与します。スポーツ界の好循環の創出のため、湘南ベルマーレによるサッカースクールなどを開催します。

²³ ホームタウン 20 市町の小学校の正規の授業の中でベルマーレのコーチが子どもたちにボール運動を指導している。また、小学校体育巡回授業に加え、2012 年より本市では幼稚園や保育園での巡回教室に対する補助を行っている。

²⁴ 日本サッカー協会が「日本サッカーの強化、発展のため、将来日本代表選手となる優秀な素材を発掘し、良い環境、良い指導を与えること」を目的に始めた選抜した選手の強化練習制度で、平塚市サッカー協会が開催する地区トレセンのこと。

基本目標 3 トップスポーツの推進

主な事業

事業名	事業概要
小学校体育巡回授業、幼稚園・保育園巡回教室 (湘南ベルマーレ、スポーツ課)	子どもたちがサッカーを楽しむ機会を設けるため、小学校の体育授業や幼稚園・保育園に湘南ベルマーレの指導者を派遣します。
平塚市トレーニングセンターへの指導者派遣 (湘南ベルマーレ、スポーツ課)	本市ジュニアサッカー選手育成のため、優れた指導力を備える湘南ベルマーレの指導者を平塚市トレーニングセンターに派遣します。

基本的施策

(12) スポーツ指導者の発掘と活用

競技団体で認定している資格などを持つ指導者や指導力に長けた方が地域に潜在していると考えられます。スポーツ指導者は、生涯スポーツ社会を実現していくための先導者として欠くことのできない存在です。スポーツに取り組む市民の様々な欲求に対し、適切にサポートしていくことが必要です。本市のスポーツ水準向上のため、スポーツ指導者が地域で活躍できる場を提供します。

具体的施策

①スポーツ指導者の確保と派遣（スポーツ課）【ささえる】

本市のスポーツ水準向上を図り、市内スポーツ指導者を積極的に活用するため、スポーツ指導者登録制度を運用します。また、スポーツ指導者が、スポーツ関係団体やサークル団体等のニーズに応じて活躍する場を確保するため、派遣先を調整し利用につなげていきます。

②質の高いスポーツ指導者の育成（平塚市スポーツ協会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、スポーツ課）【ささえる・つくる はぐくむ】

スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市スポーツ協会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合と連携し、スポーツ指導者を対象とした講習会を実施します。

基本目標 3 トップスポーツの推進

主な事業

事業名	事業概要
平塚市スポーツ指導者制度の運用（スポーツ課）	資格や能力を活かせていないスポーツ指導者が活躍できるよう、平塚市スポーツ指導者制度を運用します。
スポーツ指導者講習会 ²⁵ （平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、スポーツ課）	スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市スポーツ推進委員協議会と平塚市スポーツクラブ連合が主体となり、地域で活動するスポーツ指導者を対象とした講習会を行います。
平塚市スポーツ協会指導者講習会（平塚市スポーツ協会）	スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市スポーツ協会が主体となり、競技スポーツの指導者を対象とした講習会を行います。

²⁵ 平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合が中心となり開催している地域で活動する指導者の資質向上を図るための講習会のこと。

基本的施策

(13) トップスポーツの活用

本市では、様々なトップスポーツの試合や全国規模のスポーツ大会が開催されています（P.30 表 2-9）。また、トップアスリートの技術や経験は財産であり、トップスポーツを身近に感じることは市民に夢や感動を与えます。試合観戦の臨場感・高揚感を味わうことのできる機会を充実するとともに、選手と直に触れ合えるようなイベントを開催します。

具体的施策

① トップスポーツに触れる機会の充実（総合公園課、みどり公園・水辺課）【みる】

市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズなどの試合を開催し、スポーツ観戦の臨場感・高揚感を味わうことのできる機会を充実します。

② 全国規模大会などの支援（スポーツ課）【みる】

市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、広く市民が観覧できる全国規模のスポーツ大会などを開催する団体を支援します。

③ トップアスリートの活用（スポーツ団体、総合公園課、（公財）平塚市まちづくり財団）

【する・みる】

市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、ひらつか市民スポーツフェスティバル開催に伴い実施される各競技の体験教室、湘南ベルマーレや横浜 DeNA ベイスターズ、横浜ビー・コルセアーズなどのプロスポーツチームのイベント等で、トップアスリートと直に触れ合う機会を設けます。

また、大学の持つ専門的な知識や優秀な人材を指導者として、運動している生徒に直接指導する機会を設けることは、競技の技術の向上に繋がるため、中学生を対象にスポーツ教室を開催します。

基本目標 3 トップスポーツの推進

主な事業

事業名	事業概要
全国規模のスポーツ大会などの主催者への支援（スポーツ課）	市民のスポーツへの興味・関心を高めるため、広く市民が観覧できる全国規模のスポーツ大会などを開催する団体を支援します。
平塚市中学生陸上競技・バスケットボール・バレーボール教室（東海大学、スポーツ課）	大学が有する人材や施設、ノウハウなどを活かし、中学生を対象とした陸上競技・バスケットボール・バレーボール教室を開催します。

基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり

生涯スポーツを推進するためには、身近で気軽に利用できるスポーツ施設の充実や市民のニーズに応じたスポーツ情報の提供などのスポーツを楽しむ環境づくりが欠かせません。

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、特になし、無回答を除くと、1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」でした（P.17 図 2-6）。新規のスポーツ施設の整備は難しいため、身近な小中学校の学校体育施設や公民館、民間スポーツ施設等の有効利用を図る必要があります。また、既存のスポーツ施設は有効利用の観点から、必要に応じて施設の使用時間、使用区分などの見直し、市民が施設を利用しやすい環境整備が重要です。さらに、受益者負担や施設の長寿命化の観点から、施設の健全な経営を図り、サービスを充実させるため、使用料等の見直しが不可欠となります。

本市のスポーツ施設では、平成 18 年度から馬入ふれあい公園サッカー場、平成 20 年度からひらつかサン・ライフアリーナ、平成 21 年度から桃浜町庭球場と軟式庭球場、平成 26 年度から大神スポーツ広場、木村植物園湘南ひらつかパークゴルフ場、土沢野球場、土沢多目的広場の 8 施設で指定管理者制度を導入しています。指定管理者による利用者アンケートによると、満足度は高くなっています（P.39 図 2-32）（P.39 図 2-33）（P.40 図 2-34）。今後も市民ニーズの変化をとらえながら、サービス向上による利用者満足度を高めていく必要があります。

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけになりそうなものとして挙げられた回答をみると、特になし、無回答を除くと 3 位が「健康意識（ダイエットを含む）への啓発」でした（P.17 図 2-6）。市民のスポーツへの自発的な参加を促進するため、「ひらつかスポーツナビ²⁶」、「広報ひらつか」、（公財）平塚市まちづくり財団が発行する「スポーツタウンひらつか」などを用いて、健康意識の啓発を図ります。さらに、「ひらつかスポーツナビ」の内容の充実とサイト自体の周知を図り、スポーツ団体やサークルの情報やスポーツ大会・教室の情報などのスポーツ情報を提供していきます。

²⁶ 平塚市民のスポーツ活動の推進や健康増進のきっかけづくりになることを目指し、スポーツを希望する市民が「いつでも、どこでも、手軽に」市内のスポーツ情報を得ることができるよう、スポーツ団体、イベント、施設等の情報を一元化したスポーツ情報ポータルサイト。

基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり

基本的施策

(14) スポーツ施設等の充実

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、特になし、無回答を除くと1位が「自宅から近距離（徒歩圏）に運動できる場所や施設の整備」でした（P.17 図 2-6）。スポーツの習慣化を図るためには、気軽にスポーツを楽しむことができる場所やスポーツ用具の充実が欠かせません。継続的なスポーツ実践者を増やすため、市民が自宅から近距離でスポーツをすることができるよう、身近な小中学校の学校体育施設や公民館、既存スポーツ施設の活用を図り、スポーツを楽しむ環境を充実します。

具体的施策

①効率的な施設の運営・管理（みどり公園・水辺課、総合公園課、中央公民館、スポーツ課）

【ささえる】

市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすためには、身近な小中学校の学校体育施設や公民館など、スポーツができる施設の有効的な活用が必要です。また、既存のスポーツ施設については、サービス向上による利用者満足度を高めるため、必要に応じて施設の使用方法、使用時間、使用区分などの見直しや使用料の見直しの検討を行い、効率的な施設の運営、管理を図ります。

②その他の施設の情報把握（スポーツ課） 【ささえる】

市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすためには、スポーツを楽しむ場所が必要です。スポーツを楽しむ場所を提供するため、民間スポーツ施設等の情報把握を行います。

③スポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供（スポーツ課） 【ささえる・誰もがアクセス】

学校体育施設の個人開放事業を充実するため、東海大学等と連携し、地域住民が気軽にスポーツ活動に参画できる機会を提供します。

④スポーツ用具の有効活用（スポーツ課） 【する・誰もがアクセス】

市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすため、本市ではニュースポーツを中心としたスポーツ用具を取り揃えています。各種団体にスポーツ用具の貸出しを行い、市民のスポーツ活動の実施を側面から推進します。

主な事業

事業名	事業概要
スポーツ施設の運営・管理（スポーツ課）	利用者がより利用しやすい施設となるよう運営・管理します。
指定管理者制度の活用（みどり公園・水辺課、総合公園課、スポーツ課）	市民サービスの向上と経費の節減を図るため、指定管理者制度を活用します。
学校体育施設開放の利用促進（スポーツ課）	市民がスポーツに取り組む場所を増やすため、学校体育施設開放事業を推進するとともに、個人利用ができる機会を設けます。
スポーツ用具の貸し出し（スポーツ課）	市民が気軽にスポーツを楽しむことができる機会を増やすためにスポーツ用具の貸し出しを行います。

基本目標 4 スポーツを楽しむ環境づくり

基本的施策

(15) スポーツ情報の提供の充実

運動習慣のない市民にとって、運動・スポーツを始めるきっかけとなりそうなものを聞いたところ、特になし、無回答を除くと2位が「仲間、家族などからの誘い」でした（P.17 図 2-6）。豊富な情報はスポーツへの興味・関心を高めるとともに、スポーツを始めるきっかけづくりとなります。継続的なスポーツ実践者を増やし、スポーツ未実施者を減少させるため、スポーツに関する情報を多様な手段を用いて提供します。また、スポーツ指導者を対象とした講習会を通じてスポーツ情報を提供します。

具体的施策

①スポーツ情報の提供（スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）【ささえる】

スポーツへの興味・関心を高めるため、「広報ひらつか」や「スポーツタウンひらつか」、地元メディアなどを活用して、スポーツに関する情報を充実させます。さらに、スポーツを始めたい人が手軽に情報を得られるよう、「ひらつかスポーツナビ」などを用いて、スポーツに関連する団体やサークルの情報やスポーツ大会・教室の情報などを一元化して提供していきます。

②継続的なアクセスの確保（平塚市スポーツ協会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、スポーツ課）【ささえる・誰もがアクセス】

平塚市スポーツ協会、平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合と連携し、スポーツ指導者を対象とした講習会を実施することにより参加者の資質向上を図るとともに、新たな情報を得ることにより継続的に情報にアクセスできる機会を提供します。

主な事業

事業名	事業概要
スポーツに関する情報の提供（スポーツ課、（公財）平塚市まちづくり財団）	スポーツを始めたい人が手軽にスポーツに関する情報を得られるよう、「ひらつかスポーツナビ」「スポーツタウンひらつか」などを用いて広く市民に提供します。
地元メディアの活用（スポーツ課）	地元メディアを活用し、スポーツに関する情報を広く市民に提供します。
スポーツ指導者講習会 ²⁷ （平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合、スポーツ課）【再掲】	スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市スポーツ推進委員協議会と平塚市スポーツクラブ連合が主体となり、地域で活動するスポーツ指導者を対象とした講習会を行います。
平塚市スポーツ協会指導者講習会（平塚市スポーツ協会）【再掲】	スポーツ指導者の資質向上を図るため、平塚市スポーツ協会が主体となり、競技スポーツの指導者を対象とした講習会を行います。

²⁷ 平塚市スポーツ推進委員協議会、平塚市スポーツクラブ連合が中心となり開催している地域で活動する指導者の資質向上を図るための講習会のこと。

第4章

第4章 スポーツ推進計画の実現に向けて

1 計画の推進体制

(1) スポーツ関係団体などとの連携による推進

スポーツ関係団体、大学、トップスポーツなどの役割を明確にした上で連携し、計画的な事業の推進を図ります。（表 2- 15）

表 2- 15 スポーツ関係団体などの主な役割

スポーツ関係団体	内容
平塚市スポーツ協会	各種目競技の大会開催や競技力強化事業などの実施を通して、競技スポーツの推進を担う。
平塚市体育振興連絡協議会	地区体育の普及・発展を目指し、地域のスポーツ活動の推進を担う。
平塚市スポーツ推進委員協議会	スポーツの実技指導や行政との連絡調整などを通して、本市及び地域のスポーツ推進を担う。
平塚レクリエーション連盟	各種レクリエーションの実践を通して、本市レクリエーションの普及・発展を担う。
平塚市スポーツクラブ連合	スポーツクラブの育成及び相互の連絡、協調を通して、スポーツクラブ活動を活性化し、地域スポーツの推進を担う。
（公財）平塚市まちづくり財団	本市スポーツ施策を補完する団体として、スポーツ教室などによるスポーツをする機会の提供をはじめ、スポーツ団体などの活動支援、スポーツ情報の提供などを担う。
湘南ベルマーレ	プロサッカーチームとして、市民に夢や希望を与え、スポーツの興味・関心を高めるとともに専門的知識やノウハウの提供を通して、市民のスポーツ活動及び健康づくりの推進を担う。
横浜 DeNA ベイスターズ	プロ野球チームとして、市民に夢や希望を与え、スポーツの興味・関心を高めるとともに専門的知識やノウハウの提供を通して、市民のスポーツ活動の推進を担う。
横浜ビー・コルセアーズ	プロバスケットボールチームとして、市民に夢や希望を与え、スポーツの興味・関心を高めるとともに専門的知識やノウハウの提供を通して、市民のスポーツ活動の推進を担う。
東海大学	大学が有する専門的知識や人材の提供及び交流を通して、本市及び地域のスポーツ活動の推進を担う。

(2) 庁内連携による推進

市民のスポーツへの志向は、従来の競技スポーツから、健康づくりや余暇時間を利用した生きがいづくりとしてスポーツを楽しむ生涯スポーツまで多様化しています。市民の多様なニーズに対応する施策を効率的に展開するため、スポーツに関係する課との役割を明確にした上で連携をし、水平展開しながら計画的な事業の推進を図ります。（表 2-16）

表 2-16 関係課の主な役割

関係課 (所管する計画)	内容
事業課	競輪事業の一環として自転車を活用したスポーツの普及・振興を担う。
協働推進課	スポーツに関わる市民活動団体の活動支援や行政との協働へつなぐ役割を担う。
地域包括ケア推進課 (平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画）)	高齢者の健康づくりや生きがいづくりを目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
高齢福祉課	
保険年金課	
障がい福祉課 (平塚市障がい者福祉計画)	障がい者の自立と社会参加を目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
保育課 (平塚市子ども・子育て支援事業計画)	幼児の心身の健全な発達を目指す中で、スポーツに関連する分野を担う。
健康課 (平塚市健康増進計画)	市民の健康づくりを目指す中で、運動に関連する分野を担う。
みどり公園・水辺課	スポーツをする場やトップスポーツに触れる機会の提供を担う。
総合公園課	スポーツをする場、トップスポーツに触れる機会の提供及びトップアスリートの活用を担う。
教育指導課	学校での体育・保健体育の授業及び運動部活動などの指導的・統括的な役割を担う。
スポーツ課	各種スポーツ事業の実施やスポーツをする場の提供など、スポーツ施策を統括し、推進役を担う。
中央公民館	生涯学習の推進を目指す中で、スポーツをする場の提供やスポーツ・レクリエーションをする機会の提供を担う。

2 計画の進行管理

計画の着実な推進を図るため定期的な進行管理を行います。スポーツ関連事業を効果的に推進するために、計画・実施・評価・見直しという PDCA サイクルを確立し継続的に改善を図っていきます。

計画の進捗状況の点検及び評価については、「平塚市スポーツ推進審議会²⁸」に報告し、改善の検討などを行います。進捗状況はホームページなどで市民に公表します。

²⁸ スポーツの推進に関する重要事項について調査審議し、教育委員会に建議する審議会のこと。

3 計画指標

「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」を実現するために、目標値を掲げ、取組みの成果を図ります。また、今後、平塚市スポーツ推進審議会や関係団体の意見なども踏まえ、柔軟な進行管理に努めてまいります。

（目標値は、現状値を基に令和6年度から10年間の計画期間に取り組む指標としています。）

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度以降スポーツ教室、各種大会及び学校施設開放利用等実績が大きく減少しています。このため、新たな3つの視点を取り入れた施策や取組により指標を設定し、目標の実現に向けて推進していきます。

（1）基本目標1「生涯スポーツの推進」の指標

・市民の週1回以上のスポーツ実施率



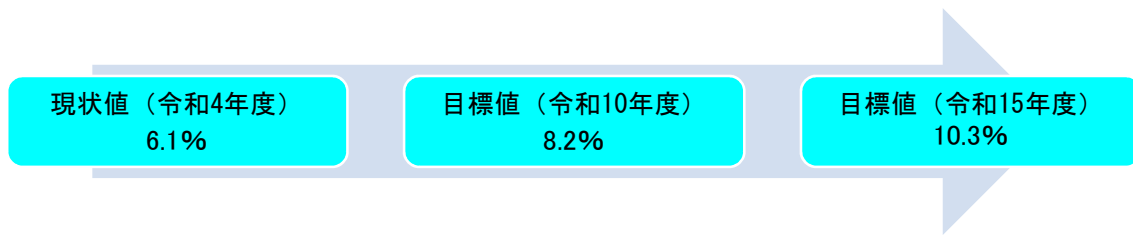
参考：令和10年度・令和15年度目標値は、国の週1回以上のスポーツ実施率の1年あたりの変化率（0.18ポイント）を上げ幅とする。【市民アンケート結果から】

・児童生徒に占める少年少女スポーツ大会・スポーツ教室の参加者数の割合



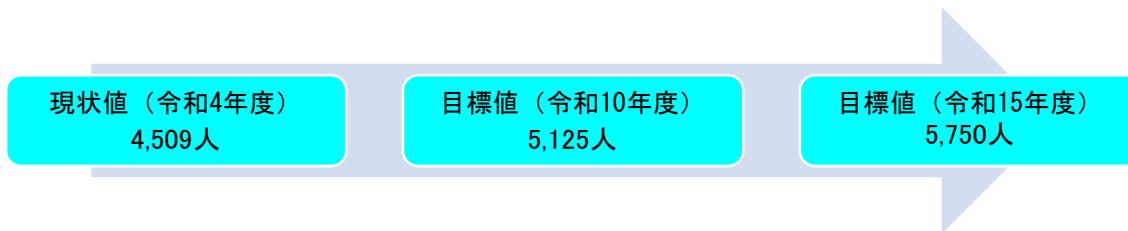
参考：令和10年度目標値は、令和15年度目標値と現状値の中間の数値とする。【社会体育要覧各種行事実施状況から】

・障がい者スポーツの大会や普及啓発事業への参加者数の割合



参考：令和 10 年度目標値は、前計画平成 29 年度実績値 4 %、令和 4 年度現状値 6.1%であることから、変化率（2.1 ポイント）を加えた 8.2%とする。令和 15 年度目標値は、令和 10 年度目標値に変化率（2.1 ポイント）を加えた 10.3%とする。【市民アンケート結果から】

・パラスポーツ・ニュースポーツ大会等参加者数



参考：令和 15 年度目標値は、本市総合計画において 4 年間で 500 人上げ幅を目標としていることから、1 年あたり 125 人とし、令和 10 年度目標値は 5,125 人、令和 15 年度目標値 5,750 人とする。【社会体育要覧各種行事実施状況から】

（２）基本目標２「地域スポーツの推進」の指標

・地区体育振興事業の参加者数



参考：令和 10 年度目標値は、令和 15 年度目標値と現状値の中間の数値（100 人単位）とする。【地区体育振興事業報告書から】

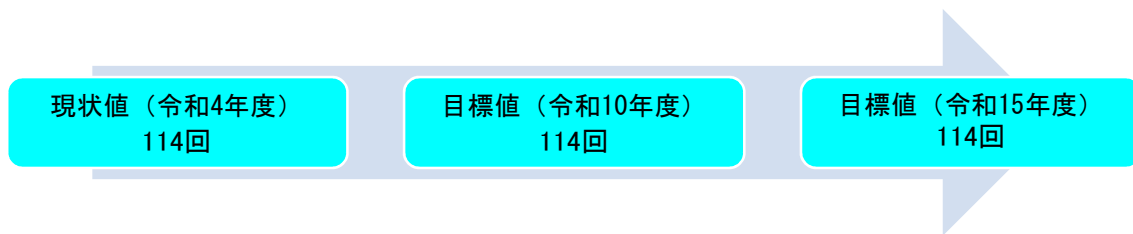
・大学と連携したスポーツイベントの参加者数



参考：令和 10 年度目標値は、令和 15 年度目標値と現状値の中間の数値（100 人単位）とする。【社会体育要覧 各種行事実施状況から】

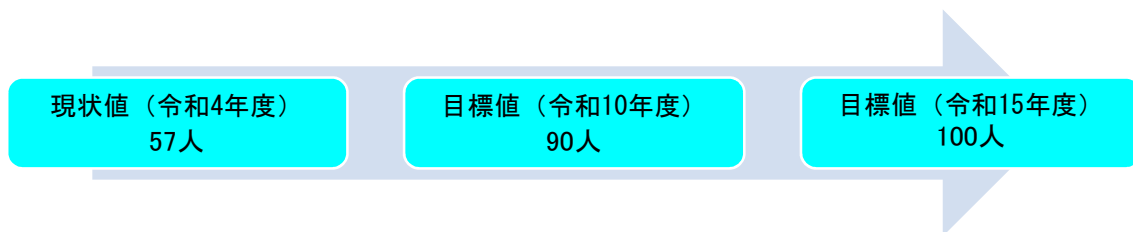
（3）基本目標3「トップスポーツの推進」の指標

・湘南ベルマーレ市内巡回事業、親子サッカー教室及び幼児交流大会の開催回数



参考：今後少子化が想定されることから、令和 10 年度目標値、令和 15 年度目標値とも開催回数は現状維持とする。【湘南ベルマーレから】

・国民スポーツ大会（旧国体）、全国大会などの出場者数



参考：令和 15 年度目標値は、平成 30 年度実績値 92 人、令和元年度実績値 103 人であることから、100 人とする。令和 10 年度目標値は、平成 30 年度の実績値 92 人を踏まえ 90 人とする。【スポーツ関係団体から】

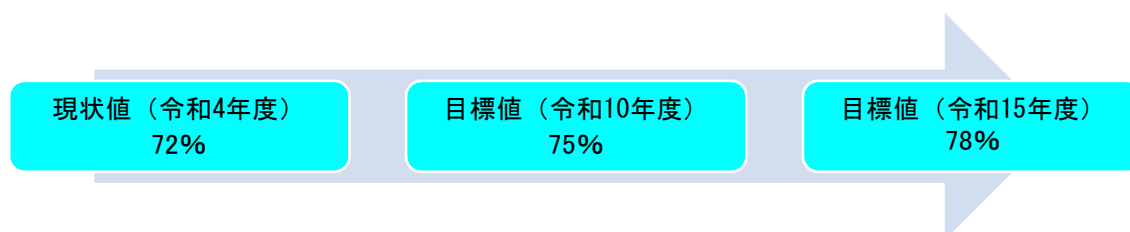
(4) 基本目標4「スポーツを楽しむ環境づくり」の指標

- ・軟式庭球場利用における総合的な満足度（「満足」と「ほぼ満足」の割合）



参考：目標値は、現状値（満足度）が非常に高いことから、5年あたり1%の上げ幅とし、令和10年度目標値は94%、令和15年度目標値は95%とする。【指定管理者から】

- ・桃浜庭球場利用における総合的な満足度（「満足」と「ほぼ満足」の割合）



参考：令和15年度目標値は、前計画平成24年度現状値66%であり令和4年度現状値72%と比較し約10年で6ポイント増加していることから、令和4年度現状値72%に6ポイント加えた78%とする。令和10年度目標値は、令和15年度目標値と現状値の中間の数値とする。【指定管理者から】

- ・学校体育施設開放事業利用者数



参考：令和10年度目標値は、令和15年度目標値と現状値の中間の数値とする。【社会体育要覧各種行事実施状況から】

第5章

第5章 資料編

1 アンケート調査概要

1 調査目的

「平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査」は、令和6年度から10か年計画期間とする、スポーツ推進計画改訂に向けた取組の一環として平塚市民のスポーツに関する意識及びスポーツ実施状況を把握するために実施いたしました。

2 調査方法・回収状況

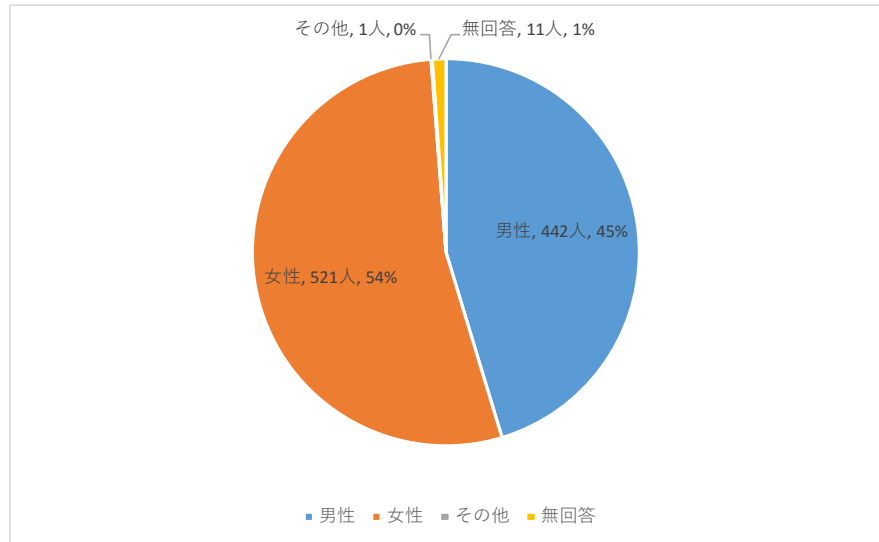
- ① 調査対象 令和5年2月10日時点住民基本台帳に記載された満18歳から満89歳までの平塚市民
- ② 対象者数 3,000人
- ③ 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- ④ 調査方法 郵送方式（料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送）
WEBでの回答方式（二次元コードを利用した回答用フォームへの入力）
- ⑤ 調査期間 令和5年3月1日から令和5年3月24日まで
- ⑥ 回収数 975件（発送数3,003件）
- ⑦ 回収率 32.5%

3 報告書作成にあたって

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数（N）として、少数第2位を四捨五入したため、回答比率の合計が100%にならない場合があります。
- ② 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- ③ 無効回答を除いているため、設問によってサンプル数は異なります。

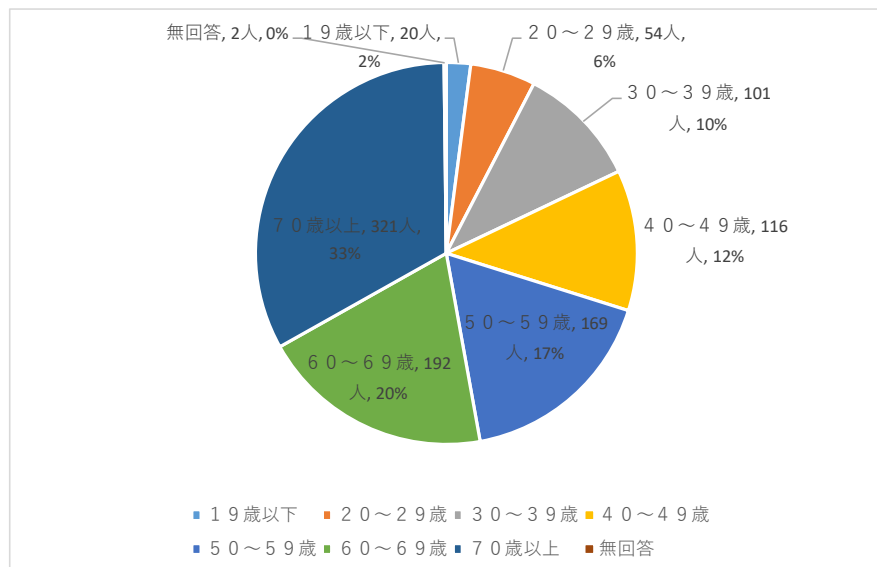
問1 あなたの性別をお答えください。

男性	442人	45.3%
女性	521人	53.4%
その他	1人	0.1%
無回答	11人	1.1%
合計	975人	



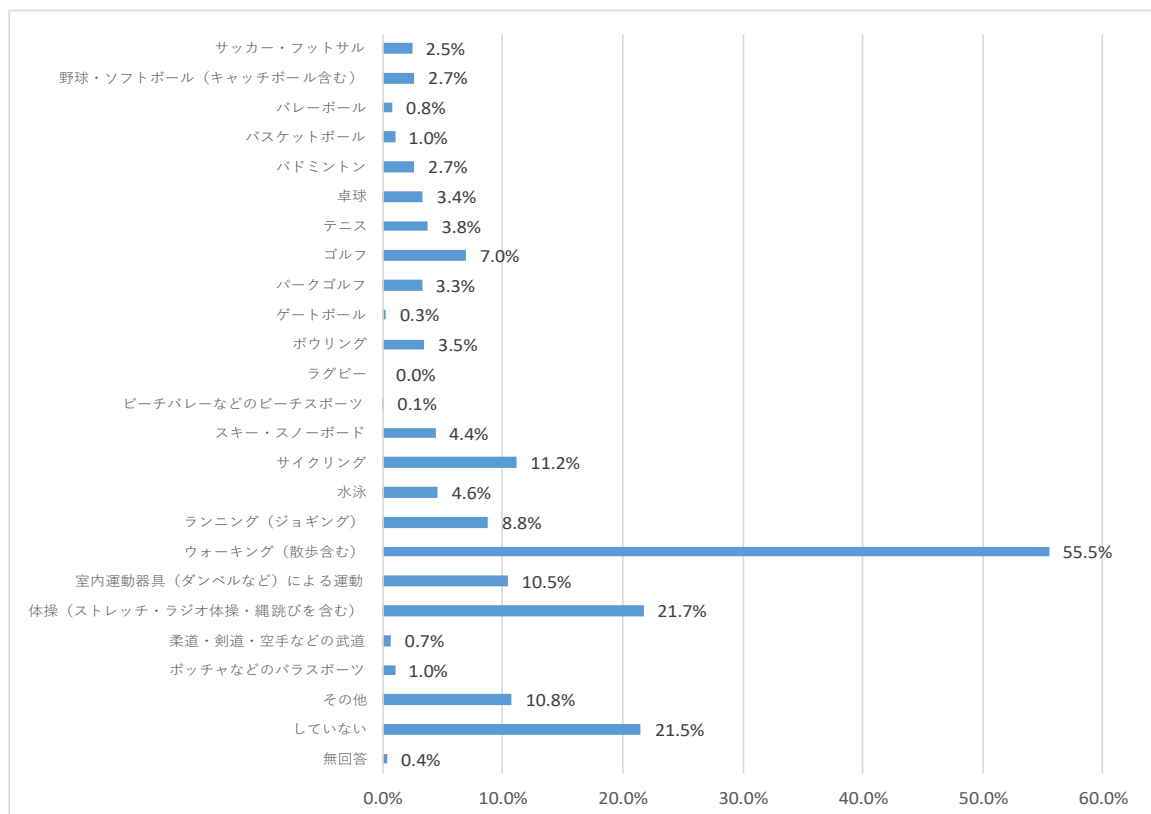
問2 あなたの年齢をお答えください。

19歳以下	20人	2.1%
20～29歳	54人	5.5%
30～39歳	101人	10.4%
40～49歳	116人	11.9%
50～59歳	169人	17.3%
60～69歳	192人	19.7%
70歳以上	321人	32.9%
無回答	2人	0.2%
合計	975人	



問3 この1年間で30分以上行った運動やスポーツはありますか。(複数回答)

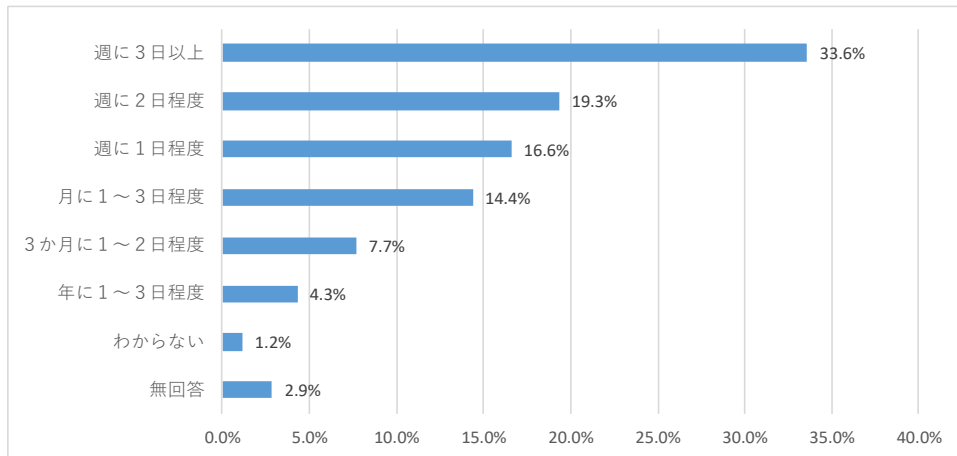
1 サッカー・フットサル	2.5%
2 野球・ソフトボール(キャッチボール含む)	2.7%
3 バレーボール	0.8%
4 バスケットボール	1.0%
5 バドミントン	2.7%
6 卓球	3.4%
7 テニス	3.8%
8 ゴルフ	7.0%
9 パークゴルフ	3.3%
10 ゲートボール	0.3%
11 ボウリング	3.5%
12 ラグビー	0.0%
13 ビーチバレーなどのビーチスポーツ	0.1%
14 スキー・スノーボード	4.4%
15 サイクリング	11.2%
16 水泳	4.6%
17 ランニング(ジョギング)	8.8%
18 ウォーキング(散歩含む)	55.5%
19 室内運動器具(ダンベルなど)による運動	10.5%
20 体操(ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む)	21.7%
21 柔道・剣道・空手などの武道	0.7%
22 ボッチャなどのパラスポーツ	1.0%
23 その他	10.8%
24 していない	21.5%
25 無回答	0.4%



問4 この1年間で30分以上運動した日はどのくらいありますか。

※問3でいずれかの運動やスポーツを行ったと答えた方。

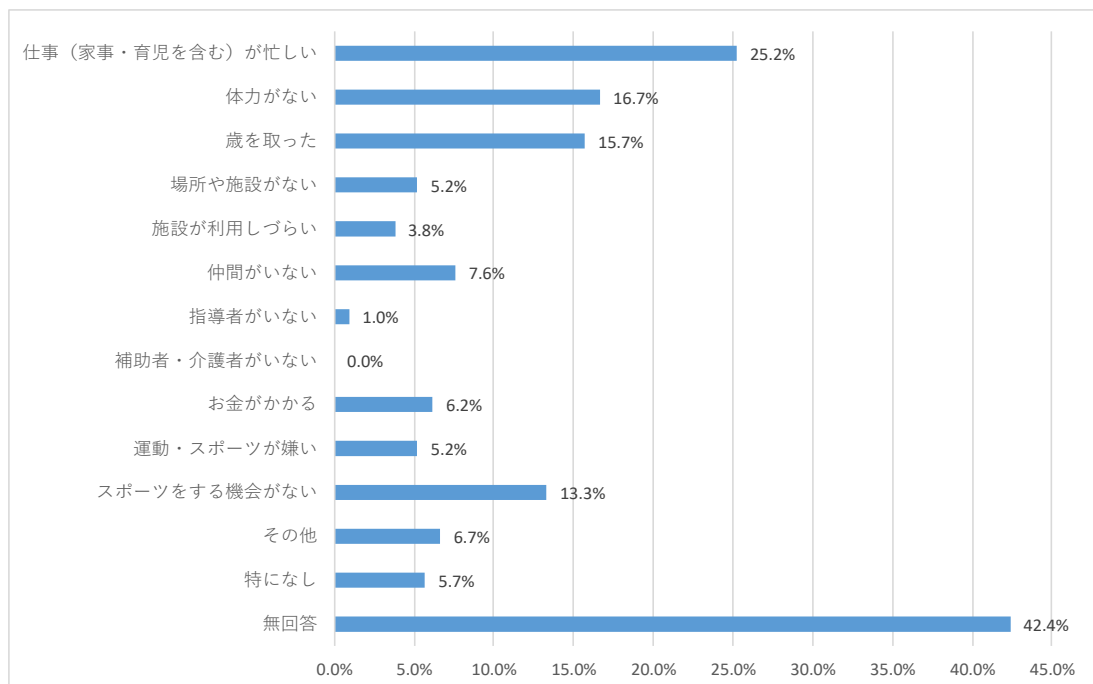
1 週に3日以上	33.6%	5 3か月に1～2日程度	7.7%
2 週に2日程度	19.3%	6 年に1～3日程度	4.3%
3 週に1日程度	16.6%	7 わからない	1.2%
4 月に1～3日程度	14.4%	8 無回答	2.9%



問5 スポーツをしていない理由はどのようなことですか。(複数回答)

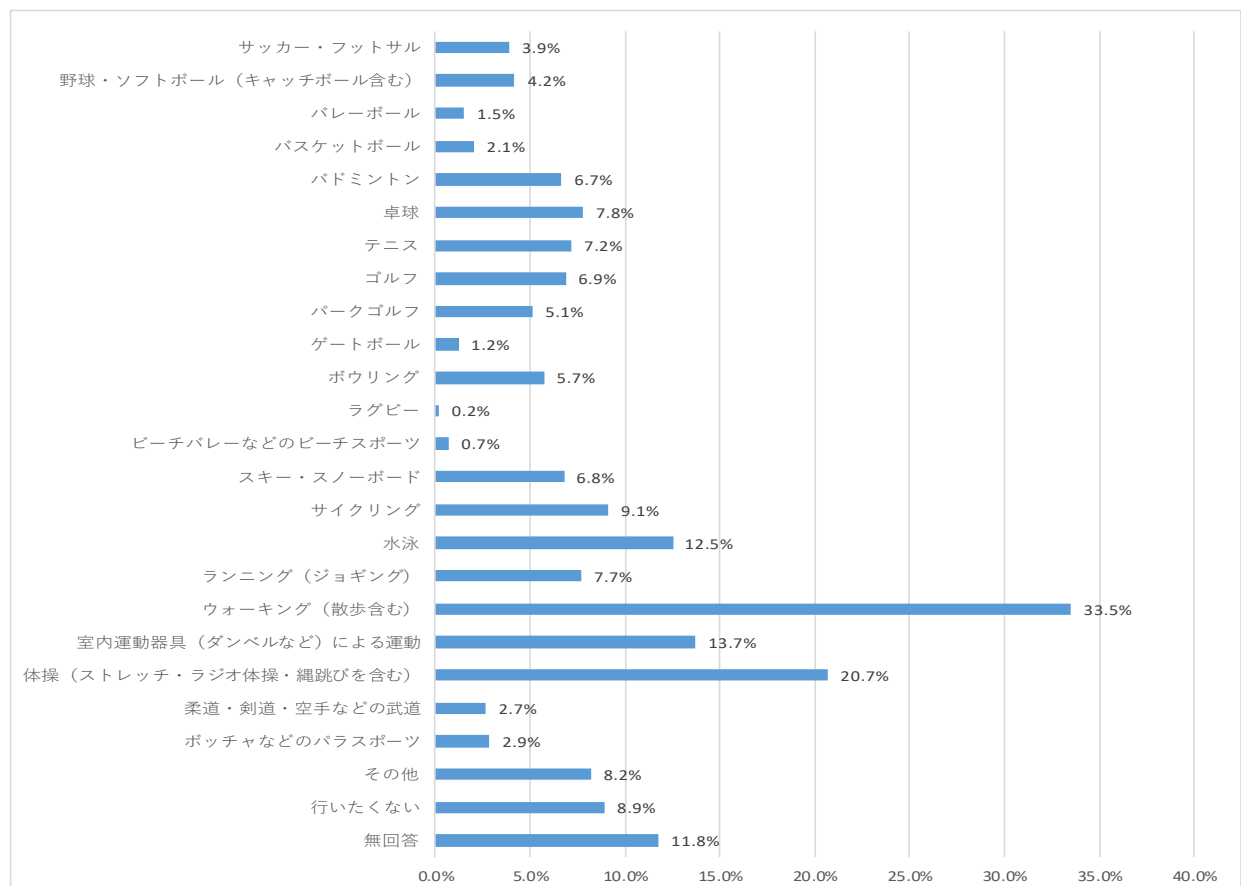
※問3でスポーツをしていないと答えた方。

1 仕事(家事・育児を含む)が忙しい	25.2%	8 補助者・介護者がいない	0.0%
2 体力がない	16.7%	9 お金がかかる	6.2%
3 歳を取った	15.7%	10 運動・スポーツが嫌い	5.2%
4 場所や施設がない	5.2%	11 スポーツをする機会がない	13.3%
5 施設が利用しづらい	3.8%	12 その他	6.7%
6 仲間がいない	7.6%	13 特になし	5.7%
7 指導者がいない	1.0%	14 無回答	42.4%



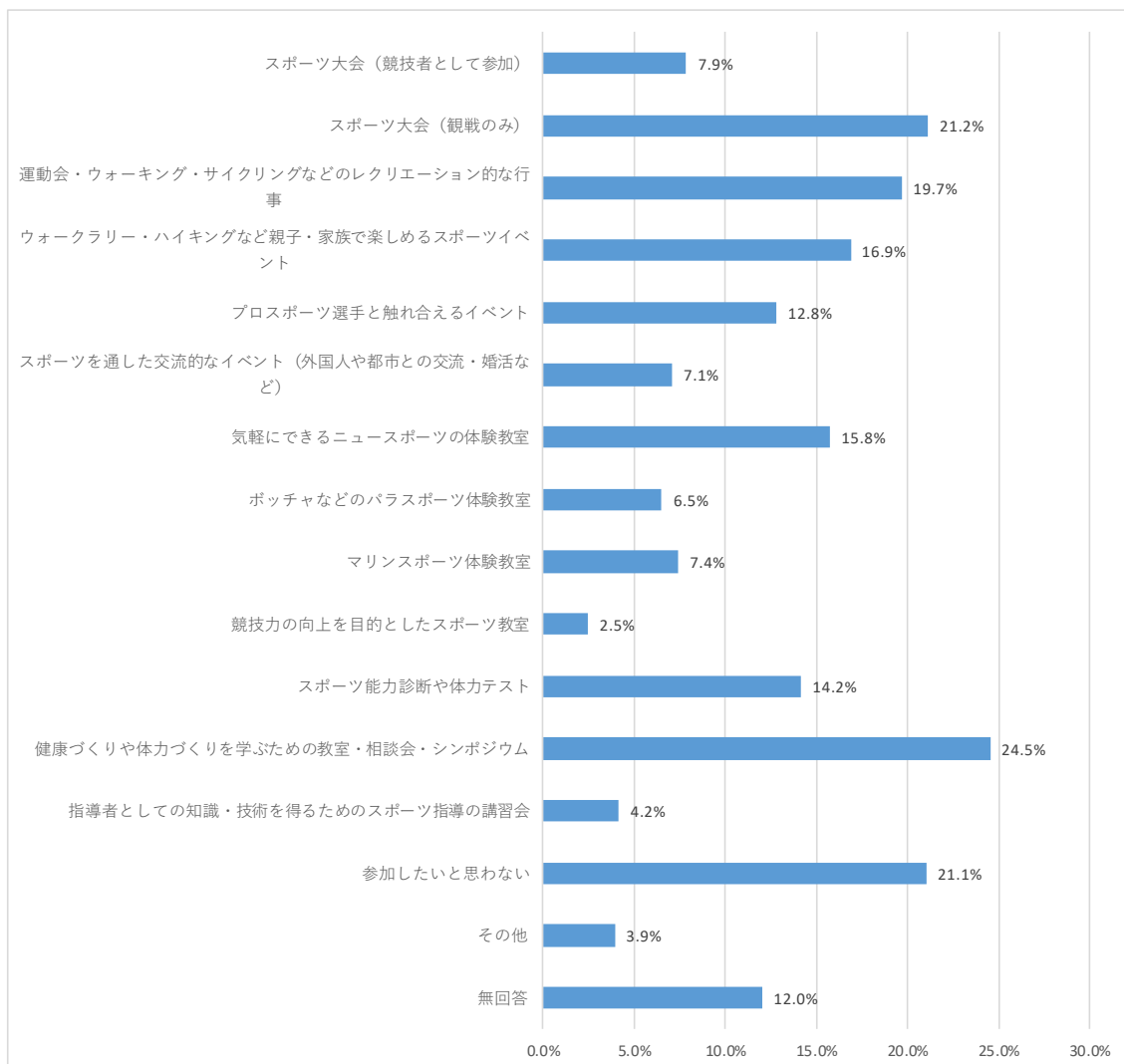
問6 今後、行いたい運動やスポーツはありますか。(複数回答)

1 サッカー・フットサル	3.9%
2 野球・ソフトボール(キャッチボール含む)	4.2%
3 バレーボール	1.5%
4 バスケットボール	2.1%
5 バドミントン	6.7%
6 卓球	7.8%
7 テニス	7.2%
8 ゴルフ	6.9%
9 パークゴルフ	5.1%
10 ゲートボール	1.2%
11 ボウリング	5.7%
12 ラグビー	0.2%
13 ビーチバレーなどのビーチスポーツ	0.7%
14 スキー・スノーボード	6.8%
15 サイクリング	9.1%
16 水泳	12.5%
17 ランニング(ジョギング)	7.7%
18 ウォーキング(散歩含む)	33.5%
19 室内運動器具(ダンベルなど)による運動	13.7%
20 体操(ストレッチ・ラジオ体操・縄跳びを含む)	20.7%
21 柔道・剣道・空手などの武道	2.7%
22 ボッチャなどのパラスポーツ	2.9%
23 その他	8.2%
24 行いたくない	8.9%
25 無回答	11.8%



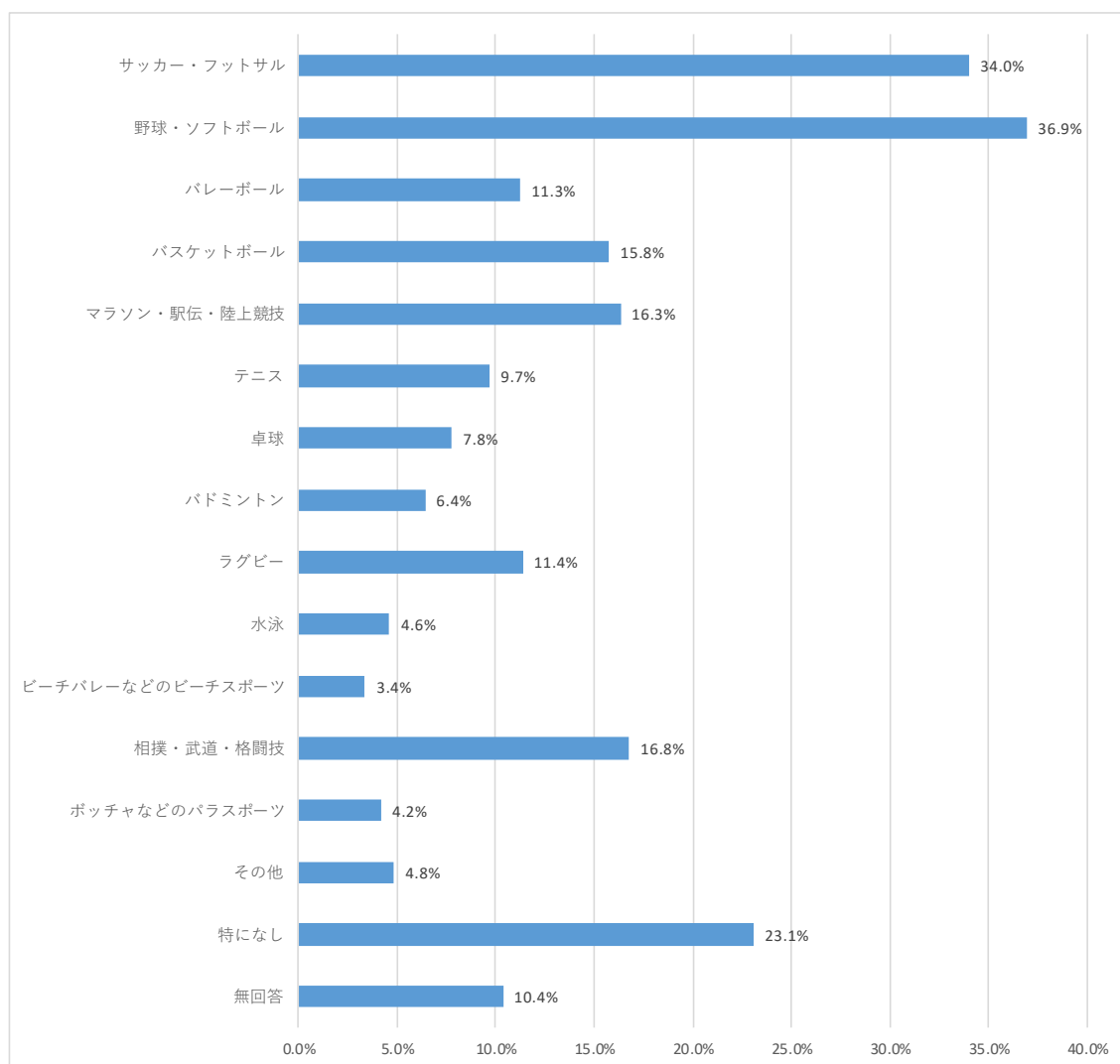
問7 今後、どのような行事・教室に参加したいですか。(複数回答)

1 スポーツ大会(競技者として参加)	7.9%
2 スポーツ大会(観戦のみ)	21.2%
3 運動会・ウォーキング・サイクリングなどのレクリエーション的な行事	19.7%
4 ウォークラリー・ハイキングなど親子・家族で楽しめるスポーツイベント	16.9%
5 プロスポーツ選手と触れ合えるイベント	12.8%
6 スポーツを通じた交流的なイベント(外国人や都市との交流・婚活など)	7.1%
7 気軽にできるニュースポーツの体験教室	15.8%
8 ボッチャなどのパラスポーツ体験教室	6.5%
9 マリンスポーツ体験教室	7.4%
10 競技力の向上を目的としたスポーツ教室	2.5%
11 スポーツ能力診断や体力テスト	14.2%
12 健康づくりや体力づくりを学ぶための教室・相談会・シンポジウム	24.5%
13 指導者としての知識・技術を得るためのスポーツ指導の講習会	4.2%
14 参加したいと思わない	21.1%
15 その他	3.9%
16 無回答	12.0%



問8 直接会場へ行き、観戦したい競技はありますか。(複数回答)

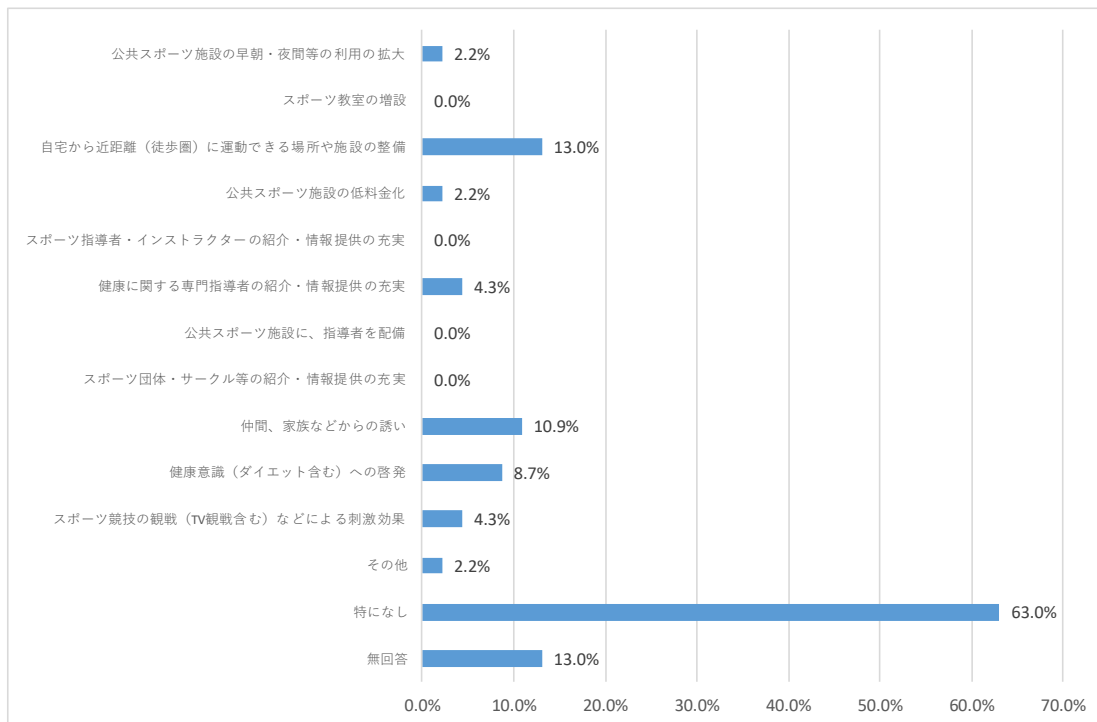
1 サッカー・フットサル	34.0%	9 ラグビー	11.4%
2 野球・ソフトボール	36.9%	10 水泳	4.6%
3 バレーボール	11.3%	11 ビーチバレーなどのビーチスポーツ	3.4%
4 バスケットボール	15.8%	12 相撲・武道・格闘技	16.8%
5 マラソン・駅伝・陸上競技	16.3%	13 ポッチャなどのパラスポーツ	4.2%
6 テニス	9.7%	14 その他	4.8%
7 卓球	7.8%	15 特になし	23.1%
8 バドミントン	6.4%	16 無回答	10.4%



問9 あなたが運動やスポーツを始めるきっかけになるとしたらどのようなことですか。(複数回答)

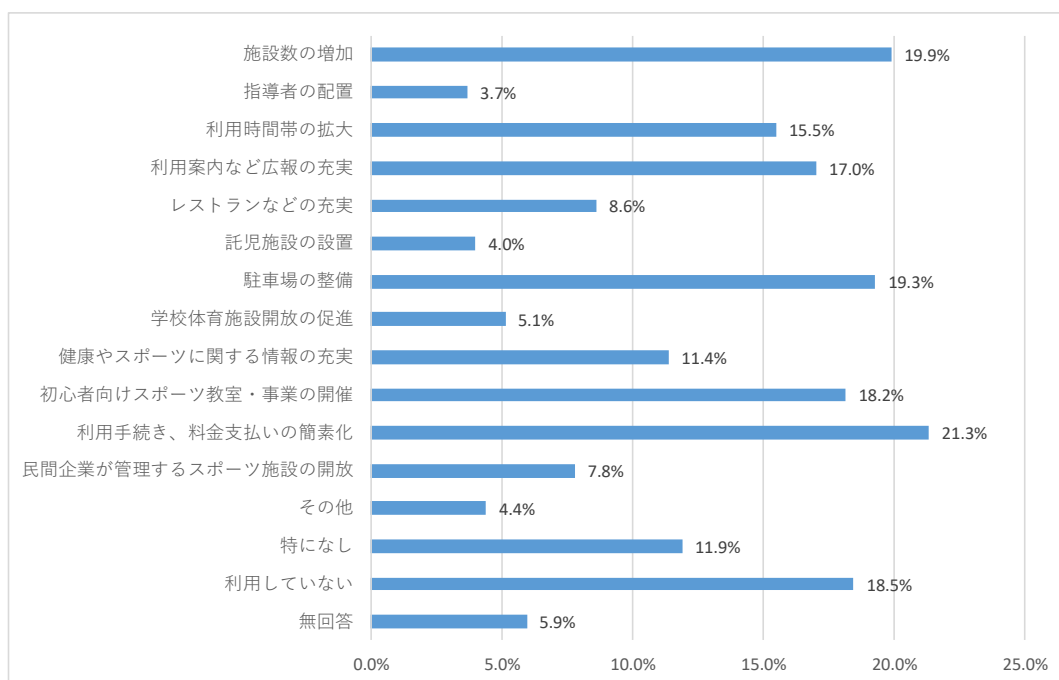
※問3で「していない」、問6で「行いたくない」と答えた方。

1 公共スポーツ施設の早朝・夜間等の利用の拡大	2.2%
2 スポーツ教室の増設	0.0%
3 自宅から近距離(徒歩圏)に運動できる場所や施設の整備	13.0%
4 公共スポーツ施設の低料金化	2.2%
5 スポーツ指導者・インストラクターの紹介・情報提供の充実	0.0%
6 健康に関する専門指導者の紹介・情報提供の充実	4.3%
7 公共スポーツ施設に、指導者を配備	0.0%
8 スポーツ団体・サークル等の紹介・情報提供の充実	0.0%
9 仲間、家族などからの誘い	10.9%
10 健康意識(ダイエット含む)への啓発	8.7%
11 スポーツ競技の観戦(TV観戦含む)などによる刺激効果	4.3%
12 その他	2.2%
13 特になし	63.0%
14 無回答	13.0%



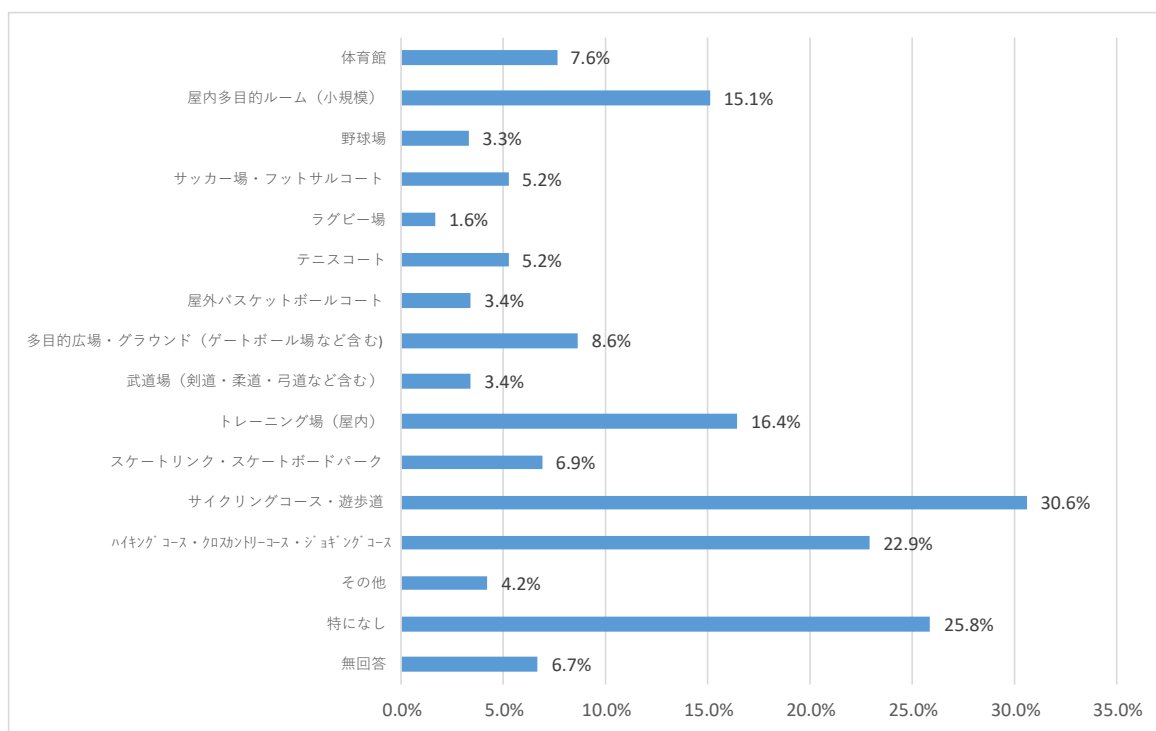
問10 市内体育館(学校体育館含む)、プール、テニスコート、グラウンド(学校運動場含む)など公共スポーツ施設に望むことはどのようなことですか。(複数回答)

1 施設数の増加	19.9%	9 健康やスポーツに関する情報の充実	11.4%
2 指導者の配置	3.7%	10 初心者向けスポーツ教室・事業の開催	18.2%
3 利用時間帯の拡大	15.5%	11 利用手続き、料金支払いの簡素化	21.3%
4 利用案内など広報の充実	17.0%	12 民間企業が管理するスポーツ施設の開放	7.8%
5 レストランなどの充実	8.6%	13 その他	4.4%
6 託児施設の設置	4.0%	14 特になし	11.9%
7 駐車場の整備	19.3%	15 利用していない	18.5%
8 学校体育施設開放の促進	5.1%	16 無回答	5.9%



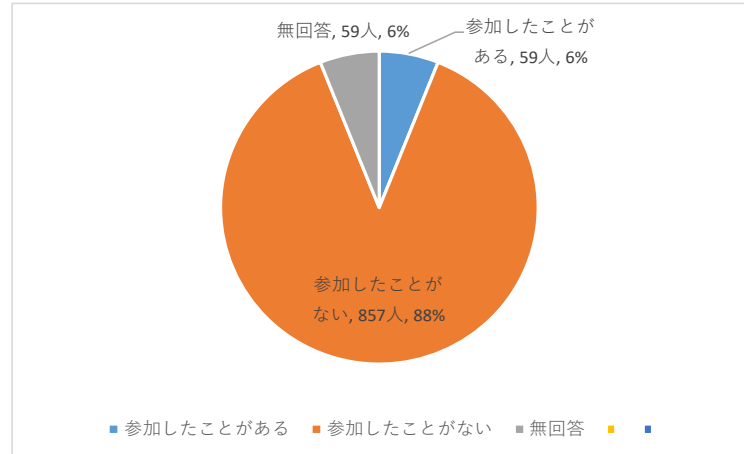
問11 設置を希望するスポーツ施設はありますか。(複数回答)

1 体育館	7.6%
2 屋内多目的ルーム(小規模)	15.1%
3 野球場	3.3%
4 サッカー場・フットサルコート	5.2%
5 ラグビー場	1.6%
6 テニスコート	5.2%
7 屋外バスケットボールコート	3.4%
8 多目的広場・グラウンド(ゲートボール場など含む)	8.6%
9 武道場(剣道・柔道・弓道など含む)	3.4%
10 トレーニング場(屋内)	16.4%
11 スケートリンク・スケートボードパーク	6.9%
12 サイクリングコース・遊歩道	30.6%
13 ハイキングコース・クロスカントリーコース・ジョギングコース	22.9%
14 その他	4.2%
15 特になし	25.8%
16 無回答	6.7%



問12 パラスポーツ(障がい者スポーツ)における大会等の普及啓発事業に参加(観戦含む)したことがありますか。

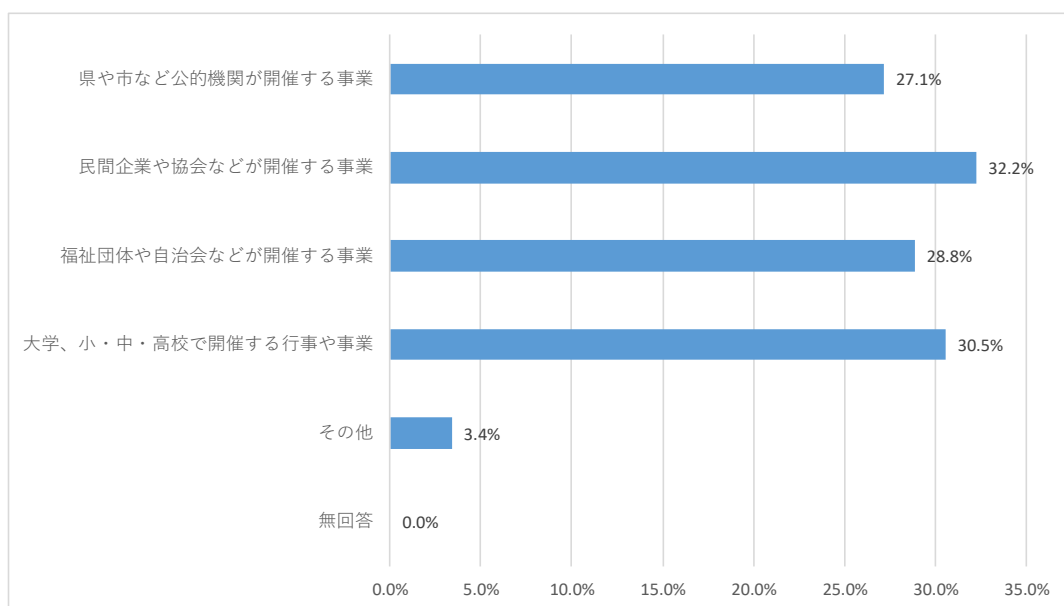
参加したことがある	59人	6.1%
参加したことがない	857人	87.9%
無回答	59人	6.1%
合計	975人	



問12-2 どのような事業に参加したことがありますか。(複数回答)

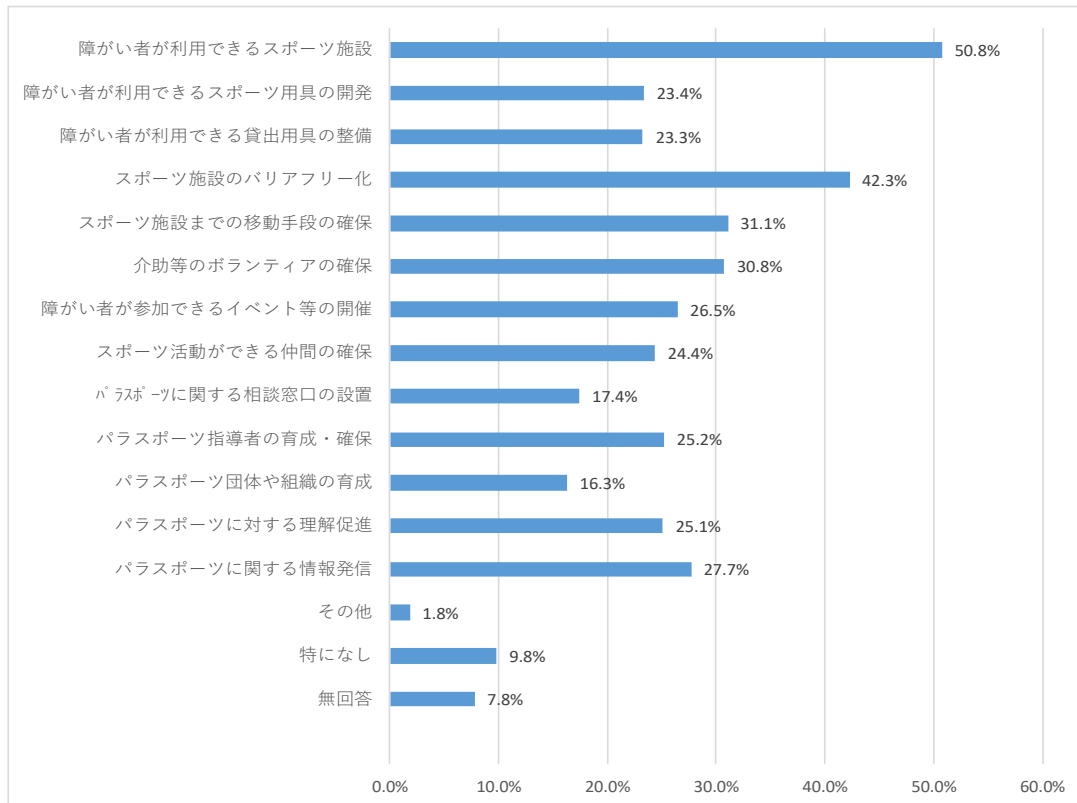
※問12で「参加したことがある」と答えた方。

1 県や市など公的機関が開催する事業	27.1%
2 民間企業や協会などが開催する事業	32.2%
3 福祉団体や自治会などが開催する事業	28.8%
4 大学、小・中・高校で開催する行事や事業	30.5%
5 その他	3.4%
6 無回答	0.0%



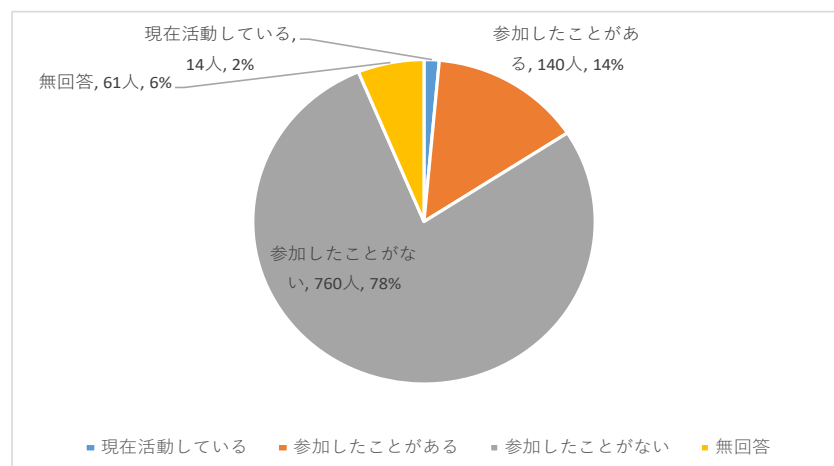
問13 障がいのある方々にとって、スポーツをより身近なものにするために何が必要だと考えますか。
(複数回答)

1 障がい者が利用できるスポーツ施設	50.8%	9 パラスポーツに関する相談窓口の設置	17.4%
2 障がい者が利用できるスポーツ用具の開発	23.4%	10 パラスポーツ指導者の育成・確保	25.2%
3 障がい者が利用できる貸出用具の整備	23.3%	11 パラスポーツ団体や組織の育成	16.3%
4 スポーツ施設のバリアフリー化	42.3%	12 パラスポーツに対する理解促進	25.1%
5 スポーツ施設までの移動手段の確保	31.1%	13 パラスポーツに関する情報発信	27.7%
6 介助等のボランティアの確保	30.8%	14 その他	1.8%
7 障がい者が参加できるイベント等の開催	26.5%	15 特になし	9.8%
8 スポーツ活動ができる仲間の確保	24.4%	16 無回答	7.8%



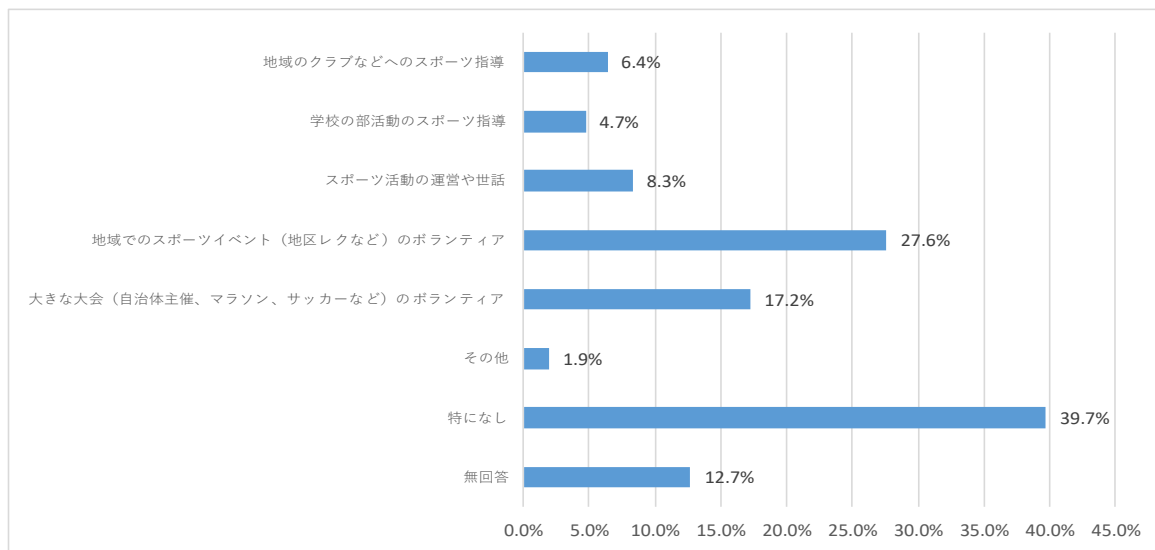
問14 スポーツに関するボランティア活動をしたことがありますか。

現在活動している	14人	1.4%
参加したことがある	140人	14.4%
参加したことがない	760人	77.9%
無回答	61人	6.3%
合計	975人	



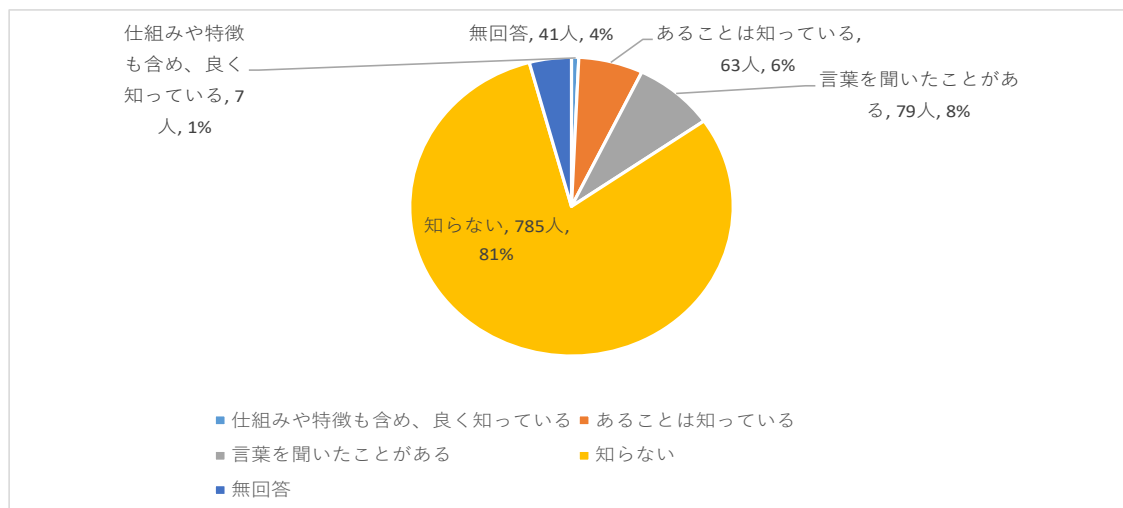
問15 スポーツに関するボランティア活動に参加している、または参加するとしたらどのようなものですか。(複数回答)

1 地域のクラブなどへのスポーツ指導	6.4%
2 学校の部活動のスポーツ指導	4.7%
3 スポーツ活動の運営や世話	8.3%
4 地域でのスポーツイベント(地区レクなど)のボランティア	27.6%
5 大きな大会(自治体主催、マラソン、サッカーなど)のボランティア	17.2%
6 その他	1.9%
7 特になし	39.7%
8 無回答	12.7%



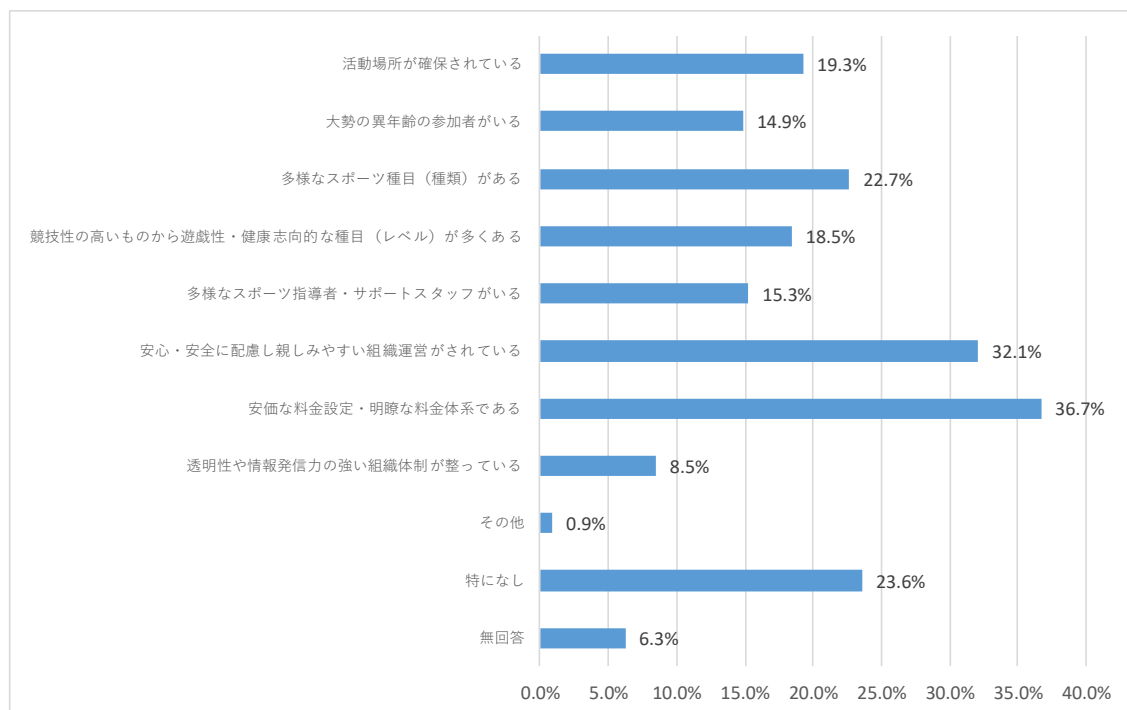
問16 あなたは「総合型地域スポーツクラブ」を知っていますか。

仕組みや特徴も含め、良く知っている	7人	0.7%
あることは知っている	63人	6.5%
言葉を聞いたことがある	79人	8.1%
知らない	785人	80.5%
無回答	41人	4.2%
合計	975人	



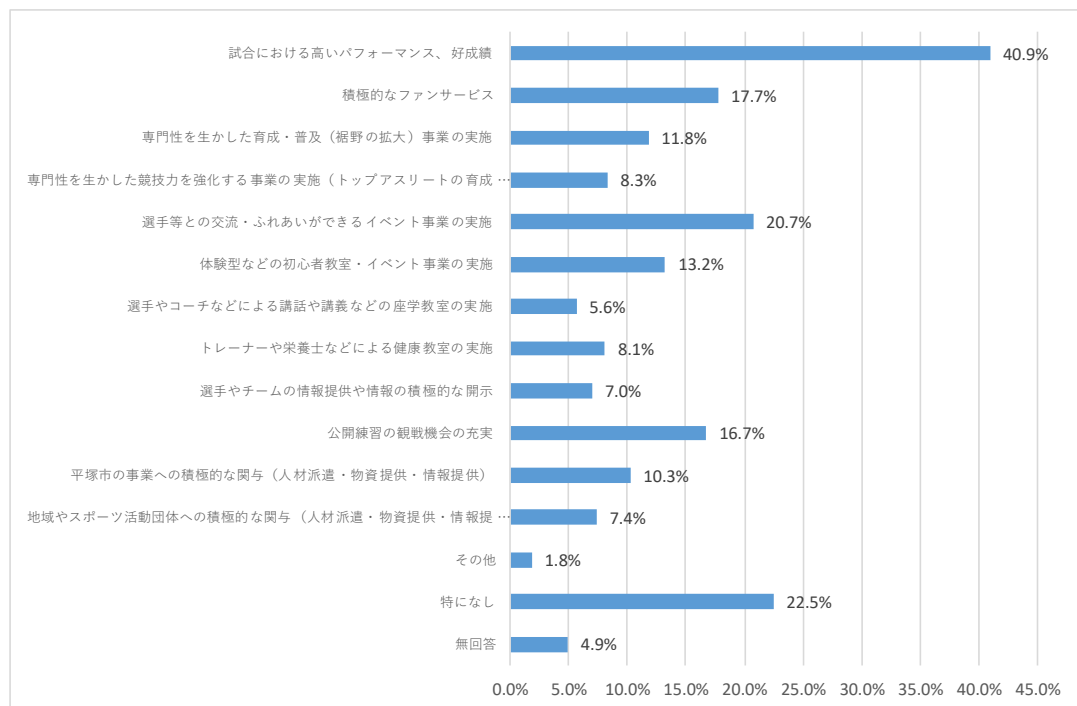
問17 総合型地域スポーツクラブに参加するとしたら、どのようなクラブに参加したいですか。(複数回答)

1 活動場所が確保されている	19.3%
2 大勢の異年齢の参加者がいる	14.9%
3 多様なスポーツ種目(種類)がある	22.7%
4 競技性の高いものから遊戯性・健康志向的な種目(レベル)が多くある	18.5%
5 多様なスポーツ指導者・サポートスタッフがいる	15.3%
6 安心・安全に配慮し親しみやすい組織運営がされている	32.1%
7 安価な料金設定・明瞭な料金体系である	36.7%
8 透明性や情報発信力の強い組織体制が整っている	8.5%
9 その他	0.9%
10 特になし	23.6%
11 無回答	6.3%



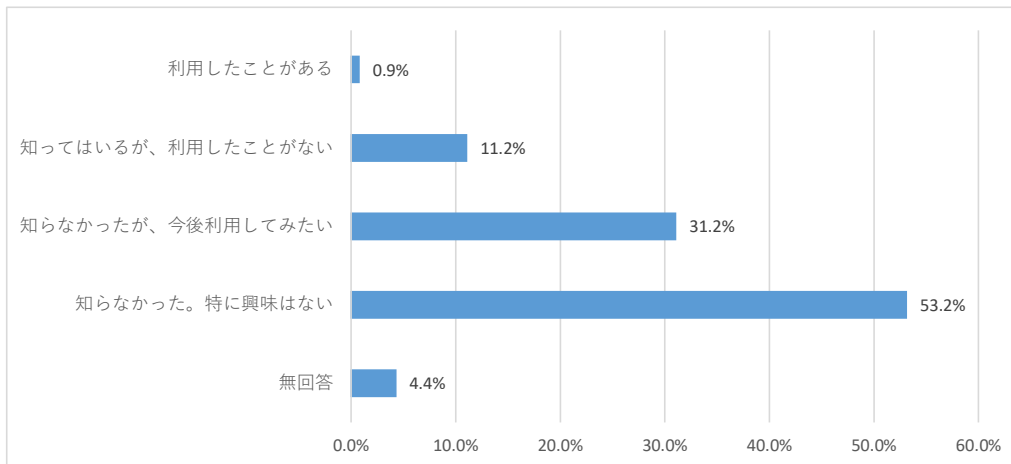
問18 湘南ベルマーレ・横浜DeNAベイスターズ・横浜ビー・コルセアーズなどトップスポーツチームに望むことはどのようなものですか。
(複数回答)

1 試合における高いパフォーマンス、好成績	40.9%
2 積極的なファンサービス	17.7%
3 専門性を生かした育成・普及(裾野の拡大)事業の実施	11.8%
4 専門性を生かした競技力を強化する事業の実施(トップアスリートの育成など)	8.3%
5 選手等との交流・ふれあいができるイベント事業の実施	20.7%
6 体験型などの初心者教室・イベント事業の実施	13.2%
7 選手やコーチなどによる講話や講義などの座学教室の実施	5.6%
8 トレーナーや栄養士などによる健康教室の実施	8.1%
9 選手やチームの情報提供や情報の積極的な開示	7.0%
10 公開練習の観戦機会の充実	16.7%
11 平塚市の事業への積極的な関与(人材派遣・物資提供・情報提供)	10.3%
12 地域やスポーツ活動団体への積極的な関与(人材派遣・物資提供・情報提供)	7.4%
13 その他	1.8%
14 特になし	22.5%
15 無回答	4.9%



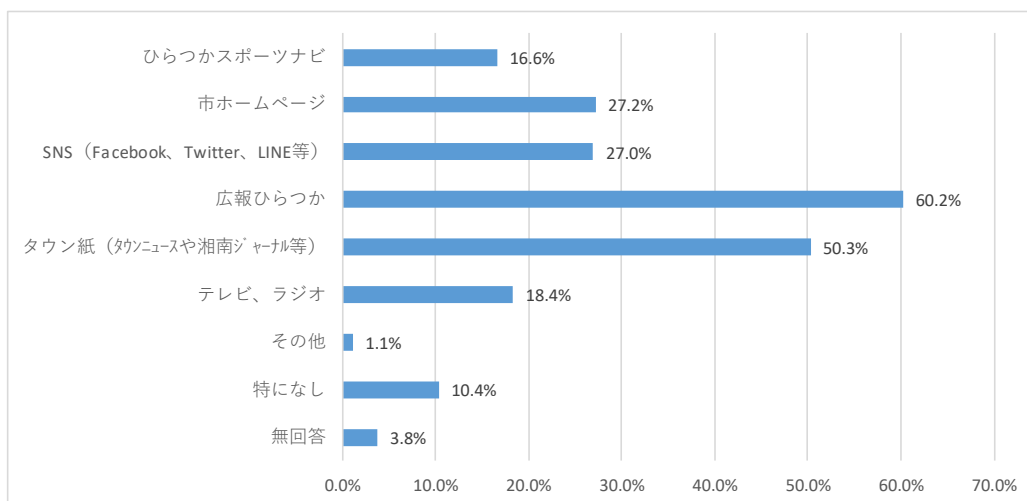
問19 市内のスポーツ情報に特化したポータルサイト「ひらつかスポーツナビ」を知っていますか。

1 利用したことがある	0.9%
2 知ってはいるが、利用したことがない	11.2%
3 知らなかったが、今後利用してみたい	31.2%
4 知らなかった。特に興味はない	53.2%
5 無回答	4.4%



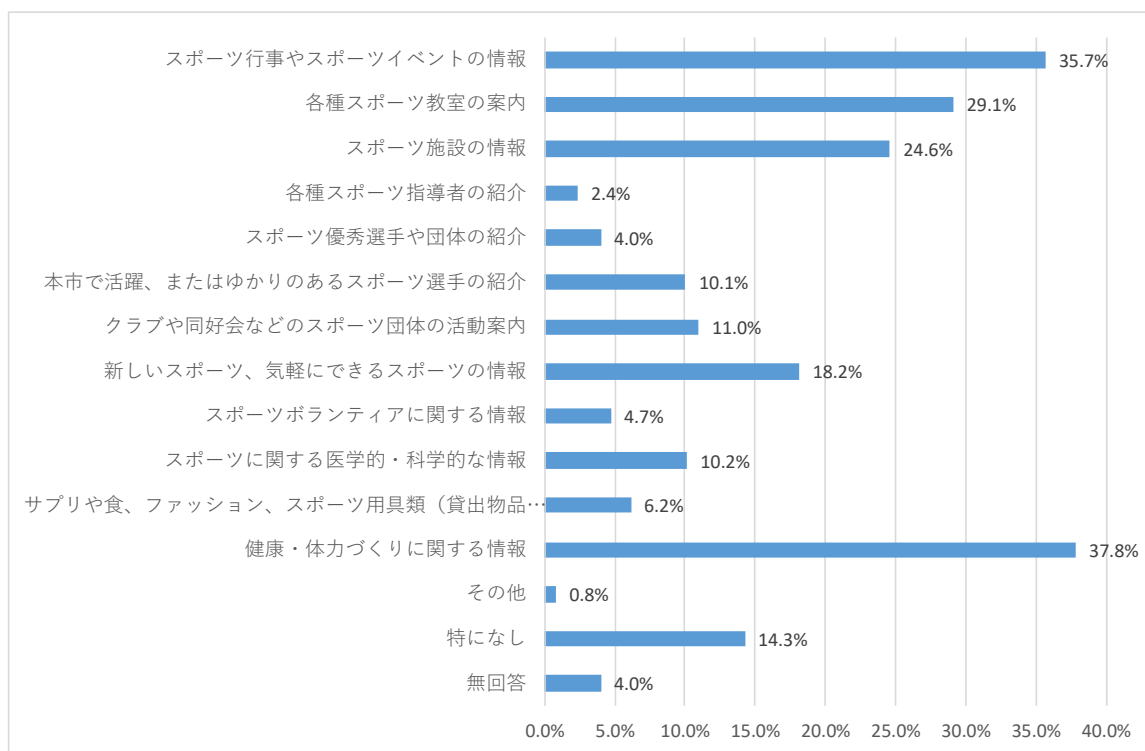
問20 運動やスポーツの情報を得るとしたら、どのような媒体がよいですか。(複数回答)

1 ひらつかスポーツナビ	16.6%	6 テレビ、ラジオ	18.4%
2 市ホームページ	27.2%	7 その他	1.1%
3 SNS (Facebook、Twitter、LINE等)	27.0%	8 特になし	10.4%
4 広報ひらつか	60.2%	9 無回答	3.8%
5 タウン紙(タウンニュースや湘南ジャーナル等)	50.3%		



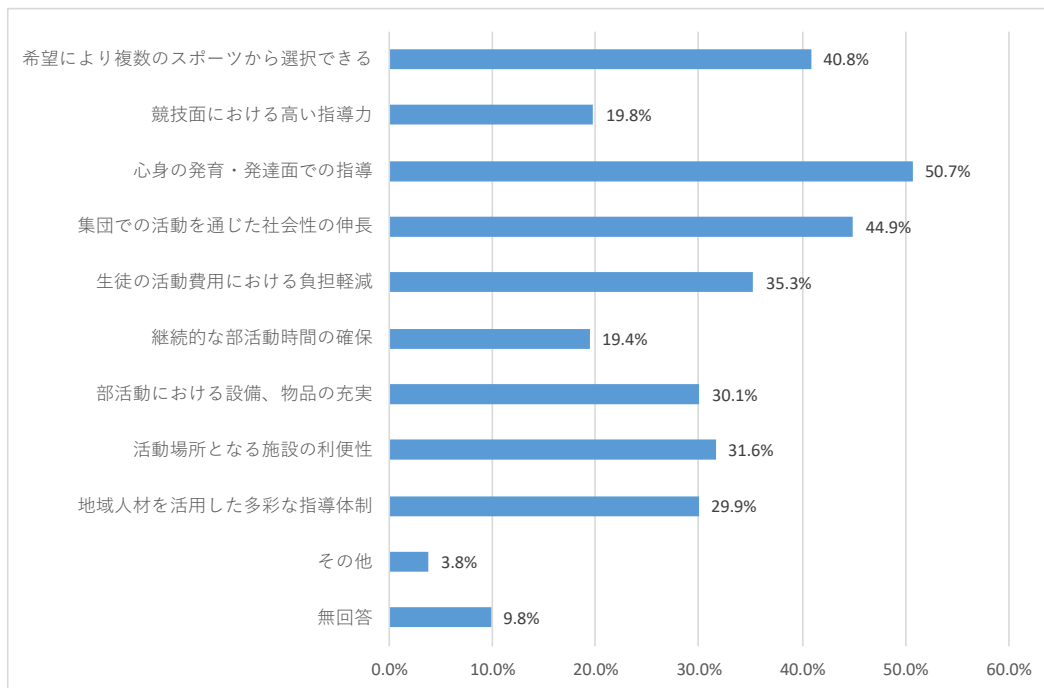
問21 運動やスポーツに関して、どのような情報が欲しいですか。(複数回答)

1 スポーツ行事やスポーツイベントの情報	35.7%
2 各種スポーツ教室の案内	29.1%
3 スポーツ施設の情報	24.6%
4 各種スポーツ指導者の紹介	2.4%
5 スポーツ優秀選手や団体の紹介	4.0%
6 本市で活躍、またはゆかりのあるスポーツ選手の紹介	10.1%
7 クラブや同好会などのスポーツ団体の活動案内	11.0%
8 新しいスポーツ、気軽にできるスポーツの情報	18.2%
9 スポーツボランティアに関する情報	4.7%
10 スポーツに関する医学的・科学的な情報	10.2%
11 サプリや食、ファッション、スポーツ用具類(貸出物品含む)などの情報	6.2%
12 健康・体力づくりに関する情報	37.8%
13 その他	0.8%
14 特になし	14.3%
15 無回答	4.0%



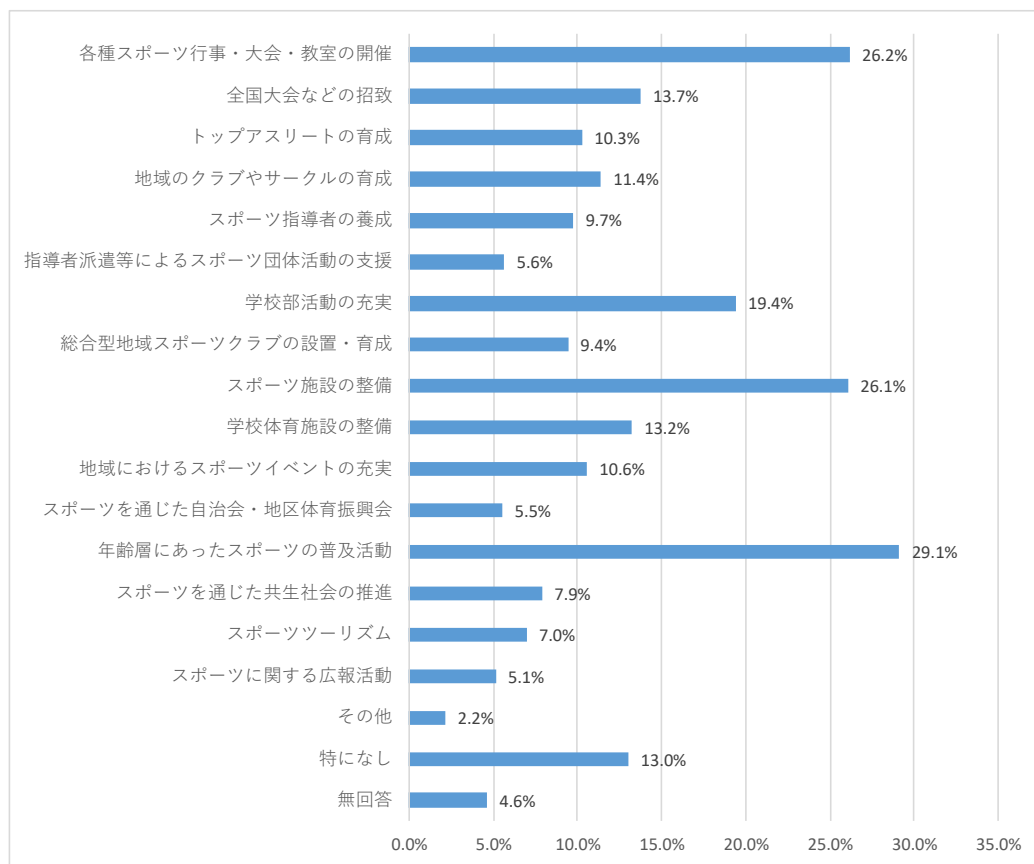
問22 学校の部活動で重要なことはどのようなことですか。(複数回答)

1 希望により複数のスポーツから選択できる	40.8%	7 部活動における設備、物品の充実	30.1%
2 競技面における高い指導力	19.8%	8 活動場所となる施設の利便性	31.6%
3 心身の発育・発達面での指導	50.7%	9 地域人材を活用した多彩な指導体制	29.9%
4 集団での活動を通じた社会性の伸長	44.9%	10 その他	3.8%
5 生徒の活動費用における負担軽減	35.3%	11 無回答	9.8%
6 継続的な部活動時間の確保	19.4%		



問23 平塚市のスポーツ振興の取組としてどのようなことを期待しますか。(複数回答)

1 各種スポーツ行事・大会・教室の開催	26.2%	11 地域におけるスポーツイベントの充実	10.6%
2 全国大会などの招致	13.7%	12 スポーツを通じた自治会・地区体育振興会	5.5%
3 トップアスリートの育成	10.3%	13 年齢層にあったスポーツの普及活動	29.1%
4 地域のクラブやサークルの育成	11.4%	14 スポーツを通じた共生社会の推進	7.9%
5 スポーツ指導者の養成	9.7%	15 スポーツツーリズム	7.0%
6 指導者派遣等によるスポーツ団体活動の支援	5.6%	16 スポーツに関する広報活動	5.1%
7 学校部活動の充実	19.4%	17 その他	2.2%
8 総合型地域スポーツクラブの設置・育成	9.4%	18 特になし	13.0%
9 スポーツ施設の整備	26.1%	19 無回答	4.6%
10 学校体育施設の整備	13.2%		



2 策定経過

年月日	内 容	備 考
R5.3.1 ～ R5.3.24	平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査	調査対象：満 20 歳から満 79 歳 までの平塚市民 3,000 人 回収数：975 件 回収率：32.5%
R5.7.24	令和 5 年度第 1 回平塚市スポーツ推進審議会	
R5.7.24	第 1 回「平塚市スポーツ推進計画」策定 ワーキング会議	
R5.10.3	令和 5 年度第 2 回平塚市スポーツ推進審議会	
R5.10.3	第 2 回「平塚市スポーツ推進計画」策定 ワーキング会議	
R5.11.6	第 3 回「平塚市スポーツ推進計画」策定 ワーキング会議	
R6.2.16 ～ R6.3.18	パブリックコメントの実施	
R6.4.26	平塚市スポーツ推進審議会会長へ諮問	
R6.5.10	令和 6 年度第 1 回平塚市スポーツ推進審議会	
R6.5.10	平塚市スポーツ推進審議会会長から答申	

3 平塚市スポーツ推進審議会委員名簿

氏 名	所属など	備 考
すやま まさあき 陶山 正明	港スポーツクラブ 会長	会長
よしはら さちえ 吉原 さちえ	東海大学 スポーツプロモーションセンター 准教授	副会長
あおう こういち 粟生 光一	平塚市スポーツ協会 副会長兼理事長	
たかはし よしひさ 高橋 佳久	平塚市体育振興連絡協議会 会長	
でん だ みのる 傳田 實	平塚市スポーツ推進委員協議会 副会長	
すずき と き お 鈴木 登喜雄	平塚レクリエーション連盟 副会長	
たかはし あつし 高橋 篤	平塚市スポーツクラブ連合 会長	
まつもと やすし 松本 靖史	神奈川県立高等学校平塚・秦野地区校長会	
ひらいて よしお 平出 善男	平塚市中学校体育連盟	
くろやなぎ たけし 畔 柳 豪	NPO 法人湘南ベルマーレスポーツクラブ	
いまむら よしひろ 今村 佳広	平塚商工会議所	
いのうえ じゅんいち 井上 純一	公益財団法人平塚市まちづくり財団 理事長	
こばやし みゆき 小林 みゆき	平塚市健康推進員連絡協議会	
いわい み ゆ き 岩井 美由紀	一般社団法人平塚市観光協会	
むらた せつこ 村田 節子	市民公募	

(令和6年3月現在)

第2期平塚市スポーツ推進計画

～誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか～

令和6年（2024年）5月発行

編集・発行 平塚市教育委員会社会教育部スポーツ課

〒254 - 8686

神奈川県平塚市浅間町9番1号

TEL 0463-31-3060

FAX 0463-34-5522

E-mail sports@city.hiratsuka.kanagawa.jp

